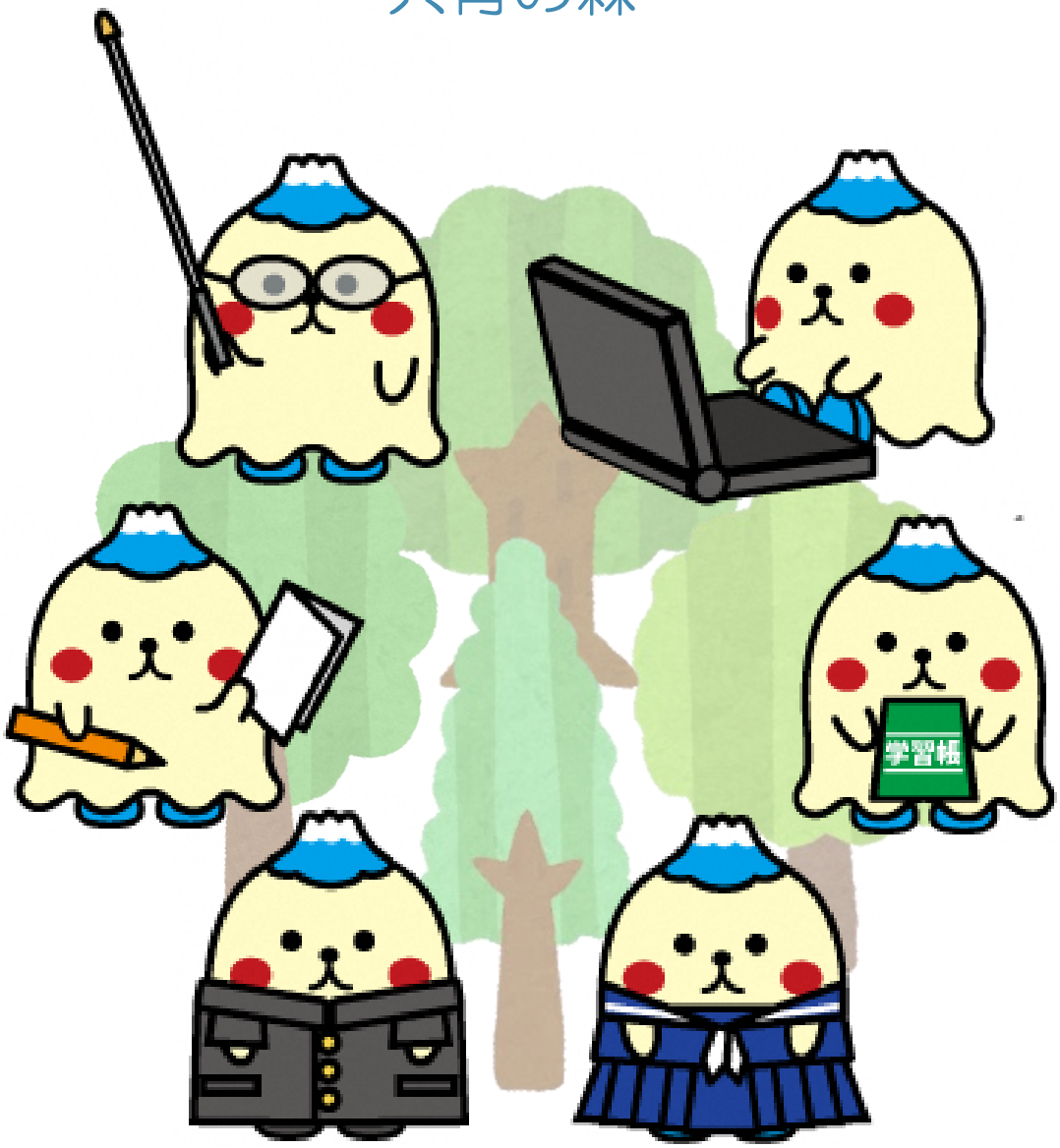
第２期 裾野市教育振興基本計画

共育の森



令和３年３月

裾野市教育委員会

はじめに

市長あいさつ

令和３年１月、本市は「第５次裾野市総合計画」を策定しました。教育部門の施策の柱は「ひとりひとりが役割を持ち輝けるまち」として、「みんなが誇る田園未来都市　すその」の実現を目指します。市民の皆さんが自発的に参画し、共にまちづくりに取り組む「共創」の理念のもと、すべての起点となるひとづくり「共育」として取組を進めております。

社会の変化が激しい中、子どもたちが将来にわたり、たくましく生き抜いていくためには、やり抜く力や失敗をおそれずにチャレンジする力を養う教育が重要となります。併せて、将来の地域を担う人材の育成も必要不可欠になります。また、社会人となった後も学びを重ね、新たな知識や技能、教養を身に付けることが必要です。「人生 100 年時代をより豊かに生きる」ため、教育を通じたひとりひとりの「可能性」と「チャンス」を最大化する取組の必要性が高まっています。

現代社会は狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会の次の５番目の社会としてSociety5.0(超スマート社会)を迎えます。学校教育では新型コロナウイルス感染症による影響でデジタル化が一気に加速し、ＧＩＧＡスクール構想が前倒しされました。本市としましても市独自の次世代型近未来都市構想となる「スソノ・デジタル・クリエイティブシティ構想（ＳＤＣＣ構想)」を進めています。ＳＤＣＣ構想の方向性のひとつとして「グローバル人材の育成とＩＣＴ環境の整備」ということを掲げています。

この度、第５次裾野市総合計画の策定に合わせ、第２期裾野市教育振興基本計画を策定いたしました。地域資源を活用した地域教育を深め、学校・地域・家庭と連携しながら一人一人を大切にする「人づくり」を推進していくことは裾野市にとって重要であります。そのため、引き続き基本理念を「学びあい、高めあいながら、人間性豊かに未来を目指す人づくり」の実現に向けて邁進してまいります。

結びに本計画の策定にあたり、ご尽力いただきました裾野市教育振興基本計画検討委員会の委員の皆様をはじめ、計画策定にご協力いただきました関係各位に深く感謝申し上げますとともに、市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

令和３年３月

裾野市長　髙村　謙二

教育長あいさつ

この度、「第５次裾野市総合計画」の策定に合わせ、「第２期裾野市教育振興基本計画」を策定いたしました。本計画は第１期の計画をふまえ課題を見極め、引き続き「学びあい、高めあいながら、人間性豊かに未来を目指す人づくり」を基本理念としました。

本市の特色を生かし、裾野市の教育は将来こうあってほしいと５年後の裾野を見据えて計画を策定しました。自分の育った郷土を愛すること、大切にすること、そして生き生きと子どもたちが学び続けられるよう、学校と家庭と地域が連携しながら、裾野市の魅力ある教育施策が推進していくことを願っております。

学校教育のニーズは増々多様化され課題は複雑化しております。今後は地域と学校が連携していくことがさらに重要であると思われます。人は人とのかかわりの中で生き、子どもたちは地域で明るくたくましく育っていきます。子どもたちの問題を解決することは、地域の問題を解決することにも繋がります。そこで、裾野市教育委員会では「地域と結びついた学校づくり　共育の森」を重点プランとして掲げました。地域と学校が相互に活用、協力することで、子どもも大人も学びあい育ちあう教育体制を構築していきます。「共育の森」が市民の皆さんに定着していただけたらと思います。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、デジタル化が急務となり、ＧＩＧＡスクール構想としてＩＣＴ環境整備が加速化しました。令和３年度から児童生徒に一人に１台ずつ端末が使用できることになり、学校教育環境は大きな変革期を迎えます。次代を切り拓く子どもたちは、情報活用能力をはじめ、言語能力や数学的思考力などこれからの時代を生きていく上で基盤となる資質・能力を確実に育成していく必要があります。

本計画で定めた基本理念のもと、夢と希望を持ち、一人一人の持つ優れた資質や、可能性を最大限に伸ばす多様な生き方や、価値観を受けいれる地域の一員として活躍できるよう全力で教育行政に取り組んでまいります。

計画の策定にあたりまして、裾野市教育振興基本計画検討委員会委員の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心より感謝と御礼を申し上げます。

令和３年３月

裾野市教育委員会
教育長　風間　忠純

目次

序　章 6

１　裾野市教育振興基本計画の趣旨 6

２　計画の位置づけ 7

３　計画の期間 7

第１章　裾野市の教育を取り巻く状況 8

１　社会の動向 8

２　裾野市の教育の現状 11

第２章　第１期計画の取組における成果と課題 14

１　第１期計画の取組における成果と課題 14

Ⅰ　豊かな心を育む教育を進める 14

Ⅱ　学校の教育力を高める 18

Ⅲ　安全安心な学校づくりを進める 21

Ⅳ　自ら学び活動する生涯学習を支援する 22

Ⅴ　心の豊かさと、ふるさと「すその」への愛着心を育む 24

Ⅵ　学校、地域、家庭の連携により、社会全体の教育力を高める 26

第３章　裾野市が目指す教育の姿 30

１　計画の基本構想 30

２　計画の基本方針 31

３　計画の体系と重点プラン 32

第４章　各論 34

１　施策の内容 34

Ⅰ　豊かな心と健やかな体を育む教育を進める 34

Ⅱ　社会の変化に対応する確かな学力を高める 46

Ⅲ　安全安心で質の高い学校環境づくりを進める 50

Ⅳ　一人一人の成長を支え生涯学び続ける力を支援する 52

Ⅴ　学校・地域・家庭の連携により教育力を向上させる 58

第５章　計画の実現に向けて 63

参考資料 65

裾野市教育に関するアンケート調査 69

裾野市学校教育情報化推進計画 99

序　章

1　裾野市教育振興基本計画の趣旨

「教育基本法」において、その基本理念等を実現していくため、同法第17条に、

① 国は、教育の振興に関する施策についての基本的な方針及び講ずべき施策等について基本的な計画を定めなければならない

② 地方公共団体は、国の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない

という旨が規定されており、「教育基本法」の趣旨に基づき、本市の実情に合わせた中長期的に取り組むべき教育施策を示すものとします。

平成27年３月に策定した「裾野市教育振興基本計画」は「学びあい、高めあいながら、人間性豊かに未来を目指す人づくり」という基本理念に基づき学校、家庭、地域など連携を深めながら取り組みを進めて参りました。策定から５年経過しこれまでの達成状況を検証し、現行計画の理念を引き継ぎつつ現行計画の進行状況を踏まえた課題や社会の変化を見据えた課題等へ対応していくための計画策定をする必要があります。

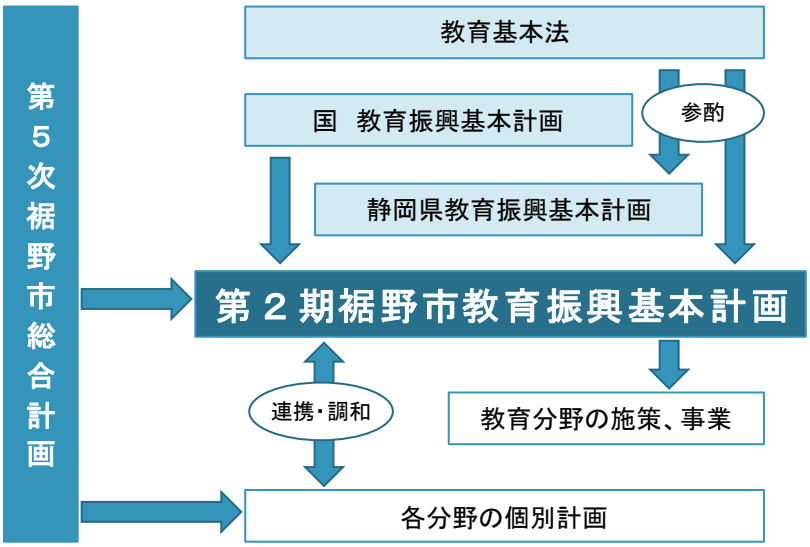
市では児童生徒数の減少や学校施設の老朽化、子どもたちを取り巻く環境について検討するため「裾野市の教育のあり方検討委員会」を立ち上げ、子どもたちのための学校教育に適した学校規模や再編について検討してきました。そういった検討内容を踏まえ第２期は学校のあるべき教育環境の実現や問題解決に向けた教育政策の基本的な方針を示します。

2　計画の位置づけ

◆　本計画は、「教育基本法」第17条第２項に基づく本市の教育振興基本計画として位置づけます。

◆　本計画は、「第５次裾野市総合計画」の教育分野の総合的計画として、本市の教育振興のための施策を総合的・体系的に位置づけます。

◆　本計画は、固定されているものではなく、社会情勢の変化等に伴い変更の必要が生じた場合は、速やかに見直し、時宜に応じた教育の指針を示すものです。



3　計画の期間

本計画は、「第５次裾野市総合計画」の前期基本計画期間（令和３年度～７年度）との整合性を図るため、令和３年度から令和７年度までの５年間の計画とします。

なお、本計画は教育環境の変化等に柔軟に対応するため、計画期間中でも見直しを図ることもあります。

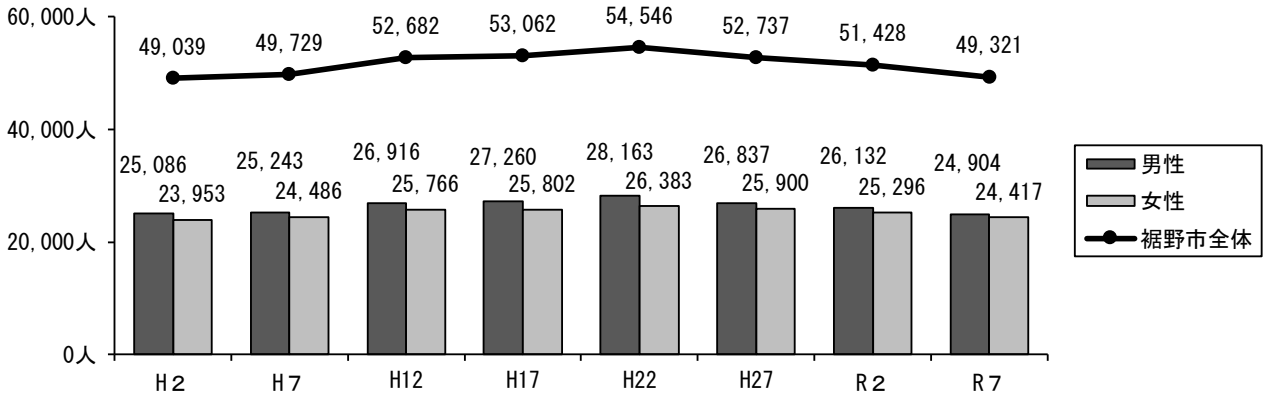
第１章　裾野市の教育を取り巻く状況

１　社会の動向

●　少子高齢化と人口減少

平成 27 年国勢調査では、本市の人口は 52,737 人となっています。全国的にも人口は減少傾向にあり、本市の人口は平成 22 年をピークに減少し、今後も減少が続くと予測されています。

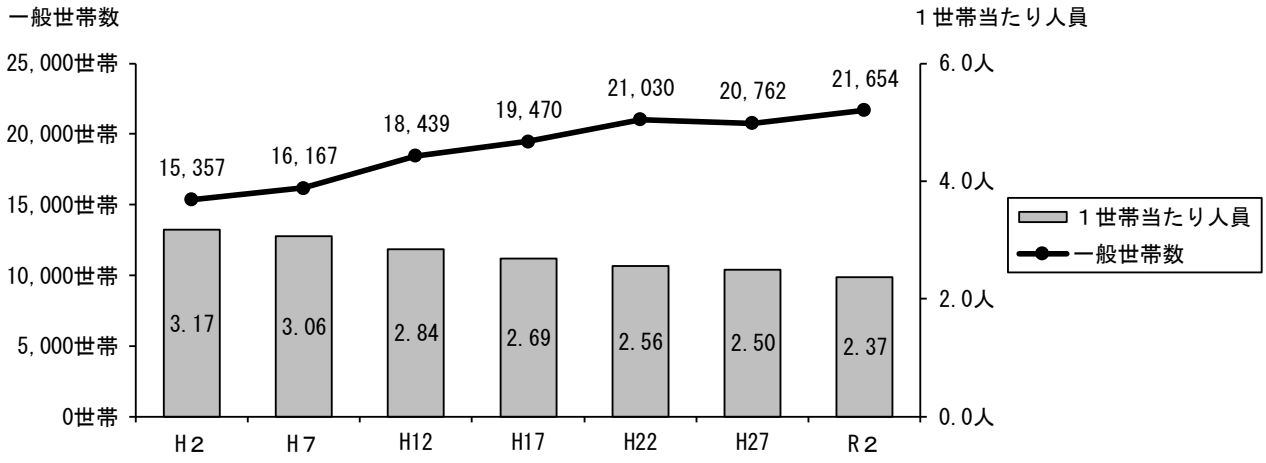
【裾野市の人口の推移】



資料：総務省統計局『国勢調査』（平成２年～27 年）、裾野市市民課（令和２年）
令和７年は国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成 30 年３月推計）

国勢調査によると、一般世帯数は平成 22 年度で 21,030 世帯だったものが、平成 27 年度には 20,762 世帯となっています。この間、１世帯当たりの人員は 2.56 人から 2.50 人になり、小家族化も進んでいます。

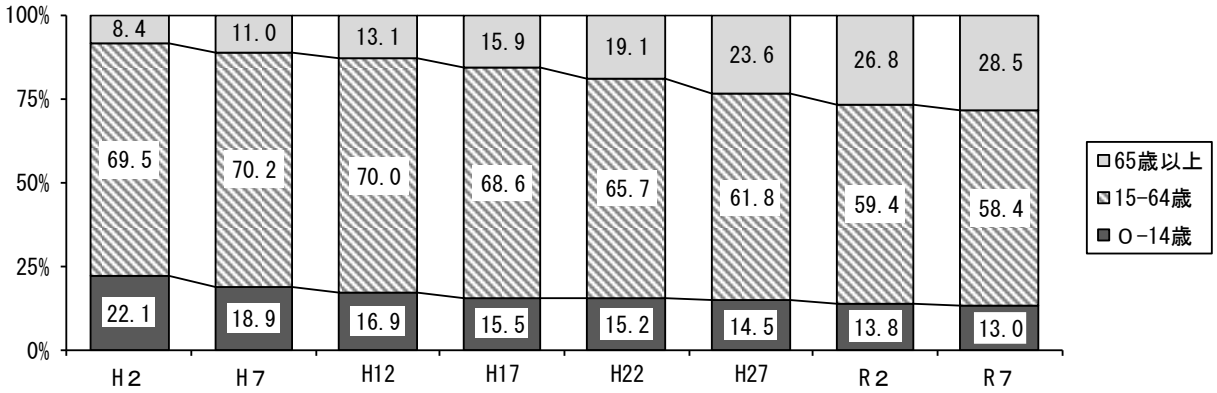
【裾野市の一般世帯数・１世帯当たり人員の推移】



資料：総務省統計局『国勢調査』（平成２年～27 年）、裾野市市民課（令和２年）

年少人口割合（０～14 歳）は年々減少し、老年人口割合（65 歳以上）は年々増加すると推測されます。少子化により本市でも、子ども同士の切磋琢磨の機会が減少すること、親の子どもに対する過保護・過干渉を招きやすくなること、子育てについての経験や知恵の伝承・共有が困難になること、学校や地域において一定規模の集団を前提とした教育活動やその他の活動（学校行事や部活動、地域における伝統行事等）が成立しにくくなること等が懸念されています。また、高齢化の進行により、高齢者の健康・生きがいづくりは、今まで以上に重要となります。健康づくりに対するサポートや社会的な活動の場を提供するなど、健康寿命の伸長に向けた社会の実現が求められます。

【裾野市の年齢構成比の推移】



資料：総務省統計局『国勢調査』（平成２年～27 年）、
令和２年以降は国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成 30 年３月推計）

● ＩＣＴ技術の進展と求められる力

ＩＣＴ[1]技術の進展によって社会・経済の構造が大きく変化していく中で、新しい価値やサービスが創出される新たな社会として「Society5.0[2]」の実現が提唱されています。Society5.0では、定型的業務や数値的に表現可能な業務はＡＩ[3]技術により代替可能となりますが、日本ではＡＩに関する研究開発の人材が不足していると指摘されています。

Society5.0において今後求められる力は、ＡＩ技術にない人間の強みである「文章や情報を正確に読み解き対話する力」「科学的に思考・吟味し活用する力」「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力」であると文部科学省では解説しています。こうした力を育み、新たな社会をけん引する人材として、技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造できる人材や、ＡＩやデータを最大限活用し展開できる人材などが挙げられています。

一方で、インターネットやＳＮＳ[4]（ソーシャルネットワーキングサービス）等の情報通信技術の進展により、それを利用したいじめや犯罪に巻き込まれるケースも多くなっています。また、匿名での誹謗中傷から訴訟に発展したり、自殺に追い込まれたりなど、深刻な問題も発生しています。

● 地域とのつながりと郷土愛

少子化、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化等の社会環境を背景として、子ども同士や異年齢の人との交流が減少し、地域でのつながりが希薄化しています。地域の慣習・伝統の継承や、規範意識の醸成などが困難になるとの問題も指摘されています。

---

1 ＩＣＴ……情報・通信に関する技術の総称（Information and Communication Technology の略）。

2 Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０……狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会のこと。内閣府による第５期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

3 ＡＩ……Artificial Intelligence の略で、人工知能と訳される。

4 ＳＮＳ……インターネットを利用した、個人間のコミュニケーションを促進する社会的なネットワーク（Social Networking Service の略）。

2　裾野市の教育の現状

●　児童生徒数の推移

小学校においては、昭和 58 年をピークに全体の児童数は減少しています。しかし、平成 25 年度から西小学校、南小学校の児童数は増加しており、学区により傾向は異なります。中学校においては、昭和 63 年度をピークに全体の生徒数は減少しています。ただし、西中学校は西小学校、南小学校が増加するため数年後は増加する見込みです。

【各小学校の児童数の推移】

学校名	S53	S58	S63	H5	H10	H15	H20	H25	H30	R1	R2
東　小	1,428	1,647	1,409	828	751	686	721	670	660	625	620
西　小	1,004	1,138	954	816	696	780	689	649	703	703	719
深良小	484	684	636	477	345	308	339	329	294	281	270
富一小	916	1,137	1,254	938	717	654	575	551	502	494	490
富二小	43	73	81	54	150	206	151	123	112	109	93
須山小	137	142	163	163	133	111	122	134	107	109	104
向田小	－	－	－	487	338	227	221	196	120	118	98
千福小	－	－	－	332	348	239	153	131	124	125	126
南　小	－	－	－	－	－	－	207	257	289	281	274
合　計	4,012	4,821	4,497	4,095	3,478	3,211	3,178	3,040	2,911	2,845	2,794

【各中学校の生徒数の推移】

学校名	S53	S58	S63	H5	H10	H15	H20	H25	H30	R1	R2
東　中	533	711	853	636	600	493	435	467	400	409	413
西　中	440	543	588	478	393	368	395	427	401	409	396
深良中	186	258	374	336	247	147	132	143	157	153	142
富岡中	433	440	589	657	566	556	440	392	371	346	370
須山中	74	81	89	91	88	65	51	65	61	54	52
合　計	1,666	2,033	2,493	2,198	1,894	1,629	1,453	1,494	1,390	1,371	1,373

● 学校施設の現状

小学校・中学校の学級数は平成 22 年度から変化は見られませんが、学校によって規模の差があります。

学校施設の老朽化が進行しており、大規模改修工事は全学校施設終了したものの、築 50 年以上を経過した校舎が多数あります。

【各小学校の規模】　　令和２年５月１日現在

学校規模	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模
学級数	1～5	6～11	12～18	19～30	31 以上
学校名と学級数		深良小(11) 富二小(6) 須山小(6) 向田小(6) 千福小(6)	富一小(16) 南小(12)	東小(19) 西小(24)	

資料：公立小・中学校の国庫負担事業認定申請の手引きより

【各中学校の規模】　　令和２年５月１日現在

学校規模	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模
学級数	1～2	3～11	12～18	19～30	31 以上
学校名と学級数		須山中(3) 深良中(6)	東中(12) 西中(13) 富岡中(12)		

資料：公立小・中学校の国庫負担事業認定申請の手引きより

【建築50年を経過した学校施設】　　令和２年４月１日現在

学校名			構造	階数	床面積(㎡)	建築年	経過年数(年)	大規模改修年
東　小	北校舎	東側	ＲＣ	3	959	Ｓ44	50	Ｈ２
		西側	ＲＣ	3	918	Ｓ43	51	Ｈ２
西　小	北校舎	東側	ＲＣ	3	2,538	Ｓ44	50	Ｈ３
	南校舎	東側	ＲＣ	3	771	Ｓ44	50	－
富岡中	北校舎	西側	ＲＣ	3	3,110	Ｓ42	52	Ｓ59

●　ＩＣＴ教育の現状

国のＧＩＧＡスクール構想による１人１台端末整備が令和２年度中に実現します。合わせて全普通教室に「わかる授業にする」ための大型提示装置も整備します。災害や感染症の発生等による学校の臨時休業の緊急時においてもＩＣＴの活用によりすべての児童生徒の学びを保障できる環境となります。

第２章　第１期計画の取組における成果と課題

１　第１期計画の取組における成果と課題

第１期裾野市教育振興基本計画の成果と課題を考察します。

Ⅰ　豊かな心を育む教育を進める

１.「生きる力」の基礎を築く乳幼児教育の推進

(1) これまでの取組の成果と課題

○ 効果的な園運営と乳幼児教育の質の向上を図るため、教育・保育等の供給体制の確保の方策の検討資料として、「子ども・子育て支援事業計画」を作成しました。

○ 幼児施設に関しては、「裾野市幼児施設整備基本構想改訂版　裾野市公立教育・保育施設再編計画」を作成し、将来を担う子どもたちの教育・保育の場としての公立教育・保育施設の再編、統合、民営化、複合化に係る基本的な考え方・方向性を定めました。

○ 女性の就労機会の増加により、幼稚園から保育園への需要のシフトに対応していくために、施設の再編、民営化など受け入れ体制の施策を講じる必要があります。また、教育・保育の一体的提供及び提供体制の確保を図るため、認定こども園設置に向けた取り組みが必要です。ファミリーサポートセンター[5]会員の「お願い会員」への偏りにより需給調整が困難になりつつあります。

○ インクルーシブ保育[6]等多様な保育サービスの導入を検討し、保育サービスの拡大を図る必要があります。

(2) 指標の進捗状況

	内　容	H26	目標（R2）	R1
①	認定こども園化へ向けて（具体化）	1/17 園	4/18 園	1/17 園
②	認定こども園化へ向けて（実施）	0/17 園	1/18 園	0/17 園
③	巡回相談対応件数	公私立幼保計 141 回	200 回	公私立幼保計 170 回
④	保育園待機児童数 幼稚園３歳児待機児童数	0 人 46 人	0 人 0 人	0 人 0 人

①※園や地区などの話し合いが行われている数②※認定こども園化を完了した施設①～④保育課資料

5 ファミリーサポートセンター……子育てのサポートをしてほしい人（お願い会員）と子育てのサポートをしたい人（まかせて会員）が会員となって、一時的な子どもの世話を有料で行うシステム。
6 インクルーシブ保育……子どもの年齢や国籍、障がいといった「違い」をすべて受け入れる保育。

２．豊かな人間性の育成

(1)これまでの取組の成果と課題

○ ほんものとふれあう学習の充実のために、観劇教室や音楽鑑賞教室などの芸術鑑賞教室、スポーツ選手等の講話、実技教室等実施しました。

○ 鈴木図書館と連携し、所蔵の図書を小学校、中学校各学年向けに選択した図書の団体貸し出し「学級文庫パック」の実施や、読み聞かせ事業「おはなし会[7]」、乳幼児に絵本をプレゼントする「ファーストブック[8]」「セカンドブック[9]」を開催しました。

○ ふるさと学習は郷土知識の習得に終わってしまい、子どもたちが郷土への愛着を持ち、郷土の未来について自分事として考えるところまで発展していないのが課題となっています。

○ 国の施策や動向を踏まえ、今後は「地域学校協働本部事業」の趣旨となる、学校の支援から子どもの成長に向けた多様な支援に活動を広げていく必要があります。

(2)指標の進捗状況

	内　容	H26	目標（R2）	R1
①	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	小学生 85% 中学生 70%	小学生 90% 中学生 80%	小学生 83% 中学生 73%
②	読書が好きな児童生徒の割合	小学生 69% 中学生 72%	小学生 80% 中学生 80%	小学生 71% 中学生 67%
③	地域の歴史や文化への興味がある児童生徒の割合	小学生 40% 中学生 27%	小学生 60% 中学生 50%	小学生 31.4% 中学生 18.6%

①②学力・学習状況調査③裾野市教育に関するアンケート

３．健やかな成長の推進

(1)これまでの取組の成果と課題

○ 子どもたちの体力向上のために、小学校では「１校１運動」を継続し、体力アップコンテストの参加を推奨することで、全国平均を上回る学年種目も出てきました。中学校では部活動において運動量を確保していることから、小学校からの大幅な記録向上が毎年見られました。

○ 安全安心な学校給食と食育の推進を図るため、給食の時間を利用し、食に関する指導を実施しました。また、毎月ふるさと給食の日を設定し、地域の産物や旬の食材を活用しました。

○ 生活指導、食育指導をしても、家庭生活では就寝時刻が遅く寝不足の子も見られました。

○ 老朽化の進んでいる給食施設の今後の方向性を検討し、それを見据えた対応、取り組みが必要です。

7 おはなし会……子どもたちを集めて、年齢に合った絵本の読み聞かせを行う。乳幼児向け、幼児・小学校低学年向けなど曜日や時間帯を変え実施する事業。

8 ファーストブック……６ケ月の赤ちゃんと保護者の方に、絵本などが入ったバッグを贈り、赤ちゃんと絵本の出会いをつくり、赤ちゃんの周りにいる大人などが、絵本の読み聞かせを行う環境づくり事業。

9 セカンドブック……２歳児と保護者の方に、絵本などが入ったバッグを贈り、幼児期の成長や興味に合う絵本により、家庭での読み聞かせの機会を増やし、子どもの健やかな成長を目指す事業。

(2)指標の進捗状況

	内　容	H26	目標（R2）	R1
①	新体力テストの数値	小学生 全国平均よりやや低い 中学生 全国平均同等	小学校、中学校とも全学年男女全国平均を上回る	小学生 全国平均よりやや下回る 中学生 全国平均よりやや上回る
②	給食の時間が楽しいと答える児童生徒の割合（「そう思う」、「少しそう思う」の合計）	小学生 89.0% 中学生 83.4%	小学生 95% 中学生 90%	小学生 88.7% 中学生 84.8%

①体力テスト②裾野市教育に関するアンケート

４．一人一人を大切にする教育の推進

(1)これまでの取組の成果と課題

○ 特別な支援が必要な児童生徒に対し、支援員、巡回相談員の配置により、個に応じた支援や園・関係機関との連携が図られ、校内委員会の設置、教育支援計画等の作成により、組織的・継続的な支援が行われました。

○ 「裾野市いじめ防止基本方針」を策定し、市内 14 小中学校では、それを基にして各校のいじめ防止基本方針を作成しました。いじめ問題対策連絡協議会を毎年２回実施し、市内で発生したいじめ事案についての情報共有の意見交換をしました。

○ 特別な支援を必要とする児童生徒の増加に伴い、専門的知識を備えた教員と特別支援員の配置、研修や相談体制の強化、通級指導教室の増設が不可欠です。また、発達障害に係る専門的な医療の受診、連携が確立しておらず、学校だけでは対応しきれない案件が増えています。

○ ＳＮＳによるいじめや不登校児童生徒数が年々増加しています。不登校児童生徒の対応は方針の見直し、連携強化を図る必要があります。一人一人にどのような支援が適切であるのか、他機関を交えて協議できるようにケース会議の持ち方を工夫する必要があります。

(2)指標の進捗状況

	内　容	H26	目標（R2）	R1
①	学校が楽しいと感じる児童生徒の割合	小学生 87% 中学生 80%	小学生 90% 中学生 90%	小学生 87% 中学生 82%
②	不登校児童生徒の学校への復帰率	55%	75%	25.7%

①学力・学習状況調査②学校教育課資料

５．国際理解教育の推進

(1)これまでの取組の成果と課題

○ 生きた英語での活動を通してコミュニケーション能力を育て、国際理解を進め、世界で活躍するために、ＡＬＴの小・中学校への派遣やイングリッシュ・サマー・デイを実施したことで、小学校時代から英語や外国の人と触れ合うことができ、国際理解が進むとともに、コミュニケーション力を養うことができました。また、小学校の授業にＡＬＴが入ることで、子どもだけでなく教員も生きた英語を学ぶことができました。

○ 幼児期にＡＬＴと触れ合う機会があるが、小学校１・２年生ではその機会が全くなくなり、つながりが切れてしまっています。小学校英語の充実を図るためにも、ＡＬＴの配置体制の見直しを図る必要があります。

(2)指標の進捗状況

	内　容	H26	目標（R2）	R1
①	ＡＬＴとの授業や関わりが楽しいと感じる割合	小学校 93% 中学校 88%	小学校 95% 中学校 90%	小学校 86% 中学校 90%
②	外国語に興味がある園児の割合	―	70%	69.2%

①学力・学習状況調査②保育課調査

Ⅰ　裾野市教育委員会評価委員会[10]意見一部抜粋

- 学校支援地域本部事業を継続し、コミュニティ･スクール化を見据えて地域に学校の教育活動を発信していることは評価できるが、子育て世代以外に浸透するよう工夫改善していただきたい。
- 「ふるさと学習」では、文化財保護審議会などの協力を得ることも必要と感じる。
- 増加傾向にある不登校児童生徒への対応で、方針の見直しや他機関を交えて協議するケース会議の持ち方を工夫しようとする方向性は評価でき、実践化に努めていただきたい。

10 裾野市教育委員会評価委員会……地方教育行政の組織及び運営に関する法律　第 27 条で、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない、と定められている。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとなっている。

Ⅱ　学校の教育力を高める

１．確かな学力の向上

(1) これまでの取組の成果と課題

○ 学力向上ボランティア事業により放課後や長期休業中の学習支援を実施したことで、個別に基礎基本の定着を図る機会が増えました。

○ 市講師・支援員等の配置により、良好な学習環境の維持はできており、授業がわかると答える児童生徒の割合の増加につながりました。

○ 家庭での勉強についての調査によれば、自分で計画を立てて勉強している子の割合は少なく、また時間的にも十分とはいえないという結果が出ています。学習習慣の定着は依然課題となっているので、その目的を理解させたり、場を設定したりすることが必要です。

(2) 指標の進捗状況

	内　容	H26	目標（R2）	R1
①	授業が分かると答える児童生徒の割合	小学生 75% 中学生 71%	小学生 85% 中学生 80%	小学校 86% 中学校 70%
②	家で復習をしていると答える児童生徒の割合	小学生 50% 中学生 44%	小学生 70% 中学生 70%	小学校 68% 中学校 46%

①②学力・学習状況調査

２．頼もしい先生の育成・支援

(1) これまでの取組の成果と課題

○ 「学びの森[11]」の事業は、教職員研修を充実するため、新規採用教員研修、2 年目等研修、講師・支援員研修を充実させ、昨今の教育問題に対応できる資質の向上につながりました。昼カフェ、You カフェ、夜カフェを企画・運営し、実践的指導力の向上や個々のスキルアップにつながりました。

○ 指定研究や授業改善・充実助成制度の活用により、学校が積極的に授業づくりに関する研修を推進することができました。

○ 教職員用のパソコン管理が校務支援対策の推進として出席簿、成績処理に限らず、連絡手段の一つとして各校で有効に使われました。会議時間の削減、報連相の徹底など課題となっていた部分も改善されました。

○ 若手教員が増えてくる中、授業力をはじめとした教員の資質向上は喫緊の課題です。「学びの森」の指導の充実とともに、ＯＪＴや組織的な取り組みが求められます。

11 学びの森……専門の指導員を配置し、教職員の資質向上や授業改善への支援、学校と地域との連携支援を行う。また、学び合える研修交流の場としての教育サロン的な役割を担う教育支援拠点。

(2)指標の進捗状況

	内　容	H26	目標（R2）	R1
①	学校外での研修によく参加する教職員の割合	73%	90%	93%
②	「先生はあなたのことを認めてくれていると思う」と感じる児童生徒の割合	小学生 81% 中学生 78%	小学生 85% 中学生 85%	小学生 89% 中学生 86%

①②学力・学習状況調査

３．学校間連携の推進

(1)これまでの取組の成果と課題

○ 小中学校の９年間を一体のものととらえ、発達段階を踏まえた教育内容と方法の継続性、系統性を重視した小中連携教育を推進するため、研修主任研修会や特別支援教育研修会等では、小・中の教育課程等の情報交換を行いました。また、２年次研修で異校種体験を行いました。

○ 「小１プロブレム[12]」「中１ギャップ[13]」を作らないために、中学校区内の幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携を継続的に行いました。

(2)指標の進捗状況

	内　容	H26	目標（R2）	R1
①	指導内容等について近隣の小学校（中学校）と連携している学校の割合	48%	100%	64%
②	私立公立園を含めた小学校との交流行事の回数	―	各園年 2 回以上	2.5 回/年 （公立園）

①学力・学習状況調査②保育課調査

４．情報教育の推進

(1)これまでの取組の成果と課題

○ ＩＣＴ機器を効果的に活用し、子どもたちの学習への興味関心を高めるため、パソコン室の更新、電子黒板、カート式パソコン等を整備しました。利用率が上がっていることから、教職員の授業改善への意欲が見られます。

○ 夏休みにプログラミング教室を開催したり、プログラミング推進委員会を発足させたりなど、主に小学校の教育課程での位置づけを協議しました。

○ 情報活用、情報モラル教育は、主に小学校高学年に行われていますが、実際のネットトラブルは低年齢化しています。保護者アンケートでも、心配なこととして「携帯やスマートフォン、インターネットなどの使い方」が平成 26 年度より増えています。早期からの取り組みを検討する必要があります。

12　小１プロブレム ……小学校へ入学したばかりの１年生が、集団行動がとれない、授業中椅子に座っていられないなど、小学校の生活になかなか馴染めない状態が数か月継続する状態を言う。
13　中１ギャップ……中学１年生になったことがきっかけとなり、学習や生活の変化になじめずに不登校やいじめが増加する現象。

(2)指標の進捗状況

	内　容	H26	目標（R2）	R1
①	電子黒板の配備校数 （配備済み校の月平均使用時間）	８校配備 （月 14 時間使用）	全校配備 （月 50 時間以上使用）	14 校配備 （月 34 時間使用）
②	教育機器研修の参加教職員数	23 名	40 名 研修内容の充実	プログラミング研修を実施 15 名

①教育総務課資料②学校教育課資料

Ⅱ　裾野市教育委員会評価委員会意見一部抜粋

- 家庭学習を定着させるために家庭に継続的に働きかけをしていただきたい。
- 指導力向上のために、「学びの森」による5年目までの教員への授業参観や指導、及び市講師・支援員の研修会の実施、教育委員会による学校訪問や各種研修会の実施は評価できる。
- 幼保、小、中の連携は難しい面も多いと思うが、担当者同士の協議の場を設定するなど、今後も幼保、小、中の円滑な接続を図る体制の継続と一層の連携に期待している。

Ⅲ　安全安心な学校づくりを進める

１．学校環境の充実

(1) これまでの取組の成果と課題

○ 大規模改修工事に合わせトイレの洋式化、照明設備のＬＥＤ化を実施しました。また、全小中学校の普通教室に空気調和設備を整備しました。今後は特別教室の空気調和設備の整備も必要です。

○ 子どもの安全を確保するため、小学校では、交通安全リーダーと語る会において、中学校では、地区別生徒会において通学路の危険箇所について話し合いをしました。また、学校、警察、道路管理者、市担当課と連携して、年に１回通学路点検を実施しました。あいさつ運動と兼ねてＰＴＡあるいは地域と連携し、登下校指導を実施しました。

○ 災害から身を守るため、子どもたちの理解と実践に結びつく、学校での防災訓練の実施、各地区の防災訓練への参加を呼びかけました。

○ クリーンデーや校内グリーンクリーン活動、小・中連携地域美化活動など環境美化活動をどの学校においても計画的に行いました。また、生徒会主催の地域美化奉仕活動、青少年健全育成協議会の地域クリーンアップ作戦などにも参加しました。

○ 望ましい学校環境を考慮し、長寿命化対策または学校統合を含めた再編計画を策定する必要があります。

○ 地球規模の環境教育に関して、将来を担う者として、決められた取り組みだけでなく自分から進んで活動する意識を醸成させる必要があります。校内での取り組みだけでなく、今後は企業や地域と連携した取り組みを増やす必要があります。

(2) 指標の進捗状況

	内　容	H26	目標（R2）	R1
①	トイレの洋式化整備率	58%	100%	83%
②	照明設備のＬＥＤ化の進捗	―	各種改修工事に合わせたＬＥＤ化の実施	各種改修工事に合わせたＬＥＤ化の実施（～R2）
③	校舎の大規模改修の進捗	―	１校実施及び２校目以降の計画	２校実施中 （※Ⅰ期完了）

①②③教育総務課資料

Ⅲ　裾野市教育委員会評価委員会意見一部抜粋

- 快適な学校環境づくりのため、小中学校空気調和設備設置事業を行い、早期に全学校普通教室に空気調和設備を設置したことは評価できる。特別教室への設置も検討していただきたい。
- 施設管理の充実では、限られた予算の中で、落雷・台風被害による緊急工事の優先、学校の要望に応じた施設の維持修繕等に臨機応変に対応し、定期点検・日常点検を適宜に実施していることは評価できる。

Ⅳ　自ら学び活動する生涯学習を支援する

１．学習機会の充実

(1) これまでの取組の成果と課題

○ 市民のニーズに合わせた、市民自らが企画運営に携わり各々の知識や技能を発揮する「市民提案型教養講座」を開講しました。
○ 地域の人的・物的資源を効果的に活用した、地域における学びの循環の仕組みづくりを進めるため、市職員が講師となる生涯学習まちづくり出前講座、生涯学習人材登録制度「身近な先生」を実施しました。
○ 市民の生涯学習成果発表の機会の提供として市民芸術祭、ゆうあいプラザ祭を開催しました。
○ 市民への生涯学習の情報提供として、生涯学習情報誌「for you」・生涯学習情報紙「to you」を作成し、市民に回覧、公共施設へ配布しました。
○ 利用者のニーズ把握により講座の充実を図り、講座生を固定化せず、学習人口を増加させられるような講座展開や、地域課題に適応したスキルを持つ市民が容易に講座を開催できるような地域社会に貢献できる人材が必要です。

(2) 指標の進捗状況

	内　容	現状（H26）	目標（R2）	R1
①	生涯学習センター年間利用者数	63,600 人	73,200 人	52,334 人
②	市民協働型教養講座実施数	―	2 講座	9 講座

①②生涯学習課資料

２．スポーツ推進体制の整備

(1) これまでの取組の成果と課題

○ 市民スポーツの活性化を図るため、「裾野市スポーツ推進計画」を策定し、進捗状況を報告しました。
○ 誰もが親しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進するため、スポーツ協会加盟団体の協力によりスポーツ教室や市民向け大会を実施しました。
○ スポーツ推進委員がニュースポーツを中心とした講習会に参加し、各地区でレクリエーションスポーツなどの教室を実施しました。
○ スポーツに対する興味や関心を持たせるため、いつでも、どこでも、様々な年代のあらゆる市民が多様なスポーツや健康づくりに親しめるように、関連施設の整備や活動を支援する体制づくりが求められます。
○ スポーツツーリズムを促進するため、関係部署、関係団体との連携が必要です。

(2) 指標の進捗状況

	内　容	H26	目標（R2）	R1
①	週１回以上（30 分以上）の運動習慣のある市民の割合	38.7%	50%	49.7%
②	市内スポーツ施設の年間利用者数	384,077 人	400,000 人	424,772 人

①市民意識調査②生涯学習課資料

３．親しまれる図書館運営

(1)これまでの取組の成果と課題

○ 図書館の利用者の利便性を向上させるために、図書館ウェブサイト、図書館だよりを活用した情報提供と蔵書検索システムの利用促進を図りました。利用者のリクエストに対応できるよう県内他図書館との相互貸借制度を活用しました。市内小中学校と、学級文庫パック（団体貸し出し）を通じた連携をしました。おすすめ絵本ガイドを作成し読書活動を支援しました。

○ 図書館に親しみを持ち、本に興味を持ってもらえるように、定期的なテーマ展示、ビブリオバトル（知的書評合戦）等のイベントを実施しました。

○ 乳幼児から読書に親しんでもらうため、ファーストブック、セカンドブック、市民グループのボランティアに協力してもらい、読み聞かせイベントを実施しました。

○ 市民アンケートによると「１か月あたりに読む本の数は４冊以上」が平成 26 年度のアンケートから約 10%減少し、「ほぼ読まない」が約７％増加しています。アンケート結果からも読書離れが加速しているため、読書に興味を持ってもらう必要があります。また、既存の図書館ウェブサイト・蔵書検索システムの有効利用の拡大も必要です。

○ 利用者が関心のある展示等にするため、市民団体との協働によるイベント、展示の開催や、ＳＮＳ等も利用したインターネットでの情報発信が必要です。利用しやすい図書館としてＰＣ使用、飲食利用の要望もされています。

(2)指標の進捗状況

	内　容	現状（H26）	目標（R2）	R1
①	資料の年間貸出者数	64,500 人	70,000 人	63,935 人
②	資料の年間貸出冊数	260,000 冊	300,000 冊	257,314 冊
③	鈴木図書館の年間入館者数	―	130,000 人	125,670 人

①②③鈴木図書館資料

Ⅳ　裾野市教育委員会評価委員会意見一部抜粋

- 市民提案型教養講座実施数は目標値を超えて9講座開講していることは評価できる。今後も市民ニーズに合った講座等を計画し、市民の学習意欲の向上の機会を増やすようにしていただきたい。
- 今後も各スポーツ団体や関係機関と連携し国際的・全国的スポーツの開催支援や招致を継続して、レベルの高い競技に触れる事により市民や子どもたちのスポーツへの興味をより一層高めていただきたい。
- 市内小中学校に学級文庫パック（団体貸し出し）の利用について周知したことは評価できる。児童生徒の読書への興味関心を高めるために、各校の希望書籍等の提供をさらに努めていただきたい。

Ⅴ　心の豊かさと、ふるさと「すその」への愛着心を育む

１．文化活動の振興

(1)これまでの取組の成果と課題

○ 市民が文化に触れ合うため、富士山世界文化遺産裾野市民協議会と連携し、講演会と富士山芸術展を実施しました。旧植松家住宅の清掃イベントを企画し、市民に本物の文化財に触れてもらう機会を提供しました。

○ 市民文化センターエントランスを無料提供し、展示や音楽などに利用することで利用者を増やしました。

○ 文化協会の団体による活動などを、様々な機会や媒体で情報発信しました。市民の文化芸術活動発表の場として中核をなす、市民芸術祭を開催しました。

○ 市内で開催される展覧会や音楽会等の情報提供を、生涯学習情報誌「for you」・生涯学習情報紙「to you」を活用し情報発信の充実を図りました。

○ 市民芸術祭来場者数が年々減少しているので、文化協会などの団体と連携し文化芸術に触れる機会の提供を工夫することが必要です。市民文化センター、生涯学習センターなど文化施設のさらなる有効活用を、指定管理者とともに検討していく必要があります。

(2)指標の進捗状況

	内　容	現状（H26）	目標（R2）	R1
①	市民芸術祭来場者数	7,000 人	9,000 人	6,316 人
②	市民文化センター年間利用者数	164,100 人	200,000 人	192,193 人

①②生涯学習課資料

２．郷土の歴史・文化の伝承

(1)これまでの取組の成果と課題

○ ふるさと「すその」への愛着心を育むため「文化財企画展」等の開催や、旧植松家住宅の清掃ボランティア活動を実施しました。指定文化財を保護するだけでなく、文化財によるまちづくり活動などへの新たな活用方法を検討する必要があります。

○ 富士山世界文化遺産裾野市民協議会や須山浅間神社等と連携し、「富士山芸術展」などの富士山世界遺産登録記念事業等、世界遺産「富士山」の情報発信を行いました。

○ 市民全体の文化財に関する意識は必ずしも高いとは言えないので、情報発信を強化し関心を高め、保全の意識につなげるとともに、シビックプライド（郷土への愛着・誇り）の醸成に寄与することが大切です。

(2)指標の進捗状況

	内　容	現状（H26）	目標（R2）	R1
①	市指定文化財の指定数	13 件	18 件	14 件
②	富士山資料館年間入館者数	11,700 人	13,000 人	5,926 人

①②生涯学習課資料

Ⅴ　裾野市教育委員会評価委員会意見一部抜粋

- 市民主体の文化協会主催・委託の文化講演会、市民芸術祭の実施、市民文化センターで「スタインウェイを弾こう」の体験活動等、官民各種団体による文化活動への支援を推進したことは評価できる。
- 市内の史跡・文化財・伝統文化をよく知らない市民も増えてきている。これらの歴史的価値や素晴らしさをよく知ってもらい、子どもたちや市民の裾野への愛着心を育てるためにも、引き続きよりわかり易い案内看板等の設置や興味を引くパンフレット等の発行などに取り組んでいただきたい。

Ⅵ　学校、地域、家庭の連携により、社会全体の教育力を高める

１．地域教育力の向上

(1) これまでの取組の成果と課題

○ 地域で学校を支える体制の充実として、学校支援地域本部と連携し、子どもの育成支援について検討しました。社会教育団体で行われる防災体験合宿など体験学習を支援し、身近な体験の場を提供しました。

○ 子どもたちが協調性や人間関係を学ぶとともに、リーダーとしての資質向上を図るため、わんぱく遊び塾、リーダースクラブなどの体験活動を通じ、静岡県青少年級別認定の取得を支援しました。

○ 市民アンケートによると「地域の子どもたちへの接し方」について「関わりを持ちたいが、地域の子どもたちと関わる機会があまりない」割合が平成 26 年のアンケートより約 13%減少しました。「学校に対して協力してみたいと思うこと」に対し「協力したいことはない」という市民の割合が前回より約 10%増加しました。

○ 地域の教育力を上げるため、主体的に関わることのできる人を育成していく必要があります。地域の人々が集い、学びつながることができる公民館運営を図り、公民館講座の定期的な見直しを行い、利用者ニーズに合った講座を開催していくことが大切です。

○ 地域の青少年活動を支援し、地域で行われる行事に青少年が活躍できる場を設けることで、青少年の地域活動への関与を促進する必要があります。

(2) 指標の進捗状況

	内　容	現状（H26）	目標（R2）	R1
①	学校支援地域本部事業の実施数	８校・３園	14 校・11 園	14 校・６園
②	地域の声掛け運動参加者数	3, 963 人	4, 500 人	4, 588 人
③	東西公民館･東地区コミュニティセンターの年間利用者数	26, 500 人	30, 000 人	25, 258 人

①学校教育課資料②生涯学習課資料③東西公民館資料

２．家庭教育力の向上

(1)これまでの取組の成果と課題

○「幼児を持つ母親学級」と「子育てセミナー」、家庭教育支援員を中心とした家庭教育支援チームを組織した家庭教育講座や親学講座を開催したことにより、受講生が親としての知識を高めるとともに子育てへの不安を解消できるよう支援しました。しかし、参加者が減少しているため内容の検討が必要です。

○「親育ち」学習の推進として、家庭教育学級（幼稚園、小中学校の保護者を対象とした子育てに関する講座）を支援しました。

○子どもが進んで読書を楽しむことを目指し、乳幼児期から発達に応じて読書の楽しさを実感させるとともに、親子で本に親しめる習慣を定着させるため、ファーストブック事業、セカンドブック事業、図書館ボランティアによるおはなし会を開催しました。ファーストブック事業、セカンドブック事業については、参加率向上のため関係部署と連携した参加しやすい環境づくりが必要です。

○家庭読書の支援として、乳幼児を持つ保護者が気軽に図書館を利用できるように、展示室を開放する「親子ふれあいデー」を月３回実施しました。

○しつけや子育てに自信のない親が増加しており、家庭の教育力の低下が問題となっています。市民アンケートによると「就学前（小学校入学前）教育の充実のために必要なことはなんだと思いますか」の問に対し「家庭のしつけ」としている小学生保護者は約 10%、中学生保護者は約 15%、平成 26 年より減少しています。多くの親に家庭教育に関する情報や学習する機会を提供することで、子育てに対する不安を解消し、親自身が学び育つ機会を充実させ、また、仲間づくりができるような機会を提供していく必要があります。

(2)指標の進捗状況

	内　容	現状（H26）	目標（R2）	R1
①	ファーストブック参加率	79%	85%	74%
②	おはなし会の開催数	45 回	60 回	44 回
③	幼児を持つ母親学級と子育てセミナー参加者数	20 人	35 人	16 人

①②鈴木図書館資料③生涯学習課資料

３．子育て支援の充実

(1)これまでの取組の成果と課題

○ 放課後児童室の充実として、放課後児童室の民営化、小学６年生までの受け入れを可能にしました。

○ 子育て支援アプリを活用し、様々な子育て関連情報を提供しました。

○ 子育てのサポートをしてほしい方と、サポートをしたい方による、会員制のファミリーサポートセンターの登録会員数や内容充実を図るため、ＰＲ活動や研修会を実施しました。

○ 地域子育て支援センター[14]（４ケ所）で子育て支援相談や各種事業を開催しました。

(2)指標の進捗状況

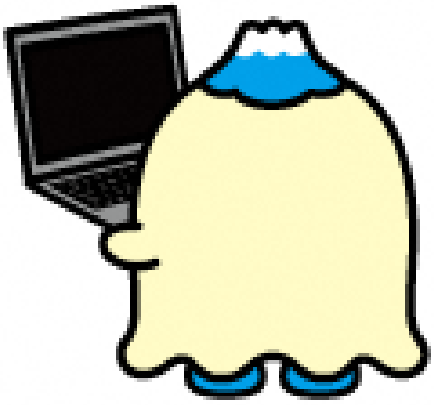
	内　容	現状（H26）	目標（R2）	R1
①	放課後児童室の充足率（入室者／希望者）	98.66%	100%	100%
②	ファミリーサポートセンターの活動回数	1,094 回	1,500 回	321 回
③	地域子育て支援センター利用者数（のべ人数/年）	12,487 人	50,000 人	11,275 人

①②子育て支援課③保育課資料

Ⅵ　裾野市教育委員会評価委員会意見一部抜粋

- 子ども会の防災体験合宿、区と共催でサイエンス教室等体験学習の推進は、地域で子どもを育てるという意識向上からも評価できる。継続して推進していただきたい。
- 公民館講座がマンネリ化しないようにメニューの定期的な見直しを行い、利用ニーズに合った講座の開催などを検討し実施していることは評価できる。今後も利用者の利便性を検討し、利用者数を増やせるように取り組んでいただきたい。
- 障がいのある子どもに対し、さわる絵本等を整備したことは評価できる。
- 家庭教育支援員を中心とした家庭支援チームを組織し、家庭教育講座や親学講座を開催し、家庭教育力向上に寄与したことは評価できる。親自身が学び育つ機会を継続して推進していただきたい。

14 地域子育て支援センター……地域の子育て家庭に対する育児支援を行う、子どもと一緒に遊びながらくつろぐことができるコミュニケーションスペース（御宿台保育園子育て支援センター・さくら保育園・富岳台保育園・富岳キッズセンターあい）。



第３章　裾野市が目指す教育の姿

１　計画の基本構想

基本理念

学びあい、高めあいながら、
人間性豊かに未来を目指す人づくり

平成27年３月に策定された裾野市教育振興基本計画においては「学びあい、高めあいながら、人間性豊かに未来を目指す人づくり」を裾野市の教育全ての分野における基本理念とされておりました。

第１期教育振興基本計画においては「人づくり」を一貫とした取り組みとしながら、それぞれの「学び」の質をさらに高めることを目指してきました。第２期裾野市教育振興基本計画においても共に学び合い、それぞれの「学び」の質をさらに高めることを目指し、時代を担う子どもたちが豊かな人間性と生きる力[15]を育てること、地域資源を活用した地域教育、一人一人を大切にする「人づくり」を推進していくことが重要であるため、引き続き、「学びあい、高めあいながら、人間性豊かに未来を目指す人づくり」を基本理念とします。

15 生きる力……知・徳・体のバランスのとれた力のこと。・基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力／・自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性／・たくましく生きるための健康や体力など。

2　計画の基本方針

基本理念で掲げた姿の実現に向けて、平成 27 年３月に策定された裾野市教育振興基本計画では、令和２年度までの６年間を見据えた３つの柱**「す・そ・の」**を基本方針としてきました。

第２期裾野市教育振興基本計画においても引き続き今後５年間を見据えた３つの基本方針を柱としていきます。

方針１　**す**すめます。生きる力の育成
（未来を担う子どもたちのために）

方針２　**そ**だてます。郷土を愛し自ら学ぶ人
（市民一人一人の学びを深めるために）

方針３　**の**ばします。つながり、高める力
（学校、地域、家庭の連携を進めるために）

○ **未来を担う子どもたち**が自分自身や周囲の人々、地域社会のことを広く考え、将来の夢を持ち、たくましく**生きる力**の育成を目指します。これからの社会を生きていくための基礎となる確かな学力、心身共に健康で豊かな感性と人間性を身に付けます。また、ＡＩなどの技術革新が進む Society5.0 という新たな時代に対応するためにも、ＩＣＴ教育を進め、生活を切り拓き未来を**生きる力**を育てます。

○ **市民一人一人が自ら**進んで文化芸術活動、スポーツ活動を推進し、ふれあいの場を増やし**学び**の輪を広げます。また、**郷土**「すその」に愛着を持ち、地域と関わりながらコミュニケーションスキルを身に付けるとともに、地域コミュニティを育てます。

○ 子どもたちが地域活動を通して、様々な年代と**つながり**、地域の人たちも一緒に**学び、高め**合い、よりよく成長していくための地域コミュニティを形成、活性化させます。一人一人が地域社会全体を**学び**の場としてとらえ、生涯学習活動を地域づくりに生かし、それぞれに地域愛を育みます。

体系図

基本理念	基本方針	基本目標・基本施策	重点プラン取組項目
学びあい、高めあいながら、人間性豊かに未来を目指す人づくり	方針1　すすめます。生きる力の育成 方針2　そだてます。郷土を愛し自ら学ぶ人 方針3　のばします。つながり、高める力 （学校、地域、家庭の連携を進めるために） （市民一人一人の学びを深めるために） （未来を担う子どもたちのために）	**Ⅰ　豊かな心と健やかな体を育む教育を進める** ～自ら考え、判断し、行動する～	
		1　就学前教育の推進	
		2　豊かな心、生きる力の育成	【地域との関わり】 【キャリア教育】
		3　健やかな成長の推進	
		4　一人一人を大切にする教育の推進	【「すその」を知る学習】 【SDGs教育】 【外国語教育】 【防災・安全教育】 【環境教育】
		5　特色のある教育の推進	
		Ⅱ　社会の変化に対応する確かな学力を高める ～よりわかりやすい授業に改善する～	
		1　学校の教育力の向上	【学びの持続】 【学びの支援】
		2　ＩＣＴ教育の推進	
		Ⅲ　安全安心で質の高い学校環境づくりを進める ～将来を見据えた学校施設づくり～	
		1　時代に即した学校施設の充実	【学校施設の最適化】
		2　安全な施設整備の推進	
		Ⅳ　一人一人の成長を支え生涯学び続ける力を支援する ～学習意欲のある市民が活躍できる場を提供～	
		1　学びの環境の充実	【生涯学習の充実】
		2　図書館サービスの充実	
		3　スポーツの推進体制の整備	
		4　文化財や伝統文化活動の保存・活用	【文化財の保存・活用】
		5　文化活動の振興	
		Ⅴ　学校・地域・家庭の連携により教育力を向上させる ～自ら声掛け、あいさつができる地域～	
		1　学校を核とした地域づくり	【地域と学校の連携】
		2　地域教育の充実	【地域の教育力の向上】 【青少年育成の推進】
		3　家庭教育の充実	
		4　放課後の居場所づくりの推進	【放課後子ども教室】

第２期裾野市教育振興基本計画

重点プラン　地域と結びついた学校づくり「共育の森」

第２期裾野市教育振興基本計画を推進していく上で、優先的に取り組むべき施策を**「重点プラン　地域と結びついた学校づくり」**としました。学校を地域に使いやすく、地域のみんなの教育施設として利用することで、学校が大人と子どもの居場所となりコミュニティ活動の拠点となります。

地域ボランティアの協力による体験学習、環境学習、多様な地域人材を活用することで地域活動に発展します。また、伝統のある地域ならではの特色のある学校を地域で見守っていくことも大切です。地域のコミュニティを大切にすることで、コミュニケーション能力が地域で育ち、まち（地域）の発展につながります。

第５次裾野市総合計画の教育分野の施策大綱は「ひとりひとりが役割を持ち輝けるまち」としており、市における総合戦略基本目標は「すべての起点となるひとづくり**“共育”**」として掲げ、まちづくりの柱としています。裾野市教育委員会は重点プランを、**「共育の森」**と名付けました。**「共育の森」**を進めることで市のまちづくりに参画していきます。

第４章各論に重点プランの項目は「**共育の森**」として表記してあります。

第４章　各論

１　施策の内容

基本目標

Ⅰ　豊かな心と健やかな体を育む教育を進める

～自ら考え、判断し、行動する～

基本施策

1. 就学前教育の推進

◆ありたい姿◆

幼児期からの子育て教育を含め、心の教育の充実が図られ、「生きる力」の基礎を育む教育が行われている

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	幼稚園・保育園の待機児童数	３人 (R2. 4. 1)	０人	保育課
②	認定こども園の開設数	０園 (計画策定時)	３園	保育課

①②保育課資料

◆主な取組◆

（１）幼児教育　　【保育課】

○ 子ども・子育て支援法に基づく新たな制度による認定こども園の普及等幼児施設の機能を充実させます。

○ 幼稚園・保育所、地域子ども・子育て支援事業における質の高い教育・保育を提供します。

- 教諭・保育士の人材確保・育成
- 保育と教育の共通の指導課程のもと、教諭と保育士の資質向上
- 教育・保育と特定地域型保育事業の推進

○ 障がいのある子どもと障がいのない子どもがともに教育を受けるインクルーシブ教育の充実を図ります。

○ 幼児の自発的な活動を確保することで興味や関心を広げます。

- 自然とのふれあい、地域との関わり、様々な体験ができる遊びや活動を推進
- 幼児期からのふるさと伝統を伝えるような地域とのつながる取り組みの実施

（２）子育て支援　【保育課・子育て支援課】

○ 保護者が安心して子育てできるための地域の子育て支援体制を推進します。

- 子育て世代包括支援センター[16]等による切れ目ない応援体制の推進
- 「地域子育て支援センター」（私立保育所３ケ所）の機能強化
- 乳幼児とその保護者が交流するための事業実施
- 利用者のニーズに対応した乳幼児の保育を行う延長保育事業実施
- 子育て援助活動支援事業（ファミリーサポートセンター等）の充実
- 子育て世代が利用しやすい子育て支援アプリ、市公式ウェブサイト等による子育て支援情報の充実

16 子育て世代包括支援センター……妊娠・出産・子育てに関する相談に応じ、必要な支援や関係機関との連携調整など包括的な支援を行う。健康推進課、子育て支援課、保育課、学校教育課、障がい福祉課、社会福祉課、生涯学習課が役割分担しつつ必要な情報を共有しながら一体的な支援を行い、センター機能を果たしている。

基本施策

2. 豊かな心、生きる力の育成

◆ありたい姿◆

児童生徒が自分自身や周囲の人々、地域社会や世の中のことを広く考え、将来に対して前向きな気持ちを持っている

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	小学生 83% 中学生 73% (計画策定時)	小学生 90% 中学生 80%	学校教育課
②	人や地域と関わりながら、住みやすい社会を作るために、自ら行動しようとしている児童生徒の割合	小学生 57% 中学生 47% (計画策定時)	小学生 75% 中学生 80%	学校教育課

①②第５次裾野市総合計画

◆主な取組◆

（１）ほんものとふれあう学習 【学校教育課】

○ 児童生徒が将来の夢と希望を持って成長できるよう「ほんもの」と触れ合う機会を創出します。

- 優れた文化や芸術の鑑賞、外部講師、アスリート、芸術家の招へい

○ 同世代、異世代との関わる機会を通して、他人を理解したり、思いやる気持ちを育てたりして、自分のできることを考え行動する力をつけます。

（２）地域との関わり 共育の森 【学校教育課】

○ 生きる力を育成するために様々な人々とつながりあいながら学ぶことができる教育を推進します。

- 地域との連携を生かしたコミュニティ・スクール[17]の推進

（３）読書活動 【学校教育課・鈴木図書館】

○ 子どもたちが自主的に読書に親しむような環境をつくり、読書好きな児童生徒を増やします。

- 鈴木図書館と連携した「学級文庫パック[18]」の利用拡大
- 各小中学校図書室に図書館司書の配置、図書館運営に関する研修の開催
- 鈴木図書館と連携し、読んだ本の記録を積み上げる仕組みを構築

○ 家庭での読み聞かせの重要性を啓発し、家庭の読み聞かせを習慣づけます。

- ファーストブック、セカンドブック事業やおはなし会の推進

17 コミュニティ・スクール……学校運営協議会制度：学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組み。

18 学級文庫パック……市内幼保小中学校に学校の希望図書を箱詰めで貸出し、図書館所蔵の児童書の有効活用と、子どもたちの図書館利用につなげることを目指す事業。

（４）道徳教育　【学校教育課】

○ 道徳の授業の充実を図り、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるなど、主体的に自己の生き方について考えを深め、道徳性を養います。

- 道徳教材、児童生徒の発達の段階や特性を考慮し指導方法を工夫
- 豊かな体験活動を生かし、地域の活躍した人を紹介するなど特色のある道徳教育を実施
- 道徳教育について学校だより、市公式ウェブサイト等による家庭への積極的な情報発信

（５）キャリア教育　共育の森　【学校教育課】

○ 自らの職業観を深め、生き方や進路選択、社会貢献等について考えることができるように、発達段階に応じたキャリア教育[19]を推進します。

- 職業等の体験的な活動や講演会等の実施
- 地元企業の協力によるキャリア教育

Column　ほんものとふれあう学習

小中学生が優れた文化・芸術を鑑賞したり、芸術家やトップアスリートの講演を聞いたりすることで、未来を担う子どもたちの豊かな心を育む教育、生きる力の育成に取り組む事業を行っています。

◇WAZA チャレンジ

◇和文化体験　抹茶体験感想（須山中）

「抹茶の体験を通して、日本の歴史的な文化に触れることができ、相手に心を込めて抹茶を立てること、相手に感謝して抹茶を飲む心を学ぶことができた。」

「日本の文化を継承させることの大切さがよくわかったので、みんなに伝えていきたいと思った。」

19 キャリア教育……一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

基本施策

3. 健やかな成長の推進

◆ありたい姿◆

児童生徒が自分の健康や生活習慣について正しい知識を持ち、体力の増進や健康づくりを考えた望ましい生活を送ろうとしている

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	望ましい生活習慣を子どもが身に付けていると答える保護者の割合	72.4% （計画策定時）	85%	学校教育課
②	自分の健康や体力に関心をもち、疾病の治療や体力の増進に進んで取り組む児童生徒の割合	小学生 79.5% 中学生 76.2% （計画策定時）	小学生 90% 中学生 90%	学校教育課

①②学校教育課アンケート調査

◆主な取組◆

（１）体力向上 【学校教育課】

○ 子どもたちの個々の体力や運動能力の向上を図り、スポーツとの出会いを大切にします。

- 小学校の体力アップコンテストへの参加の推進
- 中学校の「部活動ガイドライン」に沿った部活動の推進
- 好きなスポーツとのマッチングを支援

（２）生活習慣 【学校教育課】

○ 子どもたちの健康教育の充実を図り、健やかな成長を目指します。

- 家庭と連携し「早寝・早起き・朝ご飯」等基本的生活習慣の定着
- ゲーム(メディア)依存症対策の取り組みとしてノーゲームデーの実施や、ＳＮＳ、ＴＶがなくても生活できることを実感する日の設定等

（３）給食・食育 【学校給食センター】

○ 子どもたちが食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けるため、食育の推進を図るとともに安全安心な学校給食を提供します。

- 小学校給食の単独調理場（自校方式）、新給食センターの建て替えの検討
- 旬の食材を生かし、栄養バランスのよい給食の提供とともに、衛生管理を徹底した安全安心な給食の提供
- 食物アレルギーを有する児童生徒へのアレルギー対応
- 学校給食を通した食に関する指導や家庭での正しい食習慣などに関する啓発

（４）健康　【学校教育課】

○ 自分の健康状態を正しく理解して、どうすれば自分らしく生きることができるか考える取り組みをします。

- 児童生徒の実態や発達段階に応じた健康指導や性教育、薬物乱用防止教室、薬学講座の工夫

○ 児童生徒の健康診断、保健教育を実施して健康の保持増進に努め、治癒勧告した後の確認にも努めます。

- 学校だより等による家庭への発信

基本施策

4. 一人一人を大切にする教育の推進

◆ありたい姿◆

学校が一人一人の学習を保障し、生活を支援できる体制を整えることで、児童生徒が安心して学校生活を送っている

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	学校が楽しいと感じる児童生徒の割合	86.3% (計画策定時)	95%	学校教育課
②	「先生はあなたのことを認めてくれていると思う」と感じる児童生徒の割合	88.8% (計画策定時)	95%	学校教育課
③	私立公立園を含めた小学校との交流行事の回数	2.5回/年 (R1)	4回/年	保育課

①②学校教育課アンケート調査③保育課調査

◆主な取組◆

（１）不登校児童生徒・いじめ対策　【学校教育課】

○ 不登校児童生徒・いじめの予防や解消に向けた取り組みの強化のため、教職員研修の実施、相談・支援体制の充実を図るとともに、新規不登校児童生徒を出さないための取り組みをします。

- 平成30年10月に策定した「いじめ防止基本方針」の見直し
- 適応指導教室「ふれあい教室」での相談体制をさらに強化
- ＳＣ（スクールカウンセラー[20]）、ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー[21]）、市相談員、関係機関の連携強化
- 不登校の児童生徒一人一人に寄り添った指導をするための講師、支援員の人数確保
- 児童生徒が社会において直面する可能性のある様々な困難、ストレスの対処方法を身に付けるための「ＳＯＳの出し方教育」の充実

（２）園・学校間連携　【学校教育課・保育課】

○ 小学校への円滑な接続を行うための指導の連続性を重視した幼稚園・保育園・認定こども園・小学校の連携強化を推進します。

- 「小１プロブレム」をつくらないため幼保等と小学校で園児と児童の交流
- 幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム、スタートカリキュラム[22]の推進

○ 児童生徒間あるいは教員の交流を推進し、小中学校９年間の連携教育を推進します。

20 スクールカウンセラー……学校現場で子どもや保護者など心のケアや支援を行う人：児童生徒本人の心の問題に注目する。
21 スクールソーシャルワーカー……学校を基点に子どもたちやその家族が抱える問題を解決する福祉の専門家：児童生徒を取り巻く環境に注目する。
22 スタートカリキュラム……小学校へ入学した子どもが、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム。

（３）特別支援教育　【学校教育課】

○ 特別な支援が必要な児童生徒に対し特別支援教育の充実を図り、児童生徒や保護者に寄り添った教育を進めます。

- 特別支援教育の理解を教員に広め、研修や相談体制を強化
- 特別支援学級、通級指導教室を増設し、個のニーズに即した教育環境を整備
- 他機関と連携した児童生徒や保護者を支援する体制づくり
- 特別支援対象者への丁寧な支援と適切な就学への支援

（４）経済的支援　【教育総務課・学校教育課】

○ 経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対しての就学援助や就学支援を引き続き行います。

- 就学援助・就学奨励事業の継続、制度の周知
- 学ぶ意欲を持った子どもたちを支援するための育英奨学金事業の継続、制度の周知

Column　ピア・サポート活動

ピア・サポートとは仲間（ピア）を援助（サポート）する活動です。自分と同じような立場の人と悩みを共感したりアドバイスをしたりと、お互いを支え合う活動で、子どもたち同士で支援することができる力をトレーニングやサポート活動を通じて育成し、思いやりあふれる学校風土を醸成していく活動です。

富岡中学校は保健委員会活動が主体となり、相談をしたい生徒、おしゃべりをしたい生徒はピア・サポートルームに気軽に訪れ、ピア・サポート活動員と面接したり、また、ピア・サポート活動員が仲間の様子を見たり声をかけたりしています。ピア・サポーターの養成のための研修も実施し、教員もピア・サポートについて学び、道徳や学級活動などを通じて人間関係づくりの授業を行っています。

基本施策

5. 特色のある教育の推進

◆ありたい姿◆

「すその」への愛着をもち、地域と関わりながら、理想的な社会を築くためのスキルを身に付けている

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	地域、企業等が参加・連携した授業数	107 回 (R1)	200 回	学校教育課
②	ALT との授業や関わりが楽しいと感じる割合	85.0% (計画策定時)	95.0%	学校教育課

①学校教育課調査③学校教育課アンケート調査

◆主な取組◆

(1)「すその」を知る学習　共育の森　【学校教育課】

○ 子どもたちが郷土に誇りをもち、進んで裾野の未来を考え語り合い、将来裾野に住みたいと思えるような「ふるさと学習」を推進します。

- 市内の高校、企業等と連携し、自主的に地域を探求し理解を深める取り組み
- 市の魅力などを地域とともに子どもたちが発信する取り組み

Column　ふるさと学習

西中学校では3年生が社会科の授業で、地方公共団体の仕事や地方自治を学び市の現状や課題を踏まえ、「どうしたら裾野市が良いまちになるか」地域の一員として裾野市に提言しました。(令和元年度事業)

※生徒の提言の一例

「バスの自動運転化を進め、Wi−Fiを整備するなど乗る目的を増やしたり、今の生活スタイルに合ったバスを運行する」

「ショッピングセンターを作るなどして駅周辺を活性化する。中学生自らあいさつをして明るいまちにする」

（２）ＳＤＧｓ教育　共育の森　　【学校教育課】

○ ＳＤＧｓの視点から現代の課題の重要性について、子どもたちが認識し、主体的・協働的に学び、行動するための能力、態度を育みます。

- ＳＤＧｓに紐づけた学校行事を実施することで、自分事として捉えて考える取り組みを実施
- 人権に関する理解を深め、自他ともに大切にする心情を育む取り組みを実施
- 学校で学習しているＳＤＧｓ教育に地域の人も参加できる体制づくり

Column　ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）

平成 27 年(2015 年)9月、国連サミットにおいて「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択されました。これは、「誰一人取り残さない」社会を目指す国際目標で、2030 年を年限とした持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)として、17 のゴールと 169 のターゲット、232 の指標が定められています。地球温暖化や食料・資源エネルギー問題など、地球環境問題が深刻化する中では、世界規模での取り組みと、一人一人の行動が重要になっています。

（取り組み例）

SDGsに紐づけて、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる人権感覚を身に付けるための「人権教育」を学びました。

（令和元・2年度人権教育研究指定校　東中学校）

（３）外国語教育　共育の森　【学校教育課】

○ 生きた外国語活動を通してコミュニケーション能力を育て、世界で活躍できる市民の育成を目指します。

- 地域で外国語を話せる人や帰国子女に依頼し外国語を学び交流する機会の拡充
- 市内企業等と連携し様々な国の人とふれあい外国語を学ぶ
- 子どもだけでなく地域も交えて学習できる場を提供
- 幼稚園・保育園・小中学校のＡＬＴの人数を増やすとともに、質の良いＡＬＴや派遣業者を選択

（４）防災・安全教育　共育の森　【学校教育課】

○ 学校・地域・家庭と連携し、自分で考えて行動する場面を設定した防災、安全教育を行います。

- 登下校の安全に関して、警察、地域、ＰＴＡ、道路整備担当部署と連携した子どもたちの安全確保を継続
- 児童生徒が自分自身で危険を回避できるよう、警察と連携した交通安全教室や不審者対応教室の開催
- 富士山噴火を想定した避難訓練

（５）環境教育　共育の森　【学校教育課】

○ 子どもたちが環境への理解を深め、環境を大切にする心を育成し、責任を持って環境を守るための行動がとれるようにします。

- 県、企業の出前講座（環境リサイクル授業等）を積極的に活用
- 市内の高校、企業や地域と連携した環境の取り組みの拡充
- 社会科・理科・総合的な学習の時間における環境教育の実施
- 地域や学校内の奉仕活動、花壇の手入れなど環境保全活動を積極的に実施
- 地域の人の協力による稲作体験、お茶摘み体験、そば作り体験等

Column　イングリッシュ・サマー・デイ

「丸一日を英語で過ごしてほしい！」という思いから始まった「イングリッシュ・サマー・デイ」。たくさんのALTとの活動を通して、英語を使って外国の人たちとコミュニケーションする楽しさを実感し、英語という言語だけでなく、外国の文化への興味も高めることを目的に行っています。「外国の人たちとこんなことをやってみたい！」を実現できるよう、複数のコースから自分の興味に合ったものを選択しています。令和元年度は、「料理を通して、異文化を学ぼう！」をテーマに、ALTの国の食べ物についての知識を深め、その国の食べ物を作ってお昼に食べたり、チーム対抗でクイズやゲームに参加したりして、異文化を学びました。また別のコースでは、「外国の授業を体験してみよう！」をテーマに、英語の歌やダンス、理科の実験や工作など、外国で行われる授業を通して、英語や英語圏の文化を学びました。

年々参加者が増え、このイベントを楽しみにしている子どもたちがいます！

今日一番楽しかったことは、理科の実験です。シャボン玉を割れないように上手に飛ばしたり、雲を作ったりしたことです。私は雲に触れたことがうれしかったです。それに、先生たちもわかりやすく面白く教えてくれました。そして、新しい友達ができたことが一番うれしかったです。

ＡＬＴの先生が優しく教えてくれたおかげで、すごく楽しかったし、たくさんの英単語、国の食べ物を学ぶことができてよかったです。そして、ゲームやクイズでたくさんの友達と話したり協力したりしました。友達も増え、すごく楽しかったです。

基本目標

Ⅱ　社会の変化に対応する確かな学力を高める

～よりわかりやすい授業に改善する～

基本施策

1. 学校の教育力の向上

◆ありたい姿◆

児童生徒がこれからの社会を生きていくための基礎となる確かな学力や資質を身に付けるために、より質の高い授業が行われている

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	授業がわかると答える児童生徒の割合	80.8% (計画策定時)	90%	学校教育課
②	児童生徒がこれからの社会を生きていくための基礎となる確かな学力や資質を身に付けるために、より質の高い授業が行われていると思う保護者の割合	76.7% (計画策定時)	85%	学校教育課

①②学校教育課アンケート調査

◆主な取組◆

（１）学びの持続　共育の森　　【学校教育課】

○ 自ら学ぶ意欲を高めるために、個々の学習状況や定着状況を見届けるなど、きめ細かな指導をします。わかる喜びや学ぶ楽しさを実感できるよう評価を工夫し、個々の学習状況や定着状況を見届けるなどきめ細かな指導を実施します。

- 良好な学習環境を維持するため、非常勤講師や支援員の効果的な配置を実施
- 少人数指導やティームティーチング[23]の充実

○ 地域と家庭が連携し、学習習慣の定着を図ります。

- 子どもたちが家庭における学習習慣を身に付けるよう地域の方や大学生等が放課後等に子どもたちの学習をサポートする事業「すそのん寺子屋」の推進

Column　すそのん寺子屋

放課後の時間を利用した学習支援をしています。小学生は宿題を見てもらったり、わからないことを聞いたり、中学生は受験勉強の基礎問題を教えてもらったりしています。大学生など地域のボランティアに関わってもらいながら学習の支援をしています。

23 ティームティーチング…複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導計画を立て、指導する方式。

（２）学びの支援　共育の森　【学校教育課】

○ 地域と学校が連携して子どもたちへの支援を充実させます。

○ 学校での学習成果を地域に生かして、地域活動に参画しながらさらに学びを重ね、地域課題解決にも貢献できる取り組みとなるようにします。

- 部活動指導員に適している人材を見つけ、より多くの部活動指導員の活躍を推進

（３）教員の指導力向上　【学校教育課】

○ 教員の資質能力、実践的指導力向上に努め、子どもたちが意欲的に取り組む授業づくりやわかりやすい授業づくりを目指します。

- 教育支援拠点である「学びの森」による若手教員への支援体制の充実
- 指定校研究や、授業改善・充実助成制度の活用
- 若手教員を中心に授業づくりへのアドバイスを実施。非常勤職員による技能教科アドバイザーを設定
- 各学校でのスタートカリキュラム作成の推進と、異校種の情報交換の機会を設定
- 全国学力学習状況調査の分析と、より実態に合った改善策を提示

○ 教職員による自己評価や外部評価を実施し、地域や保護者から信頼される学校を目指します。

○ 教職員の長時間勤務や多忙化解消に向けての働き方改革を推進します。

- 教員自身が自らの働き方をマネジメントする力を向上させるため、内容の厳選と時間設定の工夫

Column　学びの森

学びの森には専門的な知識を有した指導員が配置されており、学校や教職員、保護者や地域のニーズに応える研修事業・地域連携事業・教育相談など行っています。

・「森の道標」（学校訪問研修）
・「森の広場」（各種研修の企画・運営・参加）
・「You カフェ」（授業づくり講座）
・「森の仲間」（学校と地域・地域企業の連携協力支援）

基本施策

2. ＩＣＴ教育の推進

◆ありたい姿◆

児童生徒がこれからの社会を生きていけるよう、ＩＣＴ技術を活用しながら、様々な人と協働して課題を解決する力を身に付ける

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	学校以外の場所で学校の勉強のためにインターネット上のサイトを毎日・ほぼ毎日以上見た割合 ※ＰＩＳＡ（ＯＥＣＤ生徒の学習到達度調査）	12.0% （計画策定時）	30%	学校教育課
②	学校で他の生徒と共同作業をするために、週１～２回以上コンピュータを使う割合 ※ＰＩＳＡ（ＯＥＣＤ生徒の学習到達度調査）	0.7% （計画策定時）	40%	学校教育課
③	他校あるいは企業や地域と連携してＩＣＴ機器を利用した授業数	16 回	40 回	学校教育課

①②学校教育課アンケート調査③学校教育課調査

◆主な取組◆

（１）ＩＣＴ利活用　【学校教育課】

○ 高度情報化社会の進展やグローバル化が進む中で子どもたちの「生きる力」を育成するため、ＧＩＧＡスクール構想[24]を進め、各教科の授業において主体的にＩＣＴ機器を活用します。

- 「論理的思考力」や「課題解決力」を高めるためのプログラミング教育を推進
- ＩＣＴ教育を活用した成果発表会
- ＩＴ企業（先端企業）との連携、コラボレーション、ＩＴ活用技術支援体制を構築

○ ＩＣＴを活用したわかりやすい授業に改善します。

- ＩＣＴ活用促進を図るため、教職員への研修を推進
- 学習支援ソフトの有効活用の研究を推進

○ 複数の教室や、近隣の学校につなげて同時に授業を行う遠隔教育を進めます。

（２）情報モラル教育　【学校教育課】

○ 子どもたちがインターネット等の情報手段を正しく利用し、自らトラブルを回避できる能力を身に付けるため、情報モラル教育を推進します。

- 家庭への啓発、子ども同士によるルールづくり
- 情報モラル教育カリキュラムを作成

24 ＧＩＧＡスクール構想……文部科学省が推進する義務教育下にあるすべての児童生徒に対し、一人一台端末整備することで、創造性を育む教育を持続的に実現させる構想。ＧＩＧＡは「Global and Innovation Gateway for All」の略。

Column　ＰＩＳＡ（ＯＥＣＤ生徒の学習到達度調査）

OECD（経済協力開発機構）の生徒の学習到達度調査（PISA）は義務教育終了段階の 15 歳児を対象に 2000 年から3年ごとに読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野で実施しています。ICT活用調査の利用状況について、日本は学校の授業（国語、数学、理科）におけるデジタル機器の利用時間が短く、OECD加盟国中最下位となっています。また、コンピュータを使って宿題をする頻度がOECD加盟国中最下位となっています。（2018 年の結果）。

◇学校外でのデジタル機器の利用状況

問：学校の勉強のために、インターネット上のサイトを見る「毎日」「ほぼ毎日」

（例：作文や発表の準備）

OECD平均	23.0%
日本	6.0%

基本目標

Ⅲ　安全安心で質の高い学校環境づくりを進める

～将来を見据えた学校施設づくり～

基本施策

1. 時代に即した学校施設の充実

◆ありたい姿◆

児童生徒が学力をつけるため、望ましい教育環境で学べるよう将来に向けて学校施設が整備されている

◆主な取組◆

（１）学校施設の最適化　共育の森　【教育総務課】

○ （仮称）教育施設再編計画策定庁内検討委員会を立ち上げ、学校あるいは教育施設再編計画を策定します。また、策定する際、学校現場の現状等も鑑み、保護者や地域住民との意見交換会を開催していきます。

○ 老朽が進む校舎の改修については長寿命化計画、あるいは（仮称）教育施設再編計画を踏まえ計画的に進めます。

（２）ＩＣＴ環境整備　【教育総務課】

○ 小中学校でのＩＣＴ機器の管理、ハードウェアやソフトウェアを順次更新し、ストレスのない環境整備の充実を図ります。

- 児童生徒がＩＣＴ機器を活用できる体制の整備
- 教職員が使用しやすい校務システムを安全・安心に維持管理、セキュリティ対策の強化

Column　裾野市の教育のあり方検討委員会

令和元年度「裾野市の教育のあり方検討委員会」を開催し将来の子どもたちの望ましい学校環境について検討し、教育委員会に提言書を提出しました。

（提言書内容抜粋）

1.学校再編にあたり配慮すべき基本的事項

①学校規模に関すること

・多様な人間関係を育むことができる学校規模

・学校行事、部活動等多様な活動が見込める環境整備

②学校配置に関すること

・地域コミュニティの拠点としての役割とともに、地域の活性化に配慮

・児童生徒の通学状況を把握し、安全性が保たれるように配慮

2.再編案

①現行政区ベース案

5地区をベースとし、小規模校は小中一貫校あるいは小規模特認校制度導入

②中学校大規模統合案

通学安全に配慮し、小学校は東地区以外現状維持

小規模中学校の 3 中学校を統合

③単学級解消案

単学級の学校を統合

基本施策

2. 安全な施設整備の推進

◆ありたい姿◆

学校施設が安全に維持され、児童生徒が安心、快適に学べる学校環境となっている

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	学校施設の空気調和設備設置率（特別教室）	10.8% （計画策定時）	50%	教育総務課

①教育総務課資料

◆主な取組◆

（１）安全安心で快適な学校施設　【教育総務課】

○ 児童生徒が安心して快適に学べる教育環境を確保するため、安全管理を行います。

- 校舎、屋内運動場を計画的に緊急度の高いものから改修し、校舎・遊具の定期的な安全点検を実施
- 学校施設の特別教室等の空気調和設備の設置、トイレの洋式化を推進

○ 学校教育における効果的な教育活動を支援します

- 教材備品等の整備を推進

○ 大規模災害に備え地域の指定されている避難所としての機能を備えた学校施設の環境整備を行います。

- 防災担当課と連携

基本目標

Ⅳ　一人一人の成長を支え生涯学び続ける力を支援する

～学習意欲のある市民が活躍できる場を提供～

基本施策

1. 学びの環境の充実

◆ありたい姿◆

生涯学習・社会教育の環境整備の充実を図ることにより、一人一人が生涯にわたり自ら進んで「学び」ができるようになっている

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	過去１年間に生涯学習活動をしたことがある人の割合	― (現状値なし)	50%	生涯学習課
②	市民の生涯学習センター・公民館を拠点とする サークルや教室などの生涯学習活動満足度・重要度	満足度 17.9% 重要度 49.4% (R1)	満足度 23% 重要度 55%	生涯学習課

①第５次裾野市総合計画②市民意識調査

◆主な取組◆

（１）生涯学習の充実　共育の森　【生涯学習課】

○ 市民ニーズに合った生涯学習講座や各種教室の実施や、市民が企画する講座の実施等学習の機会を提供し、市民の学習意欲の向上、及び学びを通して市民同士の交流を図ります。

- 市民芸術祭、ゆうあいプラザ祭等学習成果発表の機会の提供

○ 指定管理者と連携し、自らの知識や特技を生かし活躍できる場を提供します。

- 生涯学習人材登録制度「身近な先生」[25]の紹介・情報発信

○ 生活課題や地域課題に対する学びを提供し、市民の学習活動によって「地域づくり」につなげます。

- 各種生涯学習まちづくり出前講座の実施
- 公民館活動の充実

（２）生涯学習情報の提供　【生涯学習課】

○ 生涯学習の情報提供の充実を図ります。

- 生涯学習情報誌「for you」、生涯学習情報紙「to you」の市公式ウェブサイト、ＳＮＳによる情報提供

25 生涯学習人材登録制度「身近な先生」……様々な分野で知識や技能のある人に講師として登録してもらい、学習を進める上で必要な時に指導してもらう制度。

Column　生涯学習まちづくり出前講座

　リクエストに応じて市職員が皆様の所へ出向き、行政の取り組み状況の説明や、専門知識を生かした講座を実施しています。

　＊「裾野の史跡めぐり」「ふるさと歴史講座」「図書館来所講座」「学校給食施設見学・栄養講座」「地域づくりあれこれ」「交通安全・防犯対策について」「健康づくり講座」「ゲートキーパー養成講座」など

基本施策

2. 図書館サービスの充実

◆ありたい姿◆

市民が生涯学習の場として気軽に利用しやすく、市民から親しまれる開かれた図書館となっている

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	鈴木図書館の入館者数	125,670 人 (R1)	130,000 人	鈴木図書館
②	幼稚園・保育園・小中学校・放課後児童室への「学級文庫パック」利用件数	4 件 (R1)	14 件	鈴木図書館

①第５次裾野市総合計画②鈴木図書館資料

◆主な取組◆

（１）講座・イベントの充実 【鈴木図書館】

○ 図書館に親しみを持ち、本に興味を持ってもらえるように市民参加型イベントを継続実施します。

- 市民が関心のあるテーマ展示等の継続を推進
- ビブリオトーク[26]等、子どもから大人までを対象にした、読書感想発表会の開催
- 図書館カフェなど、親しみやすく気軽に足を運んで楽しくゆったりと過ごせる場所の提供

（２）読書の推進 【鈴木図書館】

○ 市民から親しまれる図書館づくりを目指し、資料の整理・充実を図るとともに、利用者の利便性向上に努めます。

- 幅広い年齢層を対象とした資料の整備・充実を図り、計画的な除籍資料の選別を実施
- 図書館だよりや図書館ウェブサイトによる情報提供を推進
- 図書検索やウェブ予約機能等、図書館ウェブサイトの利用を拡大
- おすすめの本を紹介するアドバイスパンフレットを作成
- 利用者各自が自身の借り出し記録を楽しめる仕組みを構築
- 郷土についての興味を喚起すべく郷土資料室の活用

26 ビブリオトーク…各自が本を持って集まり、その本の面白さについてプレゼンテーションしあう書評会。

基本施策

3. スポーツの推進体制の整備

◆ありたい姿◆

安全にスポーツができる施設が整備・充実されていて、様々な年代のあらゆる市民が生きがいや健康づくりのため、スポーツに興味や関心を持ち楽しむことができている

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	週１回以上の運動習慣のある市民の割合	49.7% (R1)	65%	生涯学習課
②	スポーツ・レクリエーション活動の推進 満足度・重要度（満足＋まあ満足・重要＋まあ重要）	ー (R1 調査なし)	満足度 24% 重要度 44%	生涯学習課

①第５次裾野市総合計画②市民意識調査

◆主な取組◆

（１）スポーツの推進　【生涯学習課】

○ 誰もが気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進し、生涯にわたりスポーツに親しむ環境づくりをします。

- 「スポーツ推進計画」を推進し、スポーツ推進審議会、スポーツ推進委員会と連携
- 企業と連携したスポーツ・レクリエーション活動の推進
- 体力や年齢、障がいの程度に応じて気軽にスポーツ・レクリエーションができる環境の整備
- 指定管理者と連携し、幅広いニーズに対応した各種スポーツ教室の実施
- 準高地トレーニングについて関係部署と連携した取り組みを推進

○ 地域で活躍するリーダーを育成します。

- スポーツ指導者の資質向上

○ 子どもの頃からスポーツに親しむ環境を整備するとともに、体を動かすことが苦手な子どもたちも楽しみながらできる体力向上プログラムを推進します。

- スポーツ少年団等の活動の支援
- アスリートの育成、競技力の向上を目指し、全国大会等に出場する団体や選手に対し、奨励金を支援

（２）スポーツ施設　【生涯学習課】

○ 各スポーツ施設の整備について、様々な年代のあらゆる市民がスポーツに対する興味や関心を持ち、多様な競技に親しめるよう、安全・安心なサービスの提供を図り、利用しやすい施設づくりに努めます。

- 指定管理者と連携した関連施設の整備の充実
- 学校体育施設の開放事業による有効活用の推進
- 陸上競技場、野球場等スポーツ施設・設備について計画的な改修

基本施策

4. 文化財や伝統文化活動の保存・活用

◆ありたい姿◆

地域の宝である裾野の文化財や伝統文化を保護・継承し、郷土を大切にする心が育まれ、市民が地域の歴史・文化の学びに取り組んでいる

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	市ウェブサイト閲覧件数（歴史・文化）	19,941 件 (R1)	22,000 件	生涯学習課
②	地域の歴史や文化への興味がある児童生徒の割合	41.8% (計画策定時)	70%	学校教育課

①戦略広報課資料②学校教育課アンケート調査

◆主な取組◆

（１）文化財の調査・普及 【生涯学習課】

○ 未指定文化財の調査を進め、必要に応じて指定を行います。

○ 市内の文化財や富士山に関する資料収集・調査に努めます。

○ 地域の文化財に興味を持たせ、学ぶ機会を提供します。

- 文化財保護審議委員会等による出前講座の開催

○ 裾野市の文化財の情報発信を強化して関心を高めます。

- 文化財の情報をインターネットで検索しやすくするとともに現地にＱＲコード等を設置

（２）文化財の保存・活用 共育の森 【生涯学習課】

○ 文化財や伝統文化を保存・継承していくため、地域や関連団体と連携し文化財等に係る人材の育成に取り組みます。

- 富士山世界文化遺産裾野市民協議会と連携

○ 文化財の価値を保ち、後世に引き継いでいくために、所有者による指定文化財の管理を支援します。

○ 市内の文化財や富士山に関する情報提供に努めるとともに、文化財の活用を促進します。

- 旧植松家住宅など指定文化財を活用しながら重要性を知る機会を提供
- 文化財によるまちづくり活動などへの新たな活用方法を検討

（３）郷土愛の醸成 【生涯学習課】

○ 文化財や富士山を通して郷土学習を進め、郷土を大切にする心を育む教育を推進します。

○ 文化財の価値を再認識することで、シビックプライドの醸成に寄与します。

基本施策

5. 文化活動の振興

◆ありたい姿◆

「すその」の文化を市民が大切にし、一人一人が文化芸術に触れる機会が担保され、主体性を持って文化芸術活動がいつでもできる

◆活動指標◆

	内容	現状(R1)	目標(R7)	担当課
①	市民芸術祭参加者数	1,659 人	1,700 人	生涯学習課

①生涯学習課資料

◆主な取組◆

（１）文化芸術活動　【生涯学習課】

○ 市民が主体的に活動できるよう活動団体や個人相互の協力体制を作りながら支援し、市民が文化芸術活動に参加しやすい環境づくりを進めます。

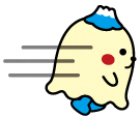
- 文化協会などの団体と連携し、文化芸術活動を推進し、市民芸術祭など発表の機会を提供
- 市内「百人一首大会」等文化に興味を持たせる行事の実施

○ 文化芸術活動への興味を持たせるため文化芸術活動のサポートをします。

- 文化芸術活動で全国大会等へ参加する団体・個人を支援

○ 市民が文化芸術に触れたい時に触れられるよう機会・環境を整備します。

- 指定管理者と連携し、市民文化センター等で行う自主事業の充実
- 展覧会、音楽会等各団体の活動状況など市公式ウェブサイト、ＳＮＳ、生涯学習情報誌「for you」・生涯学習情報紙「to you」等を活用した情報発信



Column　旧植松家住宅の清掃ボランティア活動

地域のボランティアを募り、旧植松家住宅での清掃活動を実施しています。最初に生涯学習課職員から国指定の重要文化財旧植松家住宅について説明したのち、お茶殻を使って畳を掃いたり、糠をさらしに包んだもので板の間や柱を磨いたりなど昔ながらの掃除を行っています。

基本目標

Ⅴ　学校・地域・家庭の連携により教育力を向上させる

～自ら声掛け、あいさつができる地域～

基本施策

1. 学校を核とした地域づくり

◆ありたい姿◆

学校を核として地域の人々が集い、つながり、活動する中で、互いに自立し助け合い、励まし合い、よりよく成長していくための地域コミュニティが形成、活性化されている

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	学校運営協議会を導入した学校数	0 校 （計画策定時）	14 校	学校教育課

①学校教育課資料

◆主な取組◆

（１）地域と学校の連携　共育の森　　【学校教育課】

○ 地域に開かれた学校づくりをさらに進めて、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）を推進していきます。ＣＳディレクター[27]が中心となり、地域側が主体となって運営を担っていく仕組みに移行していきます。

- 地域ボランティアによる見守り活動、あいさつ運動による子どもの安全確保
- 学習サポート事業「すそのん寺子屋」の実施
- 地域ボランティアによる授業の補助や部活動の支援
- 防災訓練、奉仕活動など子どもたちが地域で活躍する学校が地域を応援する活動
- 市内の高校、企業、地域、学校が連携し、異業種、異年齢が交流するプログラムを提供

○ 学校が地域と連携して子どもたちへの支援を充実させます。

27 CS ディレクター……コミュニティ・スクールの運営や学校種間の調整、分野横断的活動の総合調整など統括的な立場で調整を行う地域人材。

基本施策

2. 地域教育の充実

◆ありたい姿◆

一人一人が学びや生涯学習活動を様々な地域づくりに活かし、地域コミュニティが活性化され、それぞれに地域愛が育まれている

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	生涯学習人材登録制度「身近な先生」の登録者数	73 人 (R1)	78 人	生涯学習課
②	自ら地域の人にあいさつをする児童生徒の割合	91.5% (計画策定時)	100%	学校教育課

①生涯学習課資料②学校教育課アンケート調査

◆主な取組◆

（１）地域の教育力向上 共育の森 【生涯学習課】

○ 地域課題や社会的課題を自ら解決できる人材を育成します。地域や生活の問題を解決するための学習事業を行い、その成果を地域でどう生かすのかを目的とした市民育成講座を開催します。

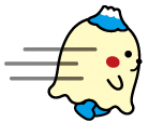
- 人材の発掘と活用として生涯学習人材登録制度「身近な先生」を実施

○ 地域社会の教育力向上に対する学習機会を充実させるとともに、市民が積極的に地域のコミュニティ活動に参加できるようにします。

- 社会教育に関する各種団体の情報交換や連携を図るための「市民活動の集い」を実施
- 社会教育関係団体（婦人会、子ども会等）に支援
- 公民館講座の定期的な見直しを行い、ニーズに合った講座を開催
- 東西公民館、東地区コミュニティセンターの有効活用のための情報発信
- 地域の特性を生かした活動や異世代交流を支援
- 地域のおまつりやイベントに子どもたちが参加し、子どもの活躍できる場を構築

○ 地域社会の中にすでに存在する教育的資源（ヒト・モノ・コト）に改めて着目し、それらを結んだネットワークで、子どもたちの知・徳・体の成長を総合的に担い合う教育戦略へと切り替えていきます。

- 地域づくり、人づくりに貢献している人やコトを発掘し広報



Column　地域ボランティアによるあいさつ運動

地域ボランティアが登下校の見守り活動をしています。子どもたちに声をかけていただき、子どもたちは安心して学校に通っています。子どもたちからも元気なあいさつが返ってきます。

（２）青少年育成の推進　共育の森　【生涯学習課】

○ 心身共に健全な青少年を育成するためボランティア団体等の連携を強化し、「子どもを地域で育てる」という意識向上に努めます。

- 地域の声掛け運動（あいさつ運動）の実施
- 青少年育成推進員、青少年補導センター、青少年育成連絡会関係団体の活動の支援
- 子ども会、わんぱく遊び塾、リーダースクラブなどの体験活動を支援
- 通学学習、防災体験合宿等の支援

Column　生涯学習人材登録制度「身近な先生」

様々な分野で知識や技能を持つ市民に講師として登録していただき、学習を進める上で必要な時に先生になってもらう制度。地域･学校･市民グループ、サークルなどで活用されています。

＊「トルコ料理」「ステンドグラスの製作」「笑い文字」「笑って笑って脳リフレッシュゲーム」「ラフターヨガ」「星空観察、天体観測」「野鳥観察」など

基本施策

3. 家庭教育の充実

◆ありたい姿◆

子どもの発達に応じた生活習慣や豊かな心を育むことができるよう家庭教育の充実を図り、子育てに関する悩みや不安を軽減するための親の学びの機会が提供され、地域で安心して子育てができている

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	家庭教育支援員等による家庭教育講座参加者数	254 人(R1)	454 人	生涯学習課
②	おはなし会ののべ参加人数	1,037 人(R1)	1,300 人	鈴木図書館

①生涯学習課資料②鈴木図書館資料

◆主な取組◆

（１）家庭教育の向上 【生涯学習課】

○ ソーシャル・キャピタル（「人間関係」「信頼」「ネットワーク」）の豊かな地域にします。

- 子育てについて相談や親同士が交流できる取り組みや、地域で子どもを育むネットワークづくり

○ 子育てに対する不安を解消し親自身が学び育つ機会を充実させ、子育てに関する学習の機会の充実を図ります。

- 子育てに関する講座への参加しやすい工夫
- 保護者が集まる機会に家庭教育支援員等による講座を開催

（２）家庭読書の推進 【鈴木図書館】

○ 乳幼児期から発達に応じて読書の楽しさを実感させるとともに、親子で本に親しめる環境の充実に努めます。

- ファーストブック、セカンドブック事業、おはなし会について、参加率向上のため対象者が参加しやすい環境づくり
- 家庭の読み聞かせの大切さを啓発

Column　おはなし会

鈴木図書館では年間を通して読み聞かせボランティアの方による「おはなし会」「親子おはなし広場」等を開催しています。家庭での読み聞かせの大切さを知ることや、親子が参加することで、親同士が交流できる場にもなっています。

基本施策

4. 放課後の居場所づくりの推進

◆ありたい姿◆

児童が放課後等を安全安心に過ごし多様な体験・活動を行うことができる

◆活動指標◆

	内容	現状	目標(R7)	担当課
①	放課後児童室の充足率（入室者/希望者）	100% （策定時期）	100%	教育総務課

①教育総務課資料

◆主な取組◆

（１）放課後児童室 【教育総務課】

○ 就労等の理由によって保護者が昼間家庭にいない児童を対象に、放課後や学校休業中に安心して生活する場所を提供し、利用者のニーズを捉え利用者が満足し、効率的かつ健全な運営が継続できるよう、体制づくりを支援します。

- 放課後児童室の運営支援

（２）放課後子ども教室 共育の森 【生涯学習課】

○ 地域ボランティア団体、地域住民の参画を得て、放課後等に子どもたちを対象とした学習や体験交流を行います。

- 子どもの居場所づくりとして、地域ボランティア団体の協力や学習支援員による「すそのん寺子屋」の充実

第５章　計画の実現に向けて

１　計画の推進体制

本計画の推進において、教育に関する施策は、子育て支援、福祉、健康、産業、防災などの各分野と深く関連するため、関係部局と連携し施策を総合的かつ計画的に推進します。

施策の推進にあたっては、取組の成果、向上を図るため、学校、家庭、地域、行政機関、企業、ボランティア団体などの関係者との十分な連携・協働に努めます。

２　年度別計画と進捗管理

本計画に示された施策を効果的に推進するため、施策体系に沿って年度計画を定め、この内容に基づき事業を推進します。

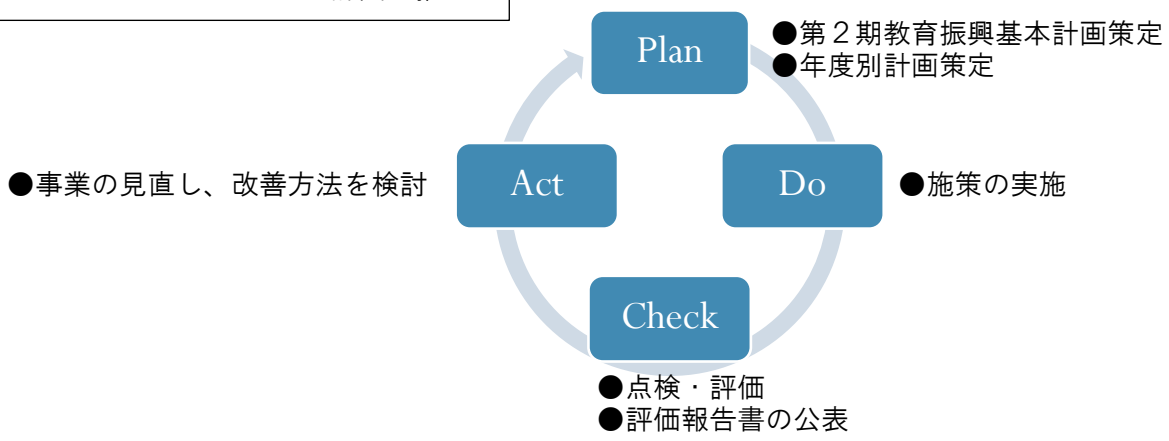
本市では、これまで毎年度、教育に関する事務の点検評価を行い、その結果に基づき改善や見直しを行う事業評価を導入してきました。今後もこの取り組みを継続し、計画の有効性について検証を行います。

この内容については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条に規定する教育委員会の点検・評価として位置づけます。

３　計画の進捗状況の把握と見直し

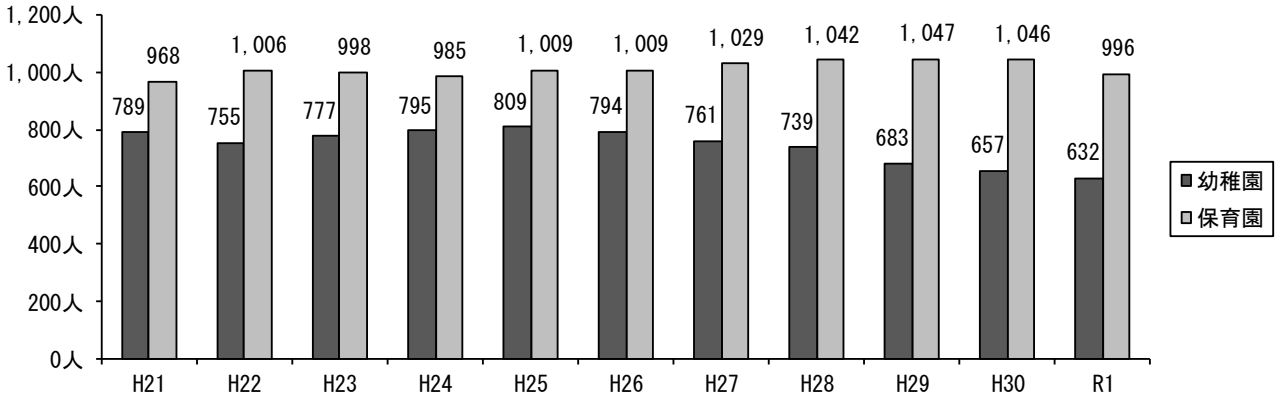
本計画は「第５次総合計画前期基本計画」との整合を図り、計画期間を５年間としています。なお、社会情勢の変化などを踏まえ、法・制度の大きな変動などの事情により、本計画の修正が必要な場合においては、計画期間にかかわらず、見直すことがあります。

ＰＤＣＡサイクルに基づく計画の推進



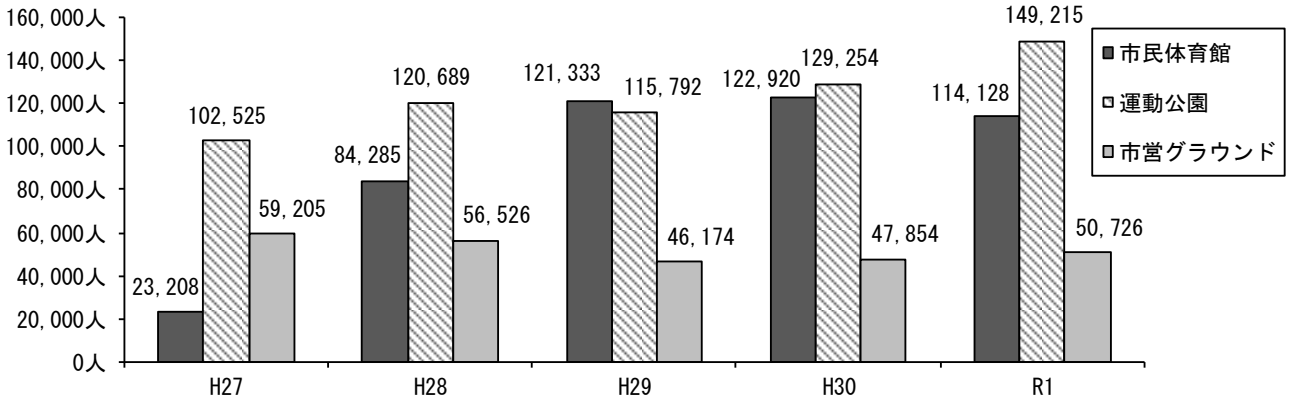
参考資料

1. 幼稚園・保育園児数の推移



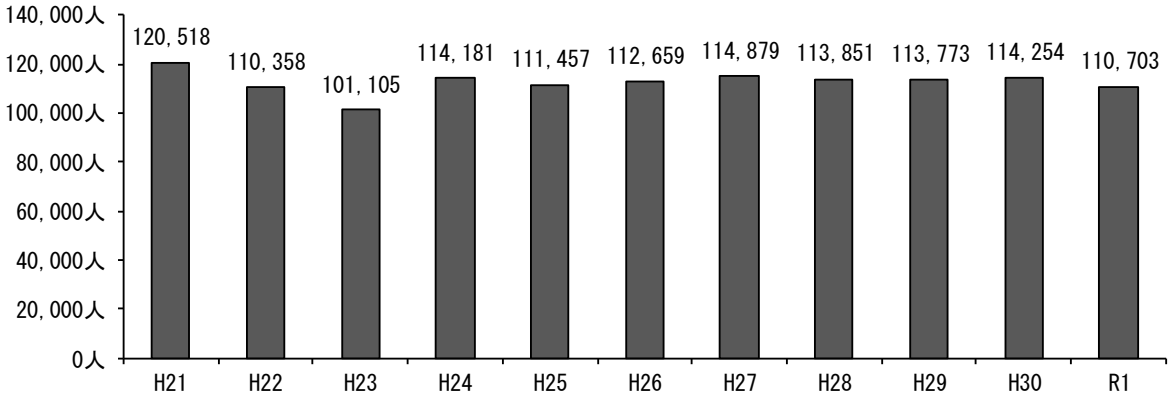
資料：裾野市保育課調べ

2. スポーツ施設利用者数の推移



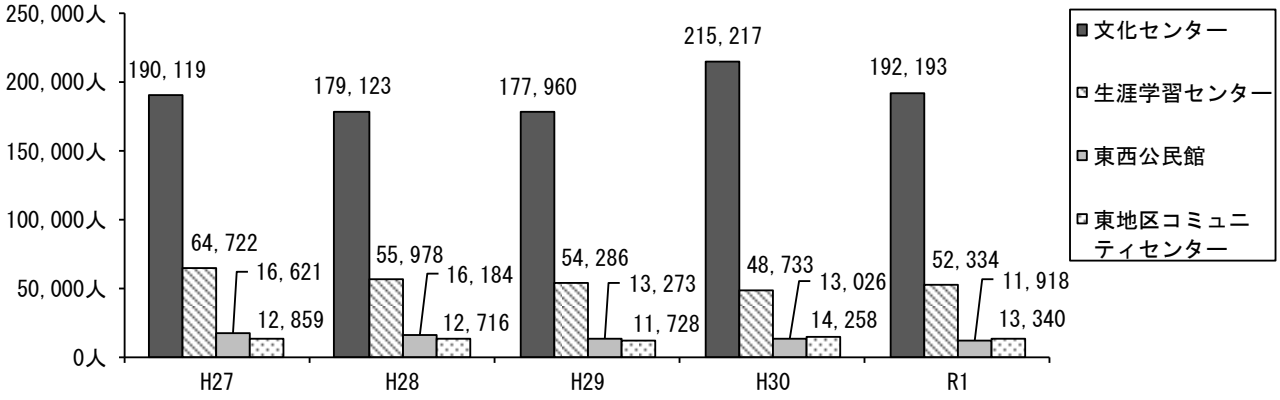
資料：裾野市生涯学習課調べ

3. 学校体育施設利用者数の推移



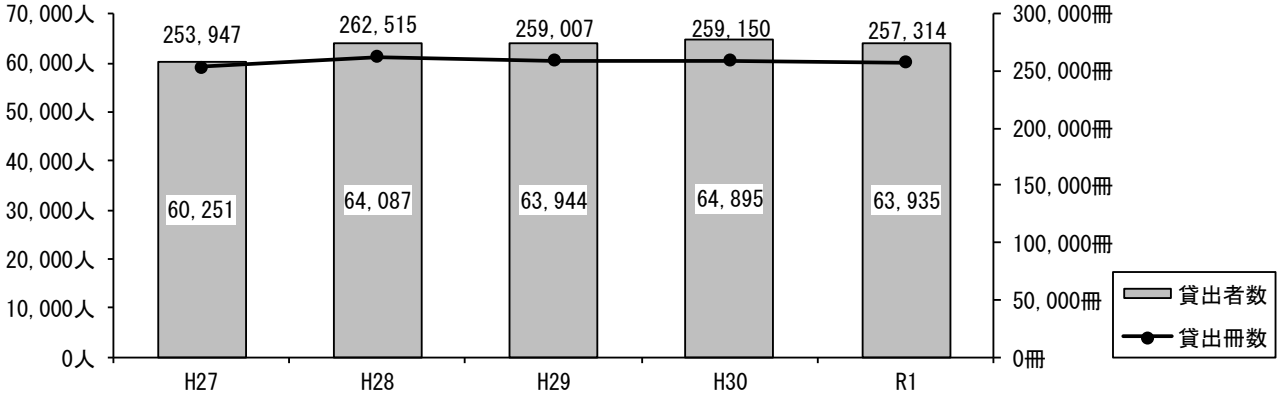
資料：裾野市生涯学習課調べ

4. 市民文化センター等利用者数の推移



資料：裾野市生涯学習課調べ

5. 図書館貸出者数・貸出冊数の推移



資料：鈴木図書館調べ

裾野市教育に関するアンケート調査

1　調査の目的

裾野市教育振興基本計画策定作業を進める上で必要となる、ニーズ等の把握や今後の教育施策策定等の基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。

2　調査設計

（１）対象地域：裾野市全域

（２）対 象 者：【児童・生徒】小学校５年生（489 人）、中学校２年生（446 人）
【 保 護 者 】就学前の児童（年長児）を持つ保護者（412 人）
小学校５年生を持つ保護者（489 人）
中学校２年生を持つ保護者（446 人）
【　市　民　】裾野市在住の 20 歳以上の男女（800 人）

（３）調査期間：【児童・生徒】令和元年　９月 19 日～令和元年 10 月　４日
【 保 護 者 】令和元年　９月 19 日～令和元年 10 月　４日
【　市　民　】令和元年 10 月 10 日～令和元年 10 月 20 日

（４）調査方法：【児童・生徒】施設配布・施設回収
【 保 護 者 】施設配布・施設回収
【　市　民　】郵送配布・郵送回収

3　回収状況

		対象者数	有効回収数	有効回収率
児童・生徒	小学校５年生	489 人	459 票	93.9%
	中学校２年生	446 人	420 票	94.2%
保護者	年長児保護者	412 人	339 票	82.3%
	小学生保護者	489 人	393 票	80.4%
	中学生保護者	446 人	389 票	87.2%
一般市民		800 人	361 票	45.1%

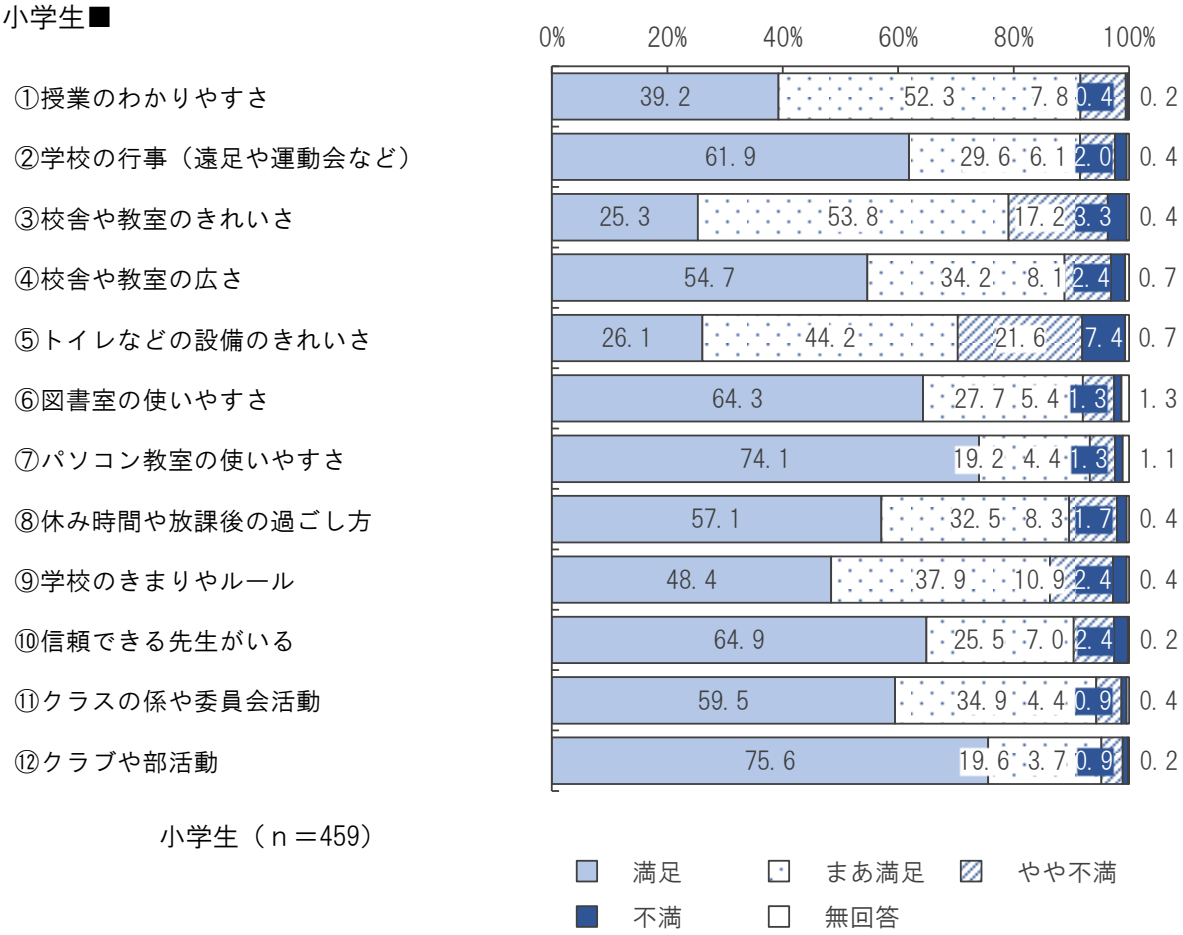
主に参考としたアンケート項目

①児童・生徒

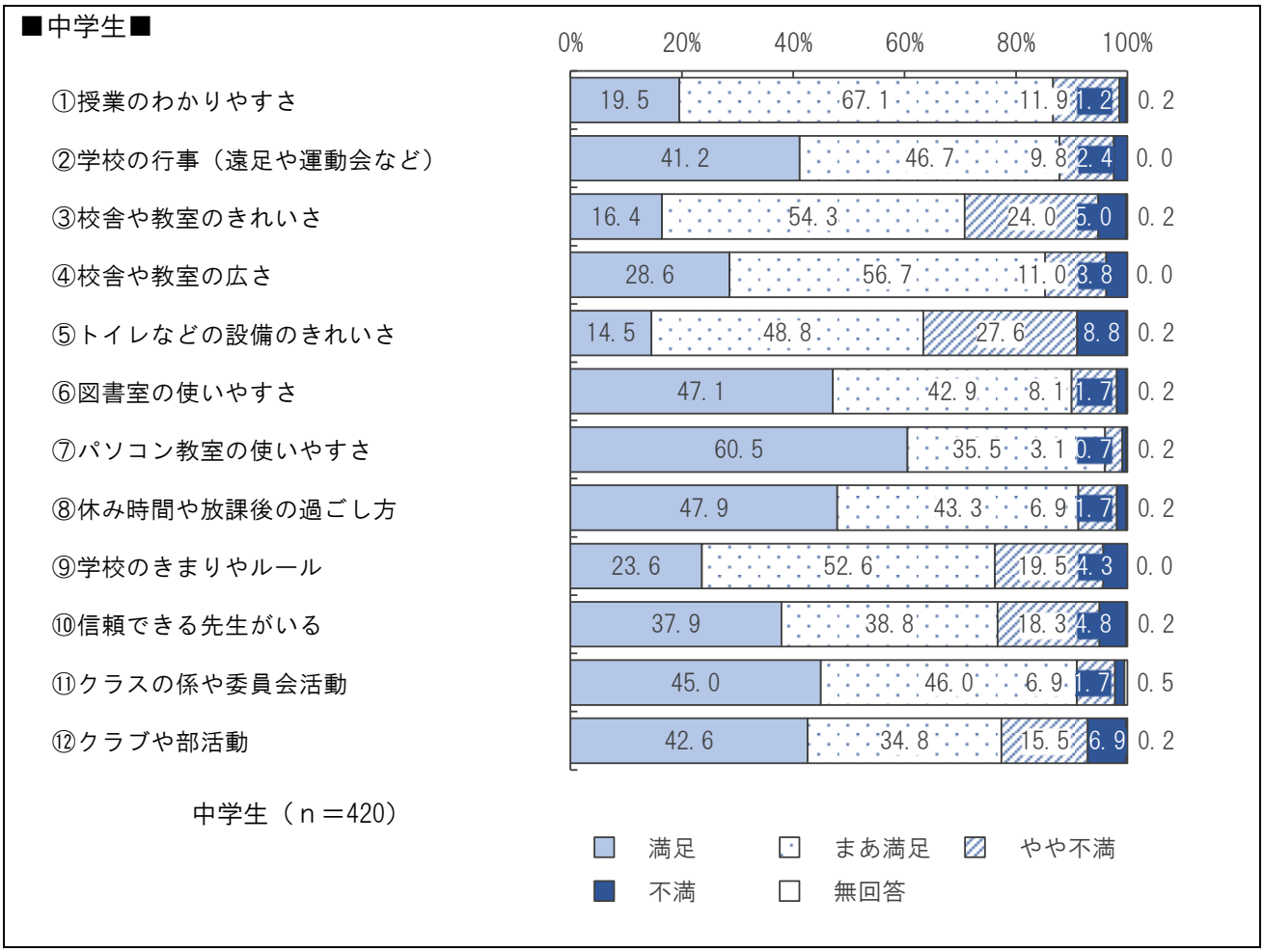
【学校生活に関する満足状況】

あなたは、学校生活に関する次のようなことに、どれくらい満足していますか。
（それぞれ単数回答）

■小学生■



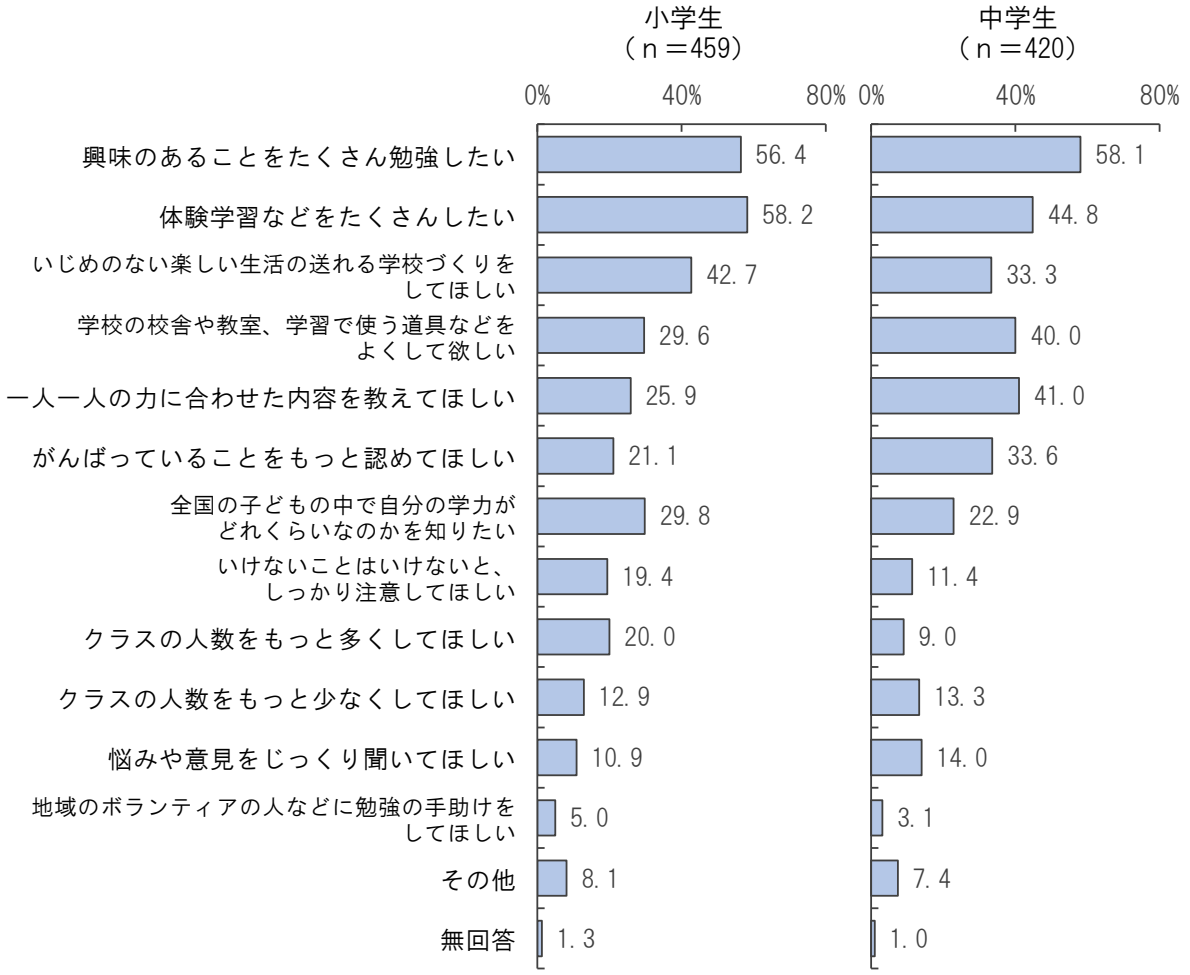
「満足」と「まあ満足」を合わせた『満足』が最も多いのは≪⑫クラブや部活動≫（95.2%）で、≪⑪クラスの係や委員会活動≫（94.4%）、≪⑦パソコン教室の使いやすさ≫（93.3%）が続いている。一方で、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満』が最も多いのは≪⑤トイレなどの設備のきれいさ≫（29.0%）で、≪③校舎や教室のきれいさ≫（20.5%）、≪⑨学校のきまりやルール≫（13.3%）が続いている。



「満足」と「まあ満足」を合わせた『満足』が最も多いのは≪⑦パソコン教室の使いやすさ≫（96.0%）で、≪⑧休み時間や放課後の過ごし方≫（91.2%）、≪⑪クラスの係や委員会活動≫（91.0%）が続いている。一方で、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満』が最も多いのは≪⑤トイレなどの設備のきれいさ≫（36.4%）で、≪③校舎や教室のきれいさ≫（29.0%）、≪⑨学校のきまりやルール≫（23.8%）が続いている。

【学校や先生に望むこと】

学校や先生に、どのようなことを望みますか。（複数回答：４つまで）



【小学生】

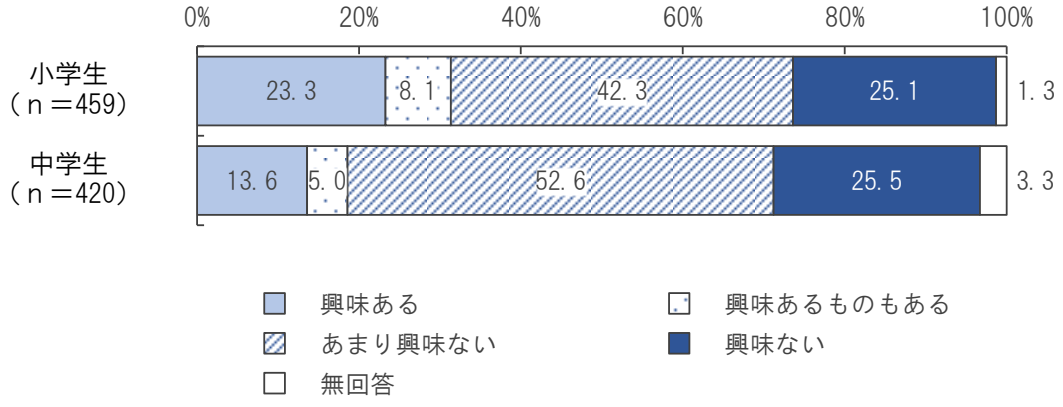
「体験学習などをたくさんしたい」が 58.2%と最も多く、次いで「興味のあることをたくさん勉強したい」が 56.4%、「いじめのない楽しい生活の送れる学校づくりをしてほしい」が 42.7%などとなっている。

【中学生】

「興味のあることをたくさん勉強したい」が 58.1%と最も多く、次いで「体験学習などをたくさんしたい」が 44.8%、「一人一人の力に合わせた内容を教えてほしい」が 41.0%などとなっている。

【地域の歴史や文化についての興味】

あなたは地域の歴史や文化に興味がありますか。（例えば、深良用水、宗祇の墓、佐野原神社、葛山城址、須山浅間神社などの文化財やその物語など）（単数回答）



【小学生】

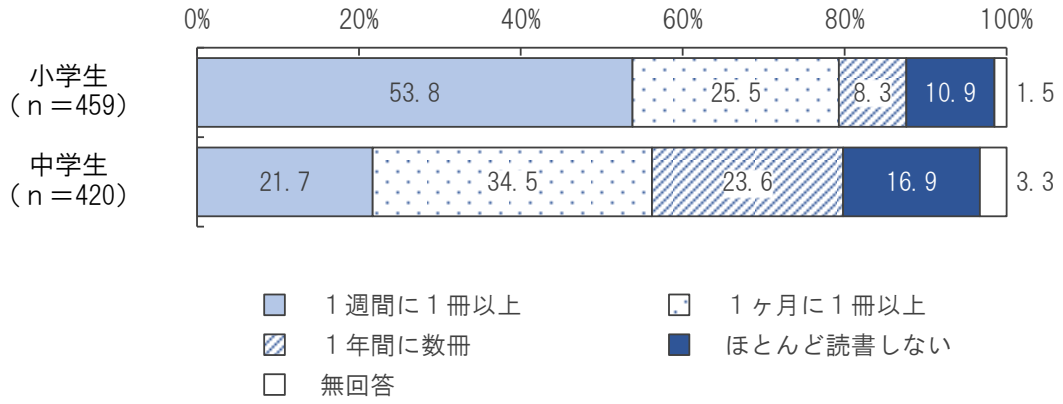
「あまり興味ない」が 42.3%と最も多く、次いで「興味ない」が 25.1%、「興味ある」が 23.3%などとなっている。

【中学生】

「あまり興味ない」が 52.6%と最も多く、次いで「興味ない」が 25.5%、「興味ある」が 13.6%などとなっている。

【読書量】

あなたはどのくらい読書をしていますか。（電子書籍を含みます）（単数回答）



【小学生】

「１週間に１冊以上」が 53.8%と最も多く、次いで「１ヶ月に１冊以上」が 25.5%、「ほとんど読書しない」が 10.9%などとなっている。

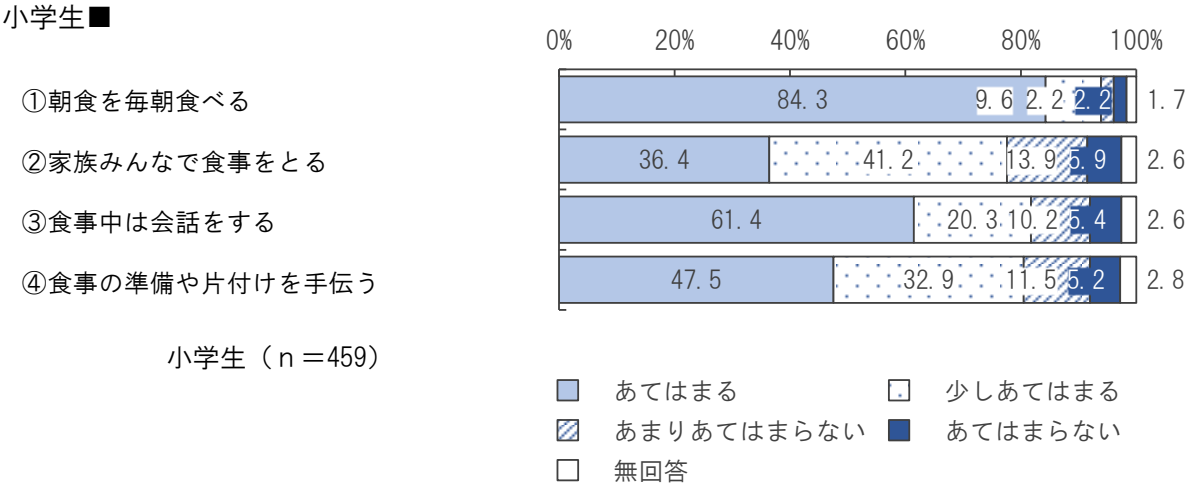
【中学生】

「１ヶ月に１冊以上」が 34.5%と最も多く、次いで「１年間に数冊」が 23.6%、「１週間に１冊以上」が 21.7%などとなっている

【食に関すること】

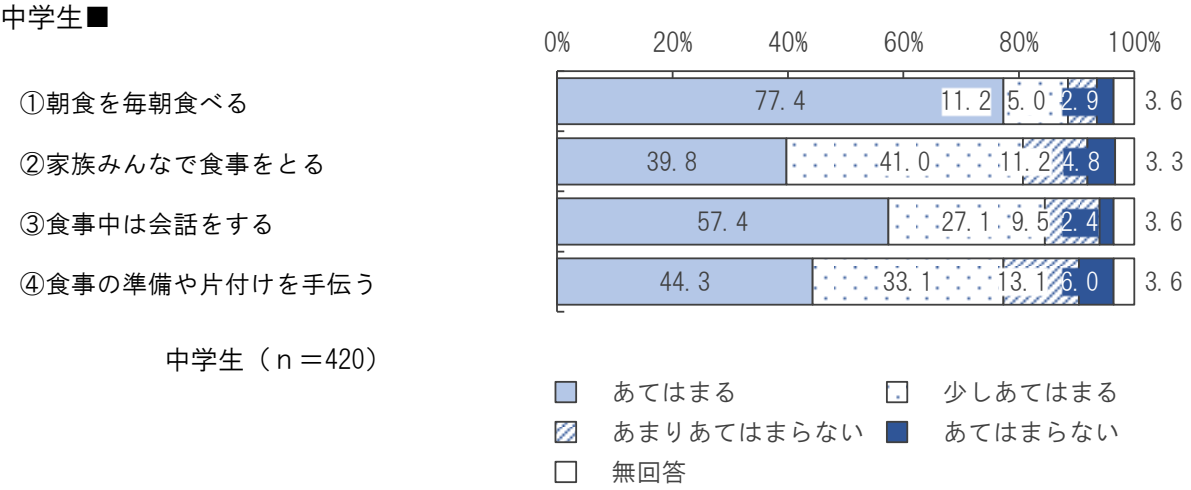
食に関して、次のことはあてはまりますか。（それぞれ単数回答）
（１）家庭での食事について

■小学生■



「あてはまる」と「少しあてはまる」を合わせた『あてはまる』が最も多いのは≪①朝食を毎朝食べる≫（93.9%）で、≪③食事中は会話をする≫（81.7%）、≪④食事の準備や片付けを手伝う≫（80.4%）が続いている。

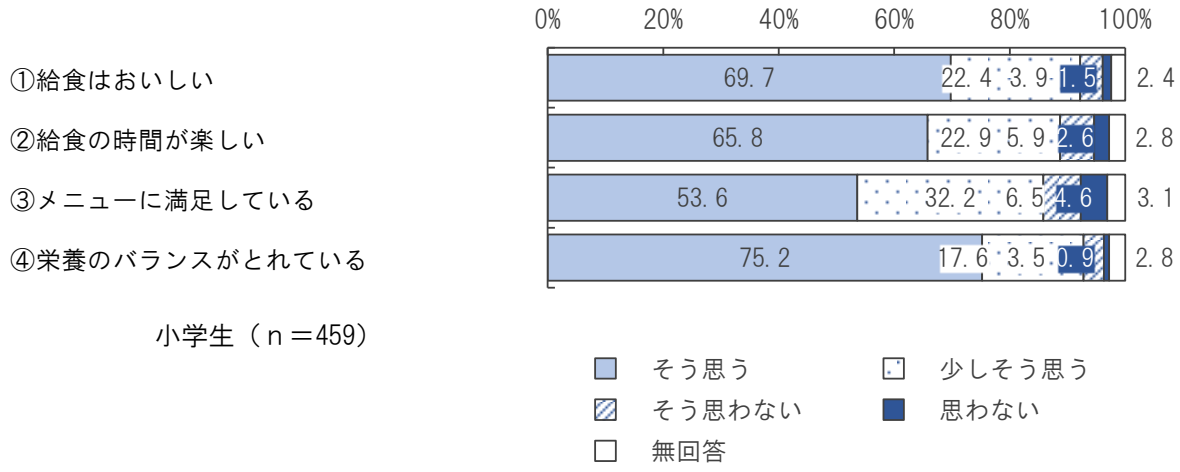
■中学生■



「あてはまる」と「少しあてはまる」を合わせた『あてはまる』が最も多いのは≪①朝食を毎朝食べる≫(88.6%)で、≪③食事中は会話をする≫(84.5%)、≪②家族みんなで食事をとる≫(80.8%)が続いている。

（２）給食について

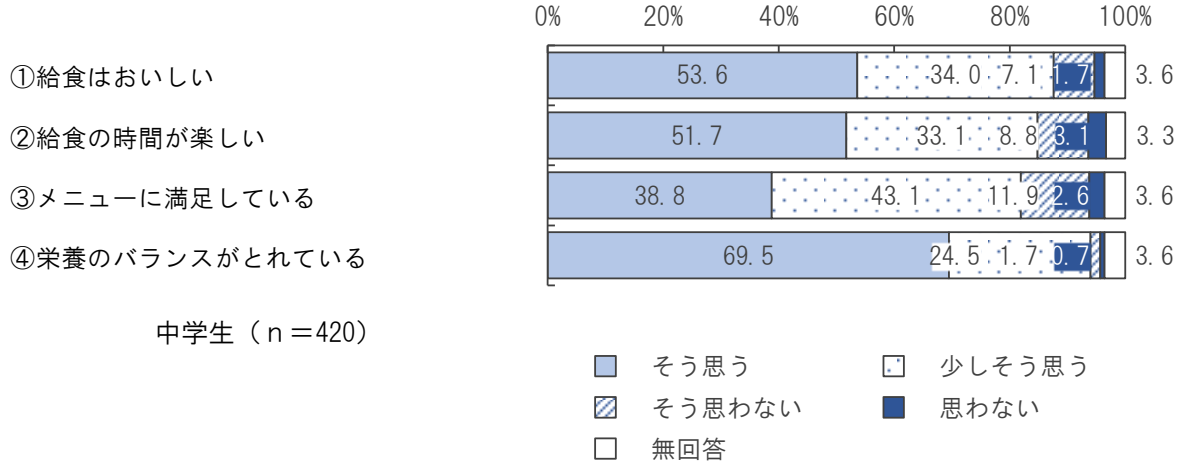
■小学生■



小学生（ｎ＝459）

「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『思う』が最も多いのは≪④栄養のバランスがとれている≫（92.8%）で、≪①給食はおいしい≫（92.1%）、≪②給食の時間が楽しい≫（88.7%）が続いている。

■中学生■



中学生（ｎ＝420）

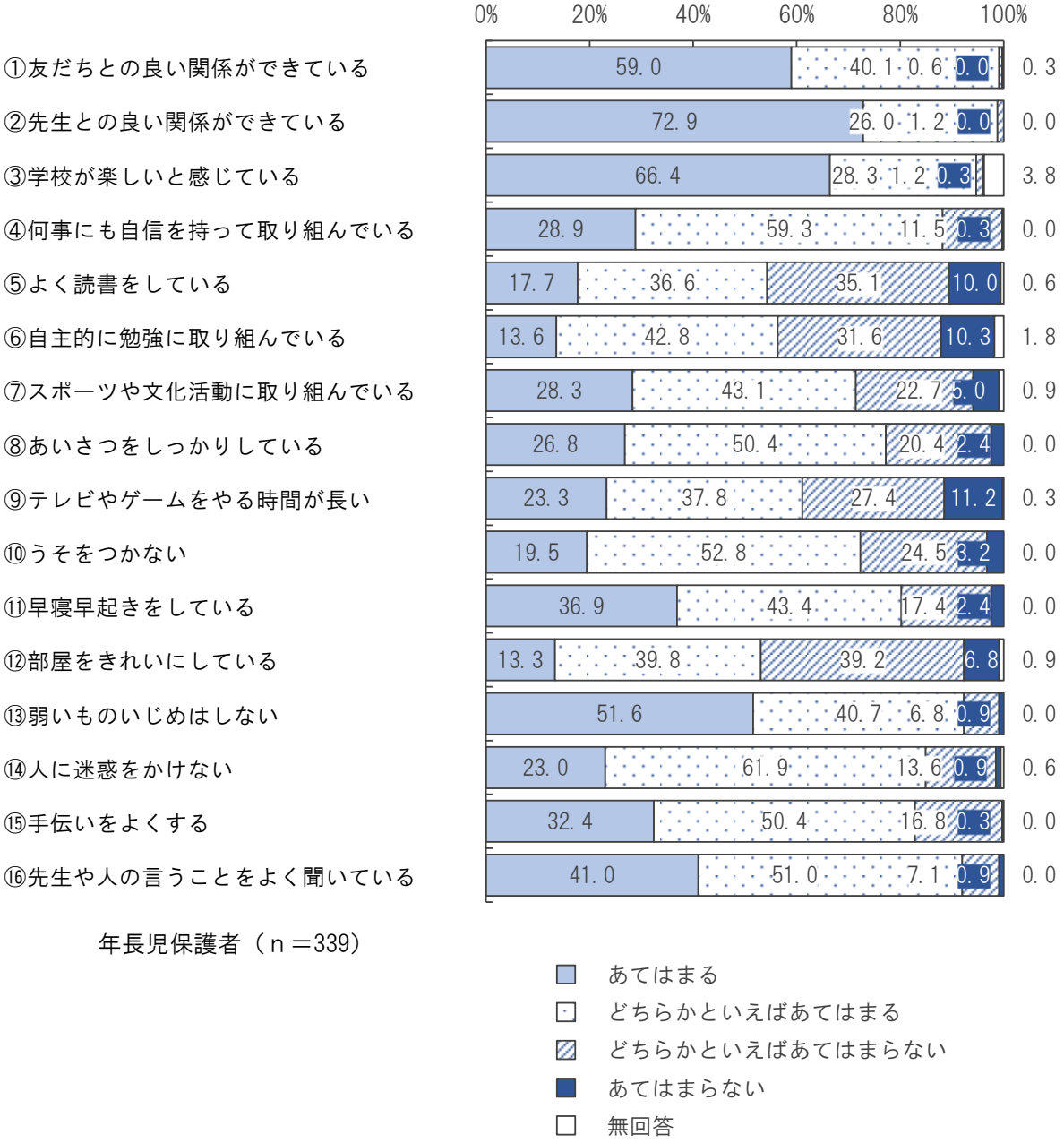
「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『思う』が最も多いのは≪④栄養のバランスがとれている≫（94.0%）で、≪①給食はおいしい≫（87.6%）、≪②給食の時間が楽しい≫（84.8%）が続いている。

②保護者

【お子さんの普段の様子】

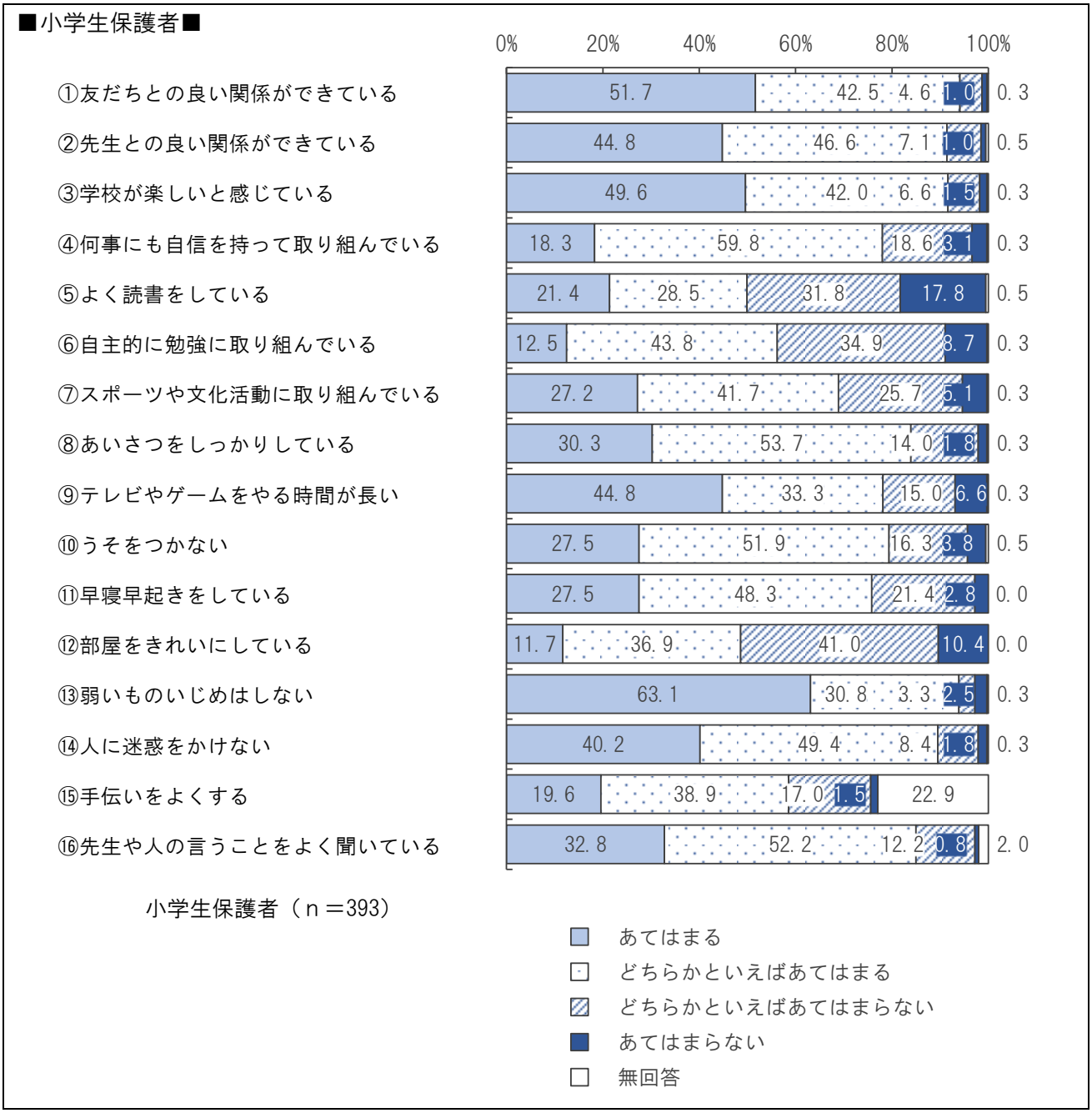
お子さんの普段の様子について、次のことはどの程度あてはまりますか。
（それぞれ単数回答）

■年長児保護者■



【年長児保護者】

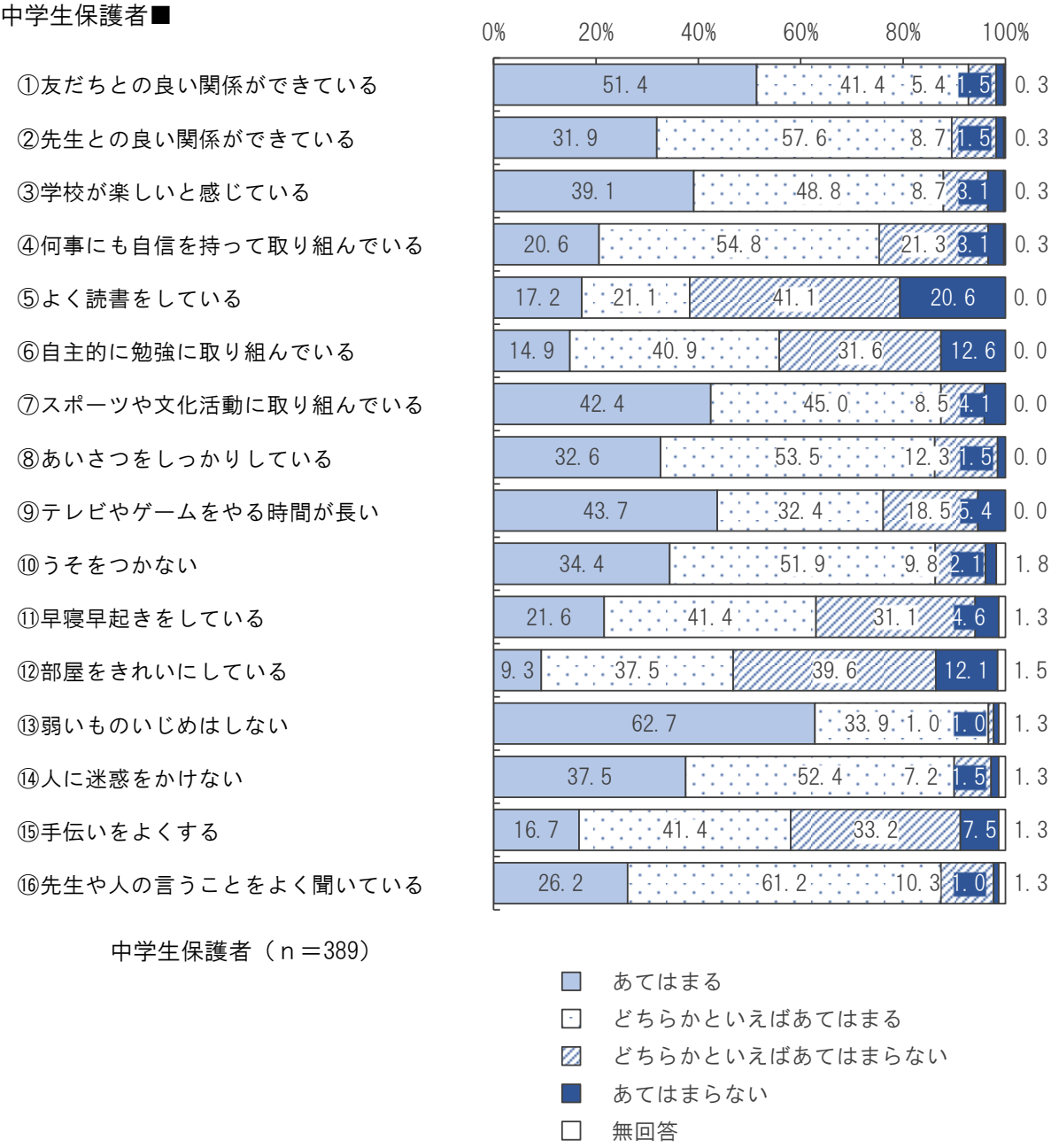
「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』が最も多いのは≪①友だちとの良い関係ができている≫（99.1%）で、≪②先生との良い関係ができている≫（98.9%）、≪③学校が楽しいと感じている≫（94.7%）が続いている。一方で、「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』が最も多いのは≪⑫部屋をきれいにしている≫（46.0%）で、≪⑤よく読書をしている≫（45.1%）、≪⑥自主的に勉強に取り組んでいる≫（41.9%）が続いている。



【小学生保護者】

「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』が最も多いのは≪①友だちとの良い関係ができている≫（94.2%）で、≪⑬弱いものいじめはしない≫（93.9%）、≪③学校が楽しいと感じている≫（91.6%）が続いている。一方で、「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』が最も多いのは≪⑫部屋をきれいにしている≫（51.4%）で、≪⑤よく読書をしている≫（49.6%）、≪⑥自主的に勉強に取り組んでいる≫（43.6%）が続いている。

■中学生保護者■

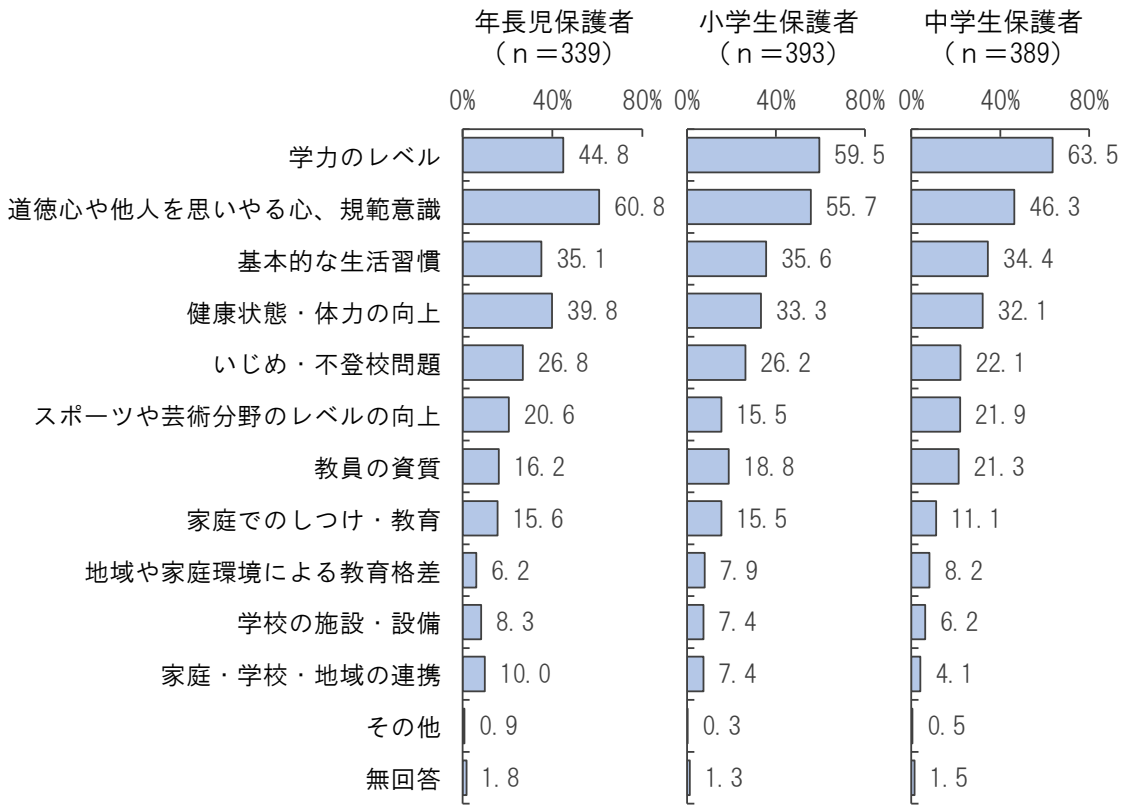


【中学生保護者】

「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』が最も多いのは≪⑬弱いものいじめはしない≫（96.6%）で、≪①友だちといい関係ができている≫（92.8%）、≪⑭人に迷惑をかけない≫（89.9%）が続いている。一方で、「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』が最も多いのは≪⑤よく読書をしている≫（61.7%）で、≪⑫部屋をきれいにしている≫（51.7%）、≪⑥自主的に勉強に取り組んでいる≫（44.2%）が続いている。

【子どもの教育についての関心】

現在、子どもの教育について関心があることはなんですか。（複数回答：３つまで）



【年長児保護者】

「道徳心や他人を思いやる心、規範意識」が 60.8%と最も多く、次いで「学力のレベル」が 44.8%、「健康状態・体力の向上」が 39.8%などとなっている。

【小学生保護者】

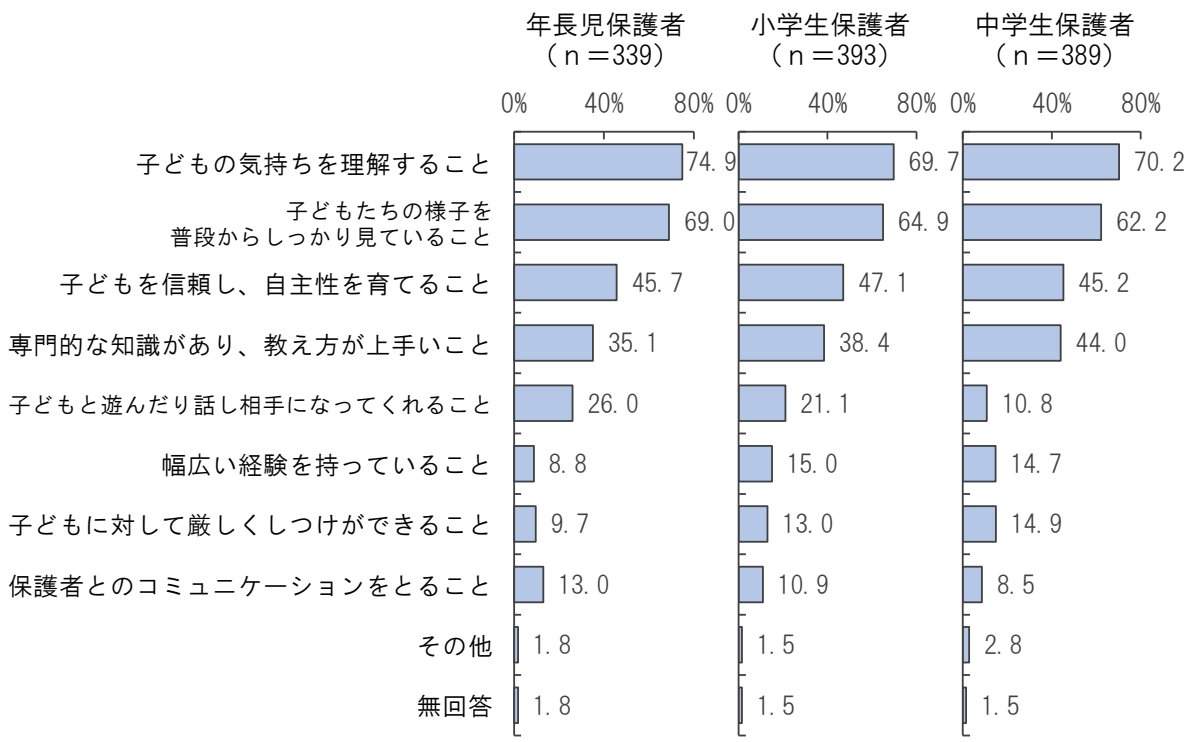
「学力のレベル」が 59.5%と最も多く、次いで「道徳心や他人を思いやる心、規範意識」が 55.7%、「基本的な生活習慣」が 35.6%などとなっている。

【中学生保護者】

「学力のレベル」が 63.5%と最も多く、次いで「道徳心や他人を思いやる心、規範意識」が 46.3%、「基本的な生活習慣」が 34.4%などとなっている。

【学校の教師に期待すること】

学校の教師にどのようなことを期待しますか。（複数回答：３つまで）



【年長児保護者】

「子どもの気持ちを理解すること」が 74.9%と最も多く、次いで「子どもたちの様子を普段からしっかり見ていること」が 69.0%、「子どもを信頼し、自主性を育てること」が 45.7%などとなっている。

【小学生保護者】

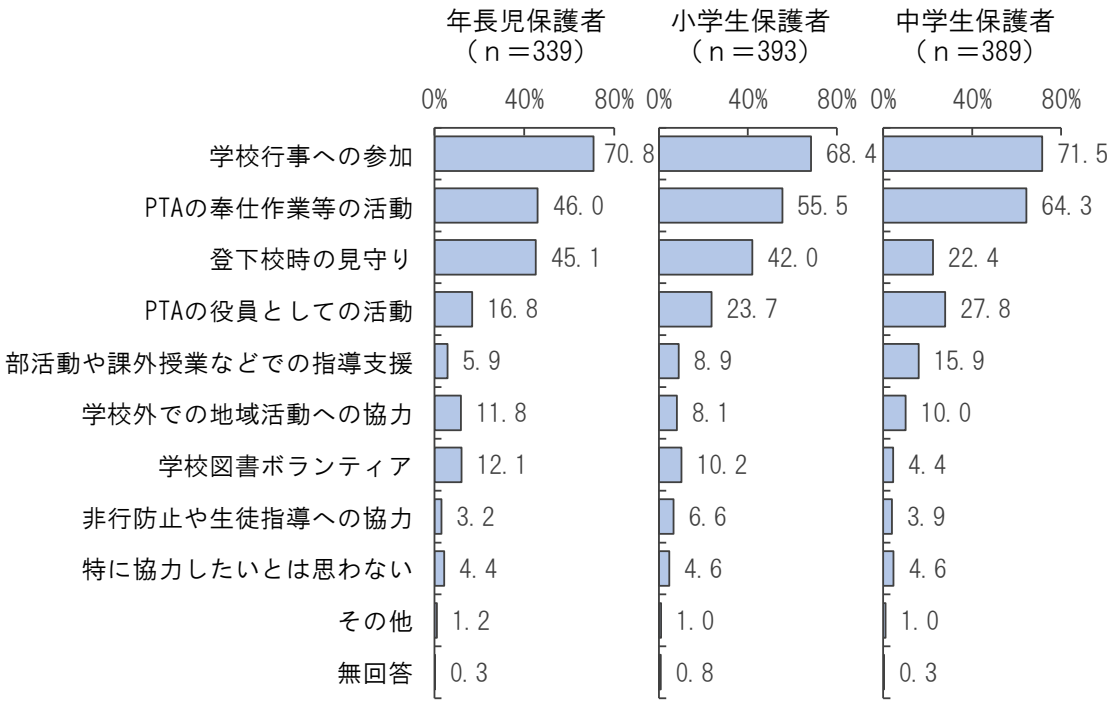
「子どもの気持ちを理解すること」が 69.7%と最も多く、次いで「子どもたちの様子を普段からしっかり見ていること」が 64.9%、「子どもを信頼し、自主性を育てること」が 47.1%などとなっている。

【中学生保護者】

「子どもの気持ちを理解すること」が 70.2%と最も多く、次いで「子どもたちの様子を普段からしっかり見ていること」が 62.2%、「子どもを信頼し、自主性を育てること」が 45.2%などとなっている。

【学校と協力したり参加しても良いと思われること】

お子さんの通っている学校と協力したり、参加しても良いと思われるものはありますか。
（年長児保護者はお子さんが通学予定の学校について回答）（複数回答：３つまで）



【年長児保護者】

「学校行事への参加」が 70.8%と最も多く、次いで「PTA の奉仕作業等の活動」が 46.0%、「登下校時の見守り」が 45.1%などとなっている。

【小学生保護者】

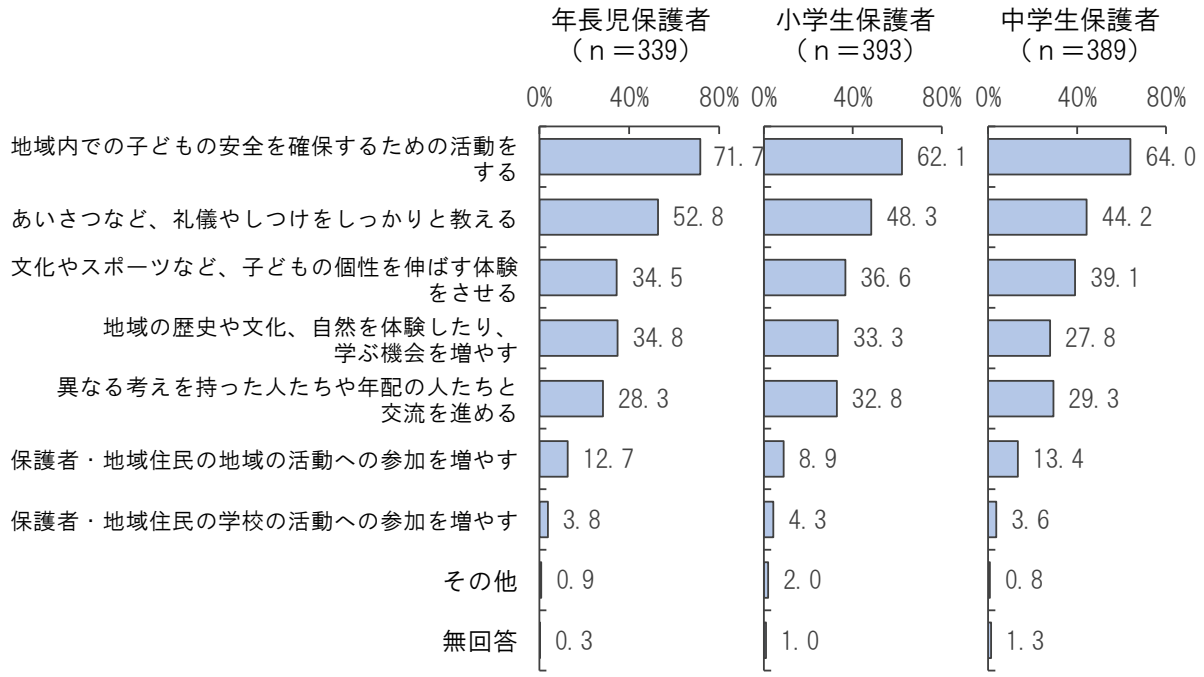
「学校行事への参加」が 68.4%と最も多く、次いで「PTA の奉仕作業等の活動」が 55.5%、「登下校時の見守り」が 42.0%などとなっている。

【中学生保護者】

「学校行事への参加」が 71.5%と最も多く、次いで「PTA の奉仕作業等の活動」が 64.3%、「PTA の役員としての活動」が 27.8%などとなっている。

【子どもを育てるうえで、地域で力を入れるべきこと】

子どもを育てるうえで、地域で力を入れるべきことはどんなことだと思いますか。
（複数回答：３つまで）



【年長児保護者】

「地域内での子どもの安全を確保するための活動をする」が 71.7%と最も多く、次いで「あいさつなど、礼儀やしつけをしっかりと教える」が 52.8%、「地域の歴史や文化、自然を体験したり、学ぶ機会を増やす」が 34.8%などとなっている。

【小学生保護者】

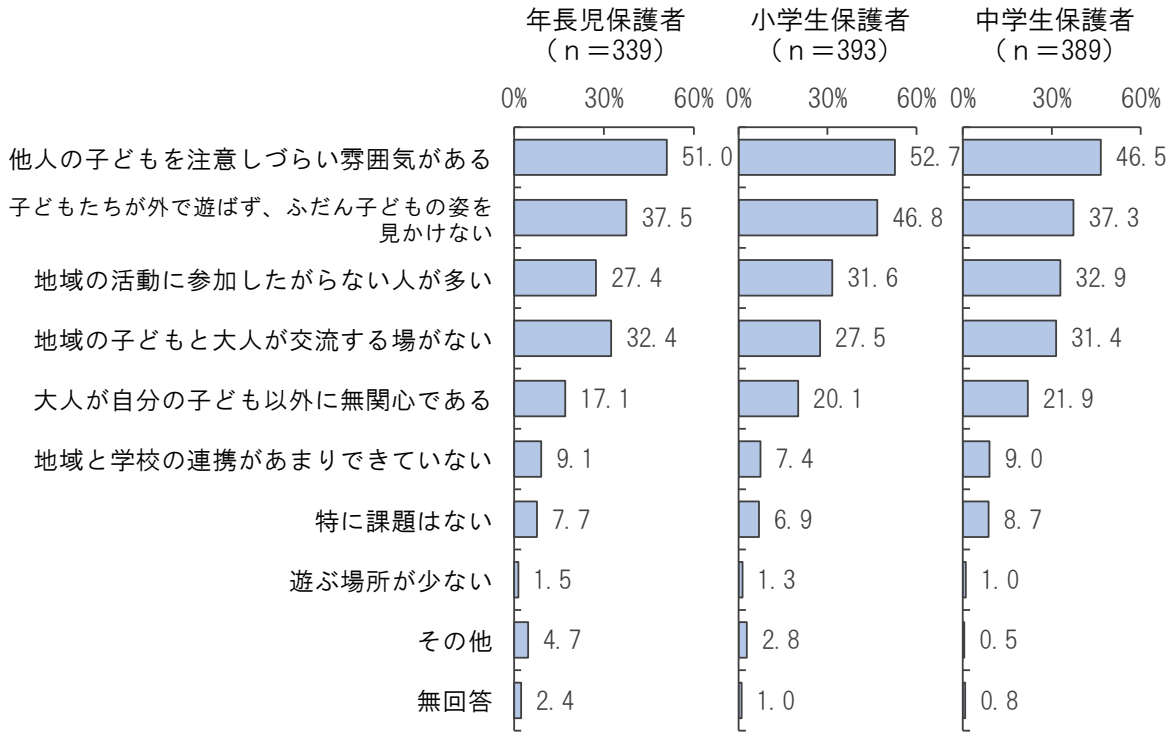
「地域内での子どもの安全を確保するための活動をする」が 62.1%と最も多く、次いで「あいさつなど、礼儀やしつけをしっかりと教える」が 48.3%、「文化やスポーツなど、子どもの個性を伸ばす体験をさせる」が 36.6%などとなっている。

【中学生保護者】

「地域内での子どもの安全を確保するための活動をする」が 64.0%と最も多く、次いで「あいさつなど、礼儀やしつけをしっかりと教える」が 44.2%、「文化やスポーツなど、子どもの個性を伸ばす体験をさせる」が 39.1%などとなっている。

【地域ぐるみ教育についての課題】

地域ぐるみの教育について、どのような課題があると思いますか。（複数回答：３つ）



【年長児保護者】

「他人の子どもを注意しづらい雰囲気がある」が 51.0%と最も多く、次いで「子どもたちが外で遊ばず、ふだん子どもの姿を見かけない」が 37.5%、「地域の子どもと大人が交流する場がない」が 32.4%などとなっている。

【小学生保護者】

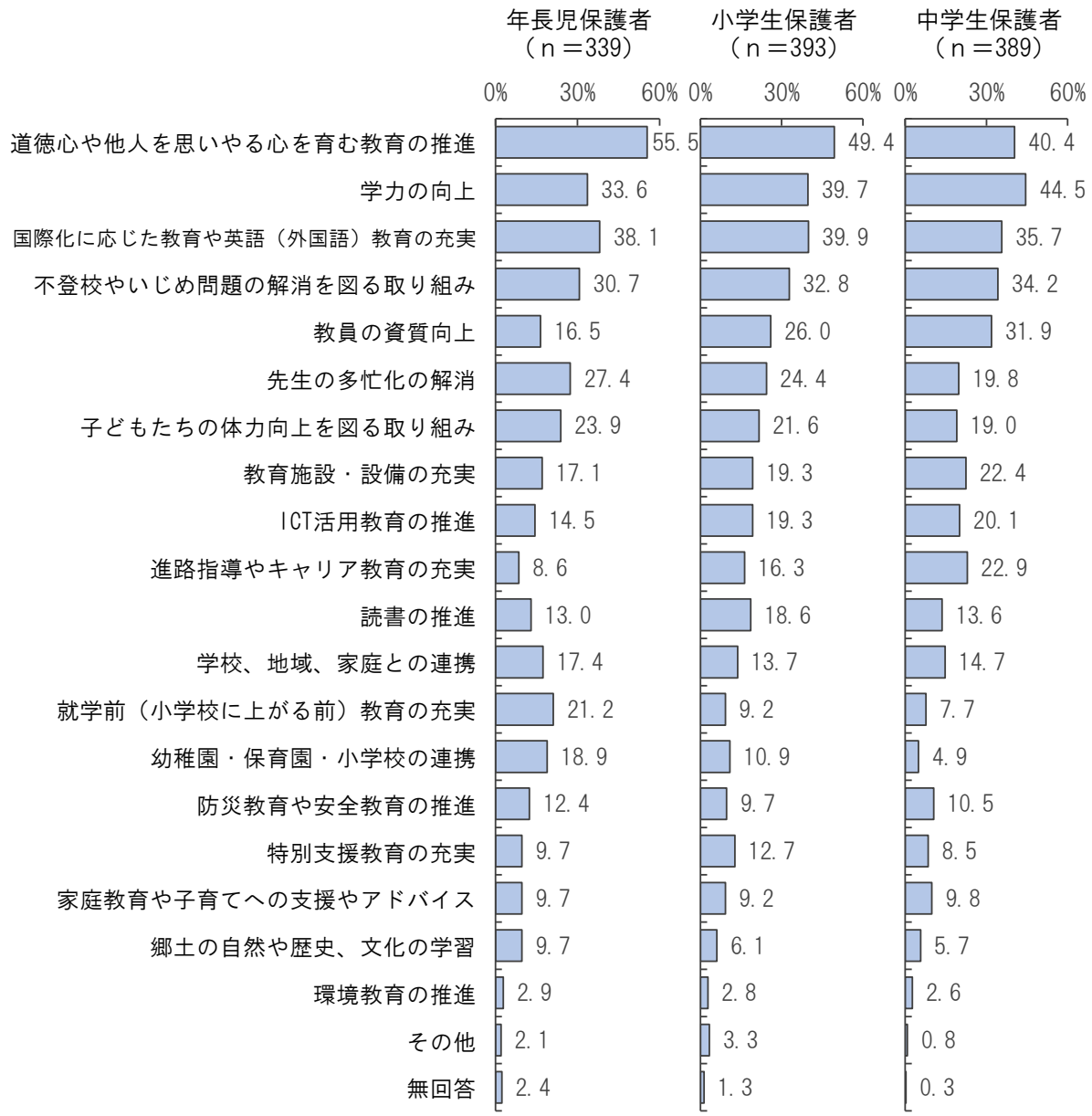
「他人の子どもを注意しづらい雰囲気がある」が 52.7%と最も多く、次いで「子どもたちが外で遊ばず、ふだん子どもの姿を見かけない」が 46.8%、「地域の活動に参加したがらない人が多い」が 31.6%などとなっている。

【中学生保護者】

「他人の子どもを注意しづらい雰囲気がある」が 46.5%と最も多く、次いで「子どもたちが外で遊ばず、ふだん子どもの姿を見かけない」が 37.3%、「地域の活動に参加したがらない人が多い」が 32.9%などとなっている。

【重要だと思う教育施策】

裾野市が取り組む教育施策として、いずれの施策が重要だと思いますか。（複数回答：５つまで）



【年長児保護者】

「道徳心や他人を思いやる心を育む教育の推進」が 55.5%と最も多く、次いで「国際化に応じた教育や英語（外国語）教育の充実」が 38.1%、「学力の向上」が 33.6%などとなっている。

【小学生保護者】

「道徳心や他人を思いやる心を育む教育の推進」が 49.4%と最も多く、次いで「国際化に応じた教育や英語（外国語）教育の充実」が 39.9%、「学力の向上」が 39.7%などとなっている。

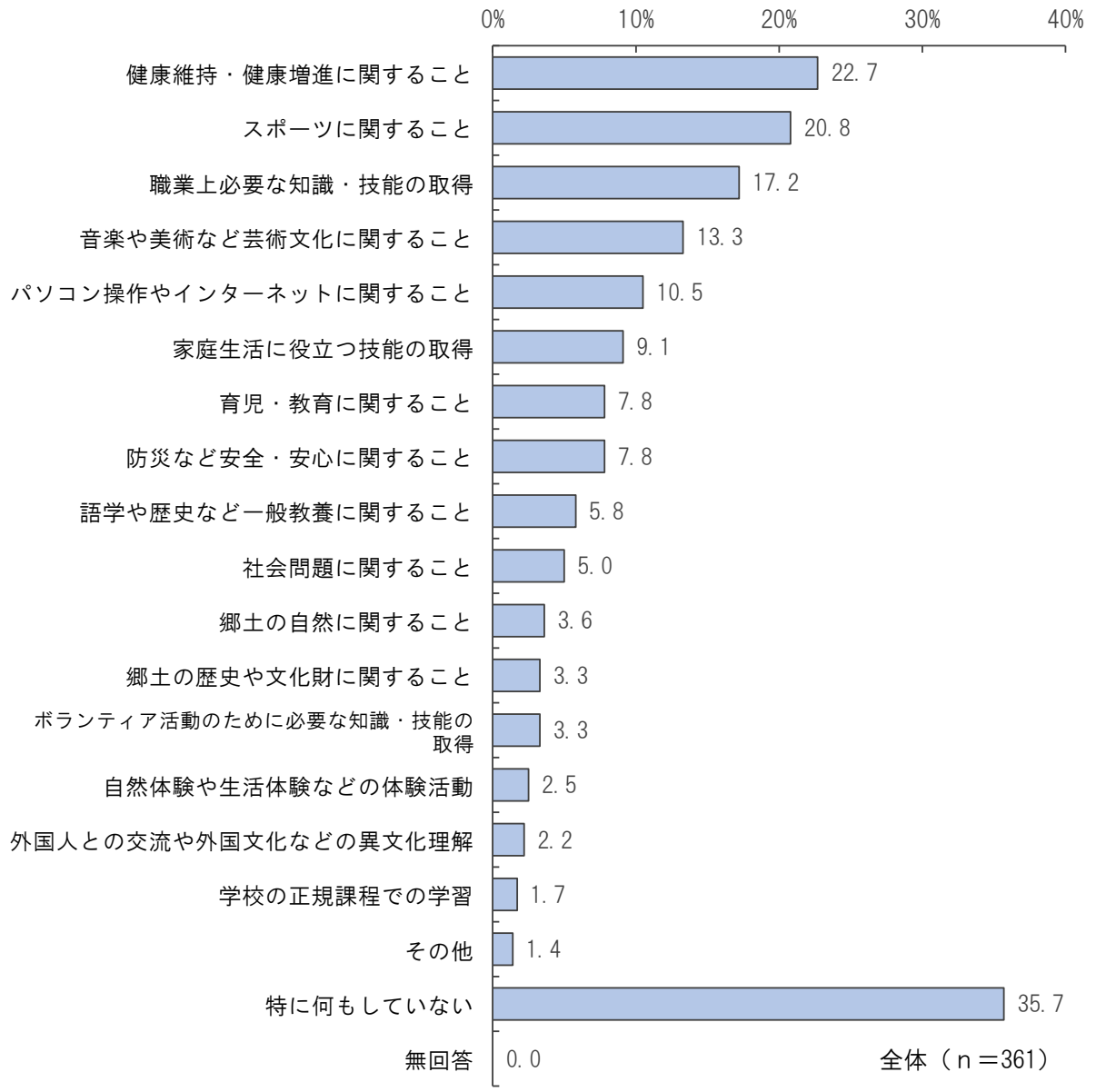
【中学生保護者】

「学力の向上」が 44.5%と最も多く、次いで「道徳心や他人を思いやる心を育む教育の推進」が 40.4%、「国際化に応じた教育や英語（外国語）教育の充実」が 35.7%などとなっている。

③一般市民

【現在行っている学習、活動】

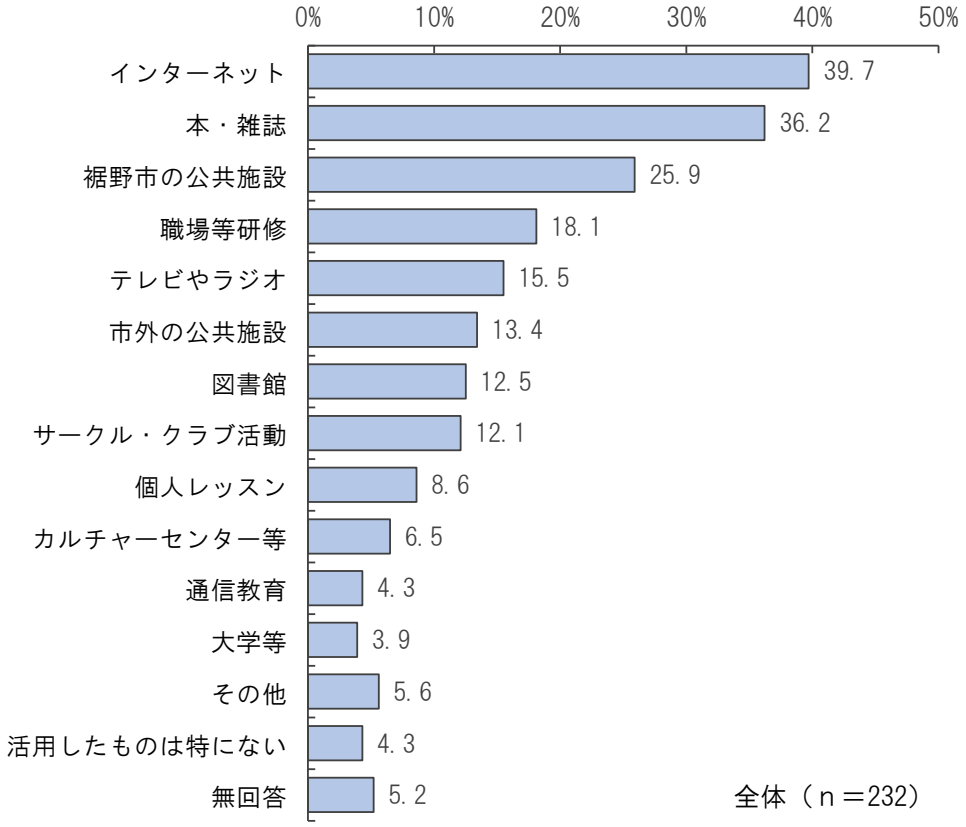
あなたは今どのような学習や活動をしていますか。（複数回答）



行っている学習、活動は、「特に何もしていない」が 35.7%と最も多く、次いで「健康維持・健康増進に関すること」が 22.7%、「スポーツに関すること」が 20.8%などとなっている。

【学習や活動に活用したもの】

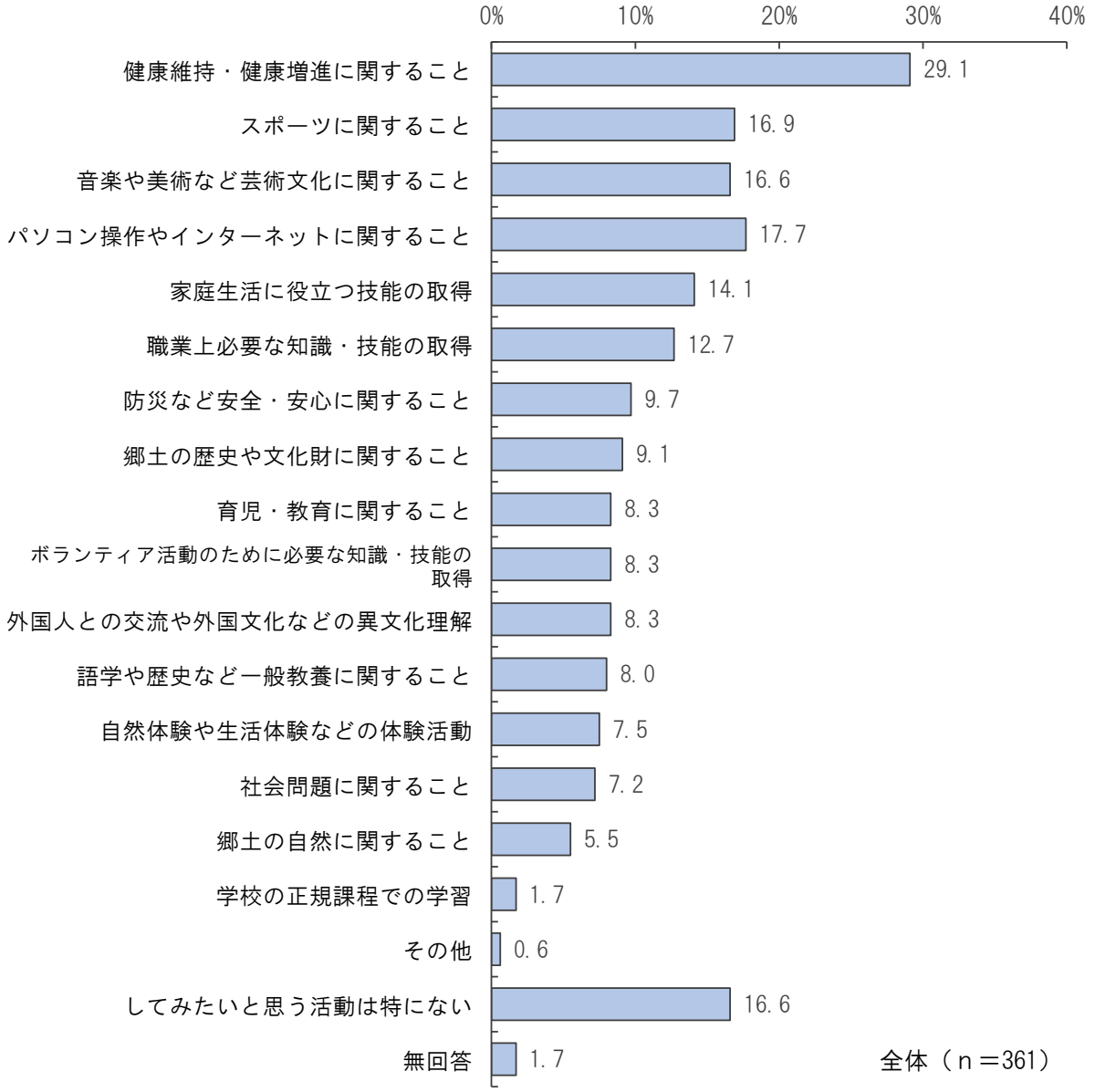
（前問で「学習や活動をしている」と回答した方のみ）
学習や活動をしている方は何を活用しましたか。（複数回答）



学習や活動に活用したものは、「インターネット」が 39.7%と最も多く、次いで「本・雑誌」が 36.2%、「裾野市の公共施設」が 25.9%などとなっている。

【今後行ってみたい学習、活動】

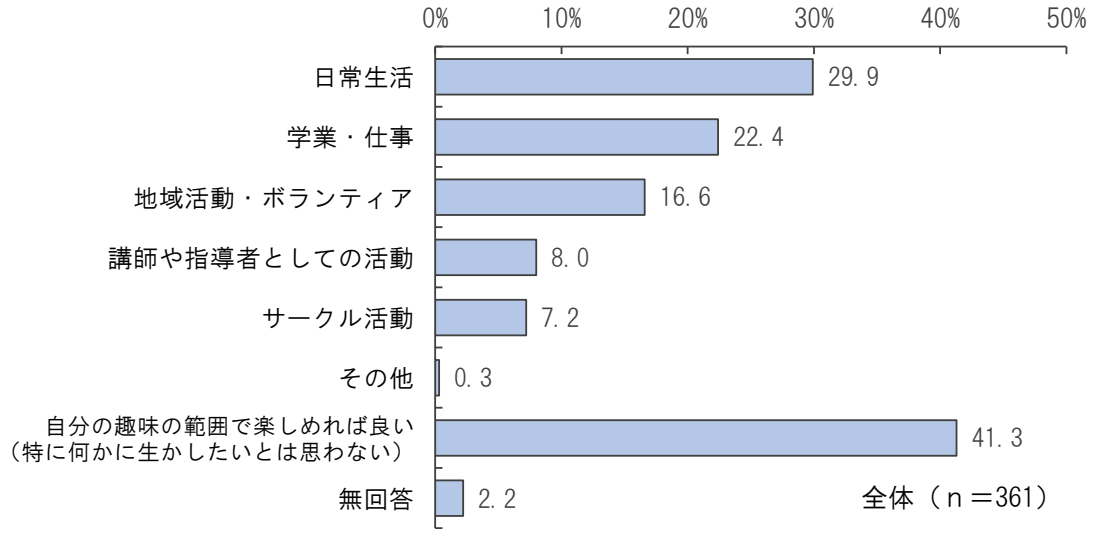
今後、どのような学習や活動をしてみたいと思いますか。（複数回答：３つまで）



今後行ってみたい学習、活動は、「健康維持・健康増進に関すること」が 29.1％と最も多く、次いで「パソコン操作やインターネットに関すること」が 17.7％、「スポーツに関すること」が 16.9％などとなっている。

【知識や技能などの生かし方】

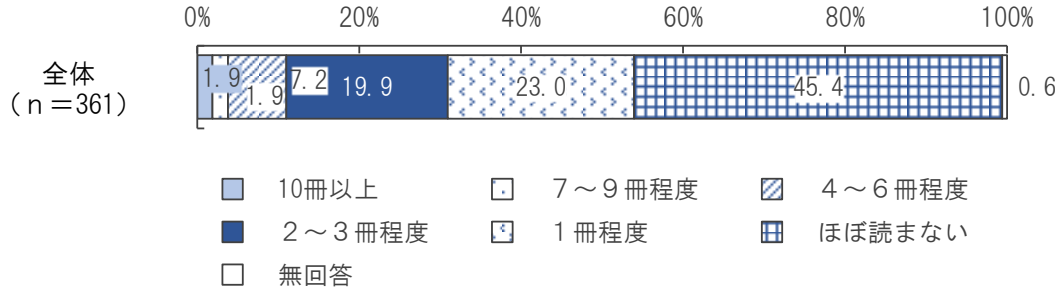
これまで学習して身につけてきた知識や技能などを何かに生かしてみたいと思いますか。（複数回答）



知識や技能などの生かし方は、「自分の趣味の範囲で楽しめれば良い（特に何かに生かしたいとは思わない）」が 41.3%と最も多く、次いで「日常生活」が 29.9%、「学業・仕事」が 22.4%などとなっている。

【１か月あたりに読む本の数】

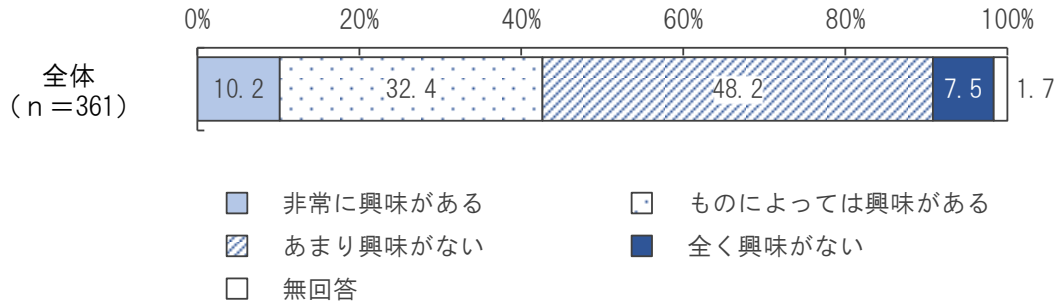
あなたは電子書籍を含め１か月におよそ何冊ぐらい本を読みますか。（単数回答）



読書をする頻度は、「ほぼ読まない」が 45.4%と最も多く、次いで「１冊程度」が 23.0%、「２～３冊程度」が 19.9%などとなっている。

【郷土の歴史や文化についての興味】

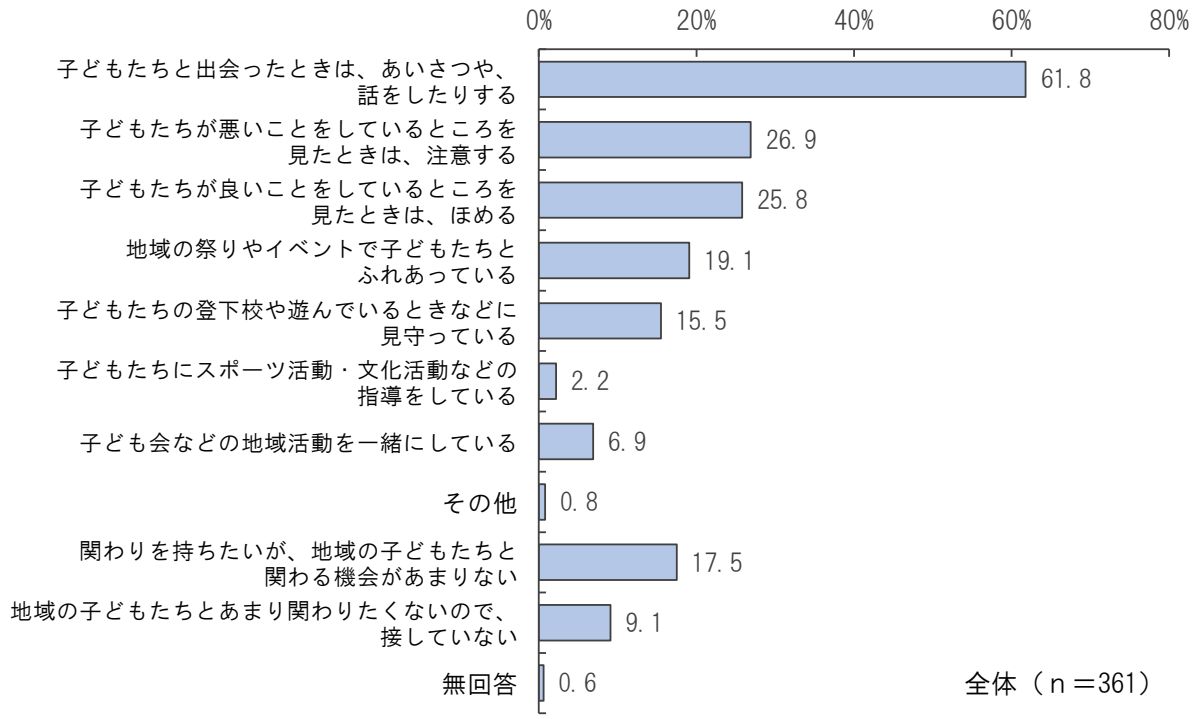
あなたは郷土の歴史や文化に興味がありますか。（単数回答）



郷土の歴史や文化についての興味は、「あまり興味がない」が 48.2%と最も多く、次いで「ものによっては興味がある」が 32.4%、「非常に興味がある」が 10.2%などとなっている。

【地域の子どもたちへの接し方】

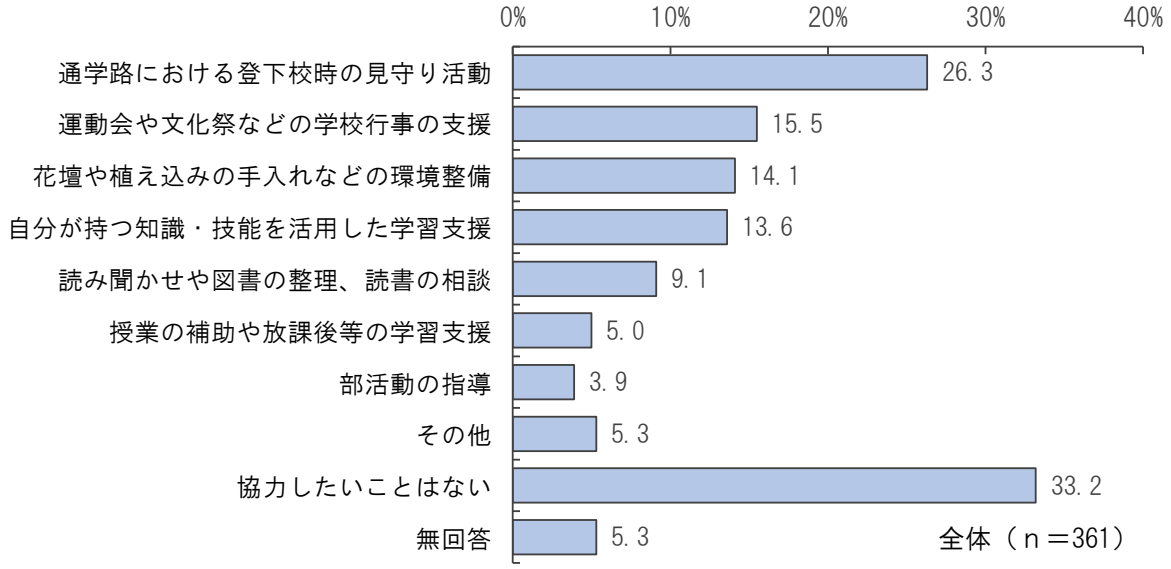
地域の子どもたちとどのように接していますか。（複数回答）



地域の子どもたちへの接し方は、「子どもたちと出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」が 61.8%と最も多く、次いで「子どもたちが悪いことをしているところを見たときは、注意する」が 26.9%、「子どもたちが良いことをしているところを見たときは、ほめる」が 25.8%などとなっている。

【学校に対して協力してみたいと思うこと】

学校に対して協力してみたいと思うことは何ですか。（複数回答）

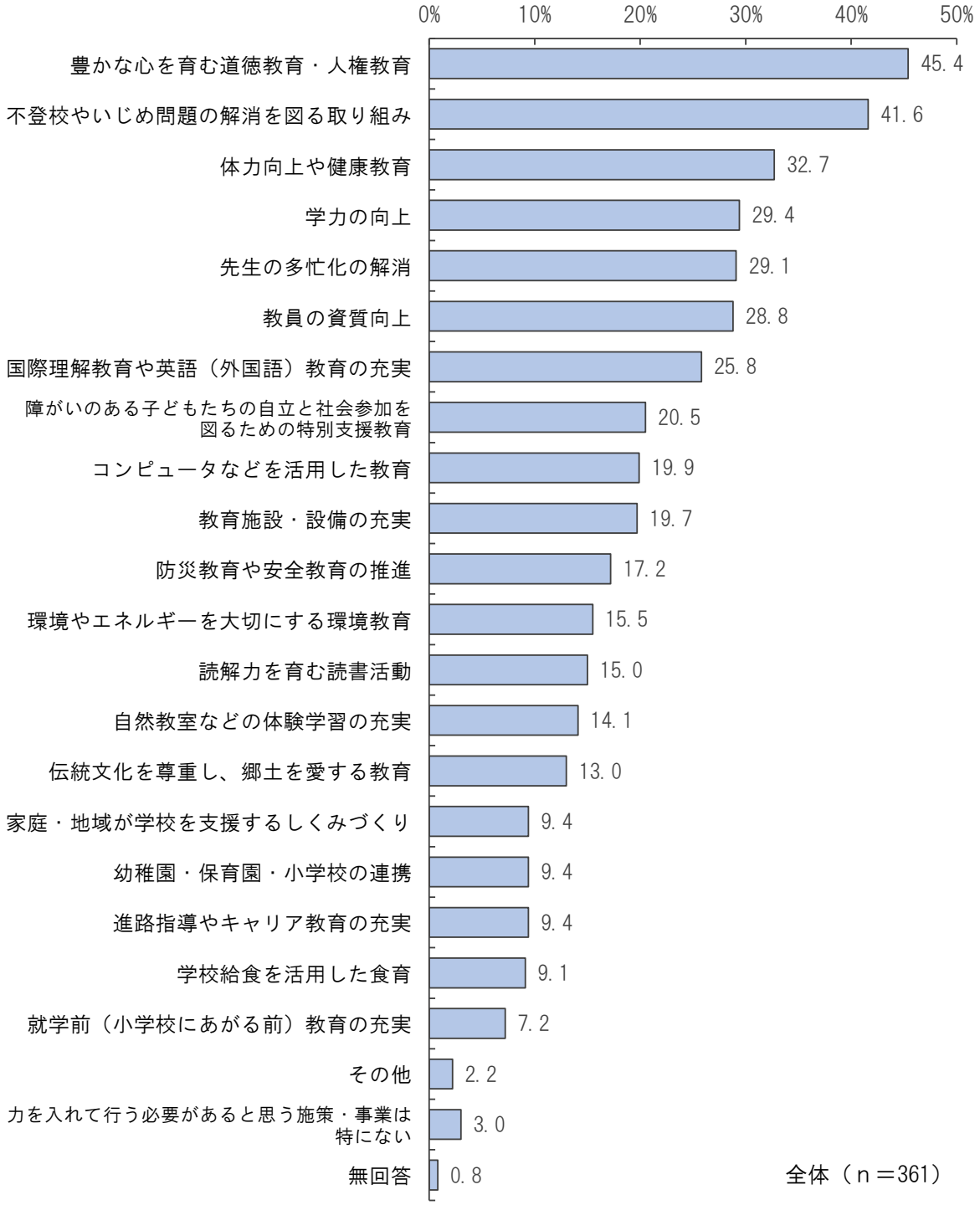


学校に対して協力してみたいと思うことは、「協力したいことはない」が 33.2%と最も多く、次いで「通学路における登下校時の見守り活動」が 26.3%、「運動会や文化祭などの学校行事の支援」が 15.5%などとなっている。

【裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業】

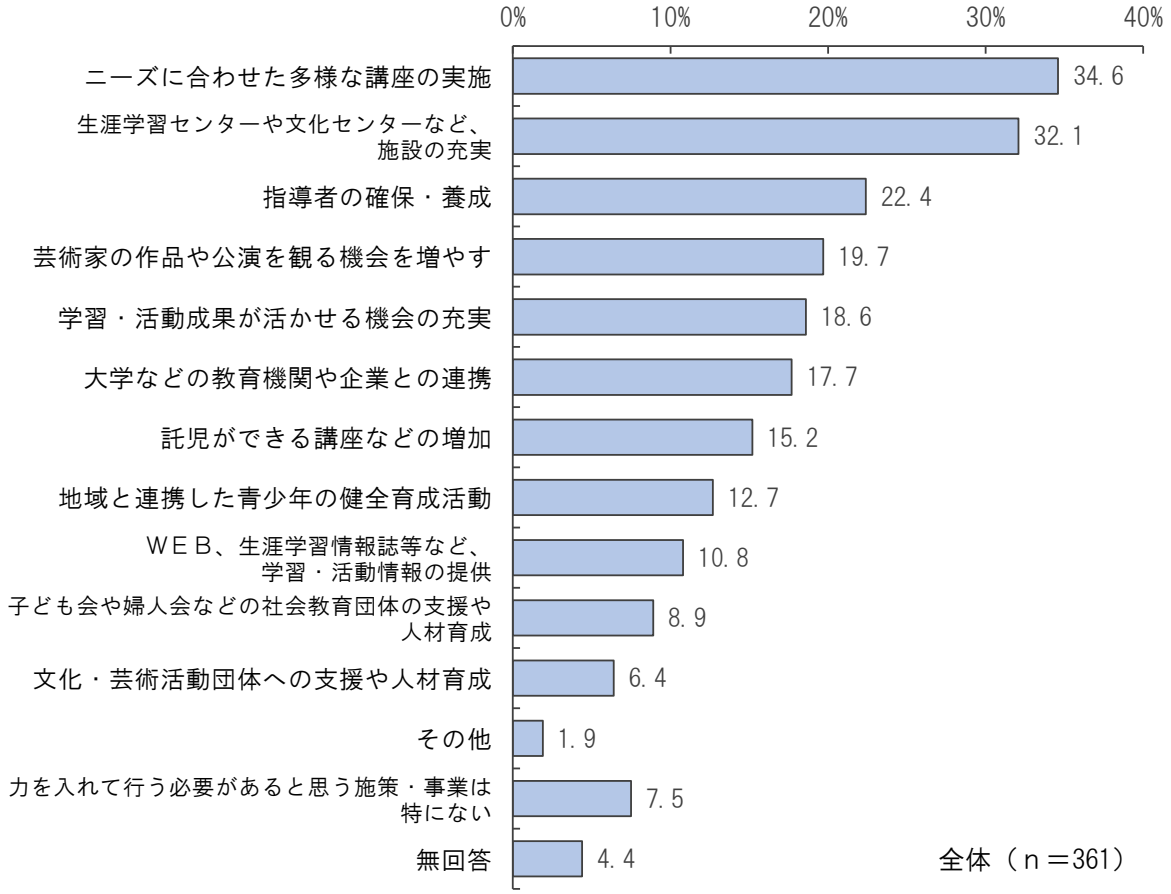
裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業は何ですか。学校教育、生涯学習、スポーツ活動について、それぞれご回答ください。

１　学校教育について（複数回答：５つまで）



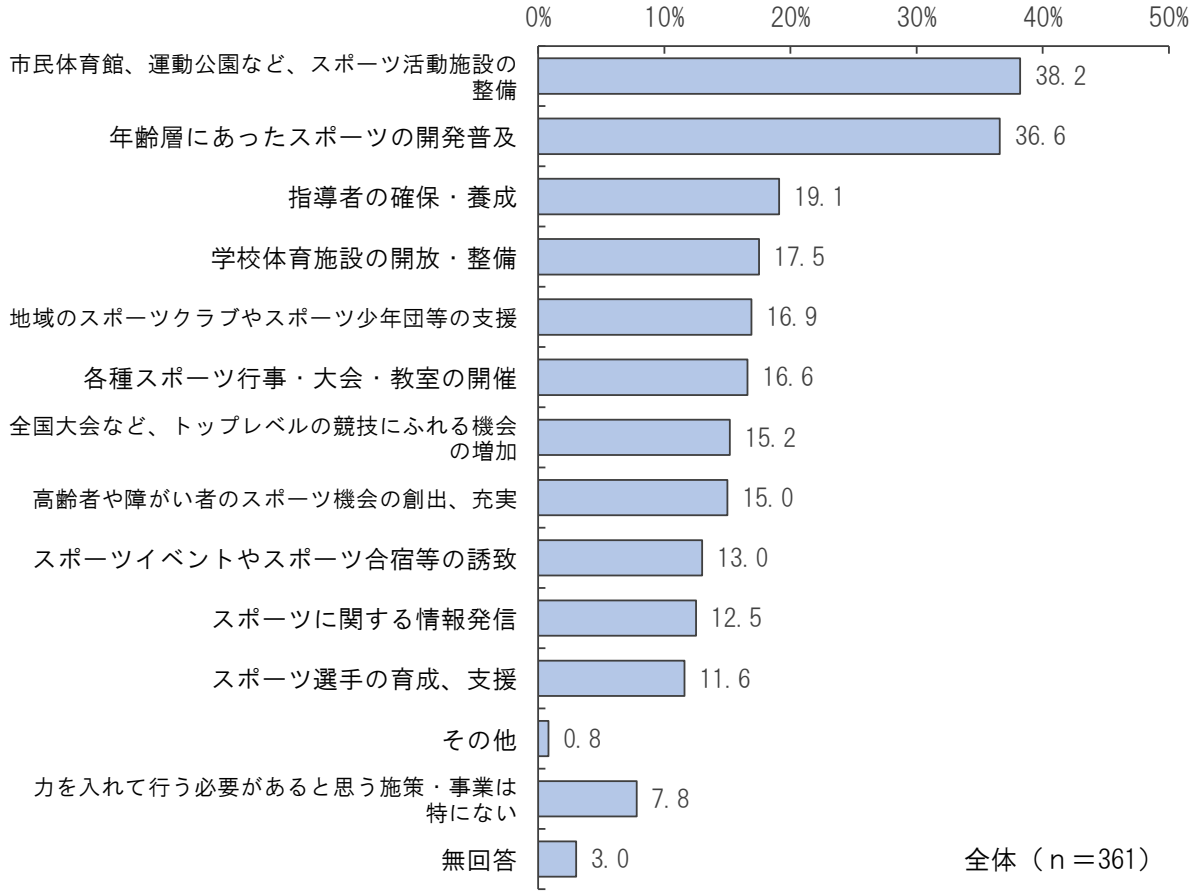
裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業（学校教育）は、「豊かな心を育む道徳教育・人権教育」が 45.4%と最も多く、次いで「不登校やいじめ問題の解消を図る取り組み」が 41.6%、「体力向上や健康教育」が 32.7%などとなっている。

裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業は何ですか。学校教育、生涯学習、スポーツ活動について、それぞれご回答ください。
２　生涯学習について（複数回答：３つまで）



裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業（生涯学習）は、「ニーズに合わせた多様な講座の実施」が 34.6%と最も多く、次いで「生涯学習センターや文化センターなど、施設の充実」が 32.1%、「指導者の確保・養成」が 22.4%などとなっている。

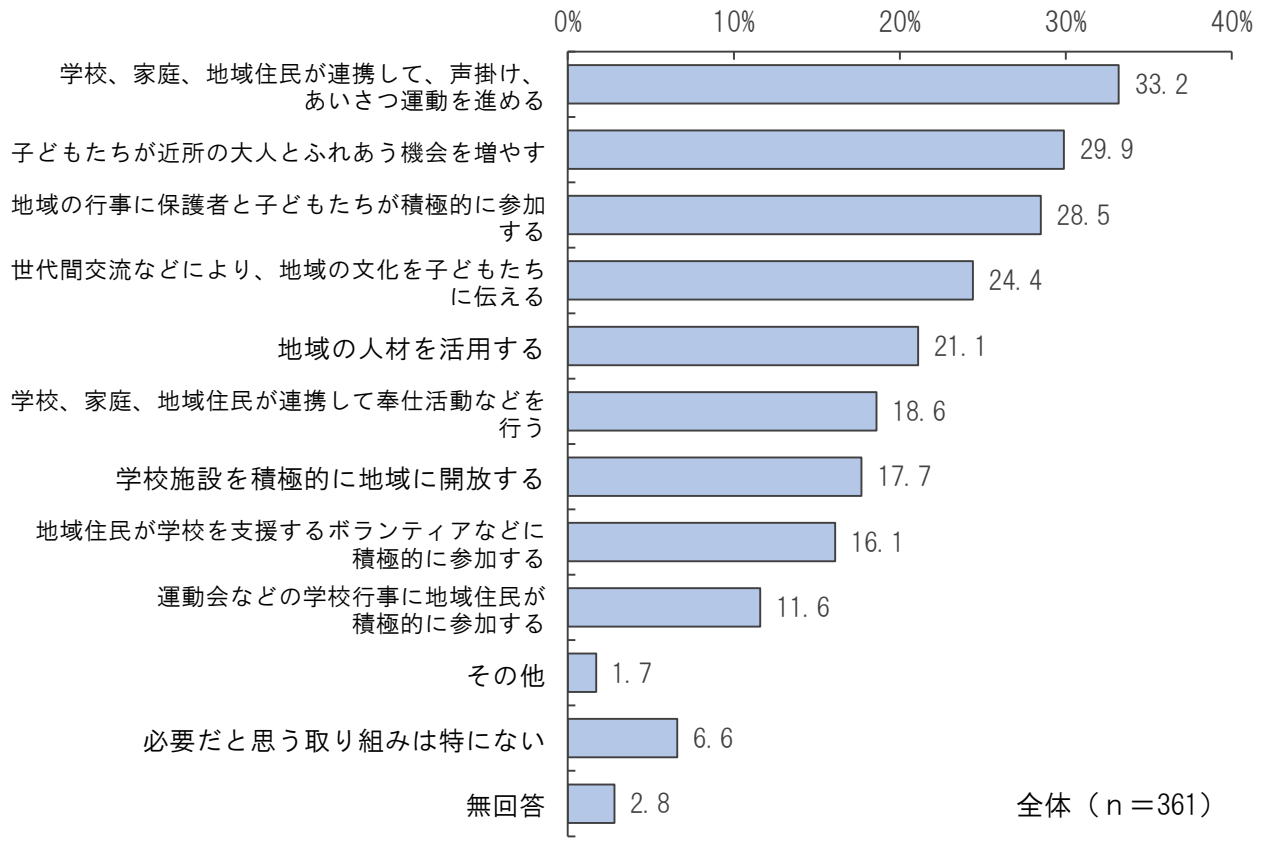
裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業は何ですか。学校教育、生涯学習、スポーツ活動について、それぞれご回答ください。
３　スポーツ活動について（複数回答：３つまで）



裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業（スポーツ活動）は、「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」が 38.2%と最も多く、次いで「年齢層にあったスポーツの開発普及」が 36.6%、「指導者の確保・養成」が 19.1%などとなっている。

【社会全体の教育力を高めるために必要だと思う取り組み】

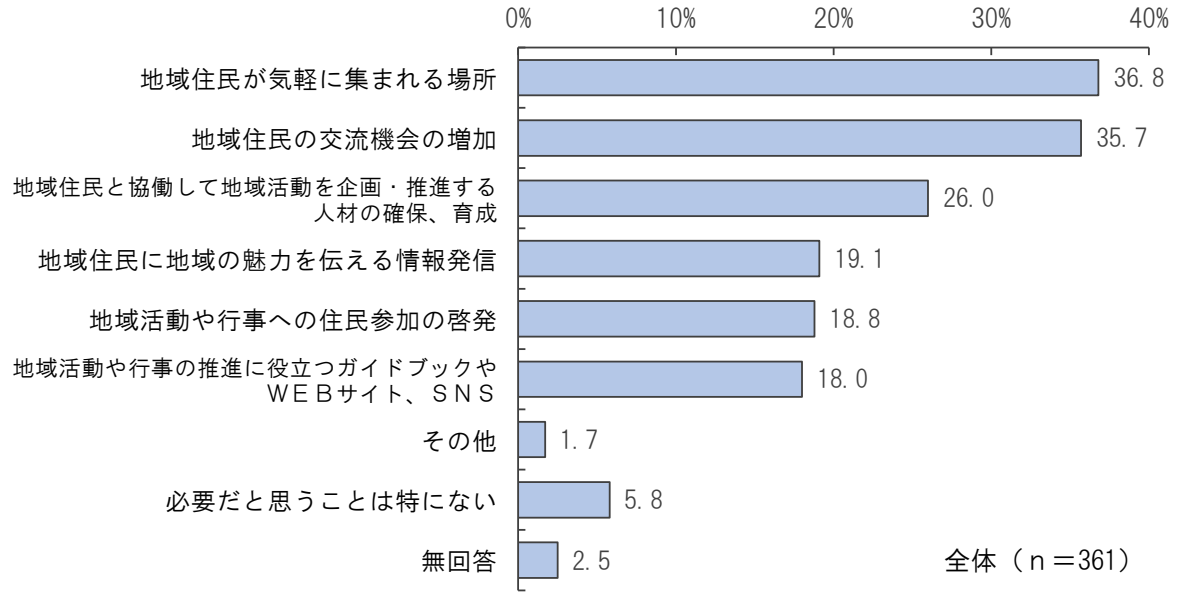
学校・地域・家庭の連携により社会全体の教育力を高めるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。（複数回答：３つまで）



社会全体の教育力を高めるために必要だと思う取り組みは、「学校、家庭、地域住民が連携して、声掛け、あいさつ運動を進める」が 33.2%と最も多く、次いで「子どもたちが近所の大人とふれあう機会を増やす」が 29.9%、「地域の行事に保護者と子どもたちが積極的に参加する」が 28.5%などとなっている。

【地域住民のつながりを広げるために必要だと思うこと】

地域をより良くするためには人と人のつながりが大切です。地域住民のつながりを広げるためには何が必要だと思いますか。（複数回答：２つまで）



地域住民のつながりを広げるために必要だと思うことは、「地域住民が気軽に集まれる場所」が36.8%と最も多く、次いで「地域住民の交流機会の増加」が35.7%、「地域住民と協働して地域活動を企画・推進する人材の確保、育成」が26.0%などとなっている。

第２期裾野市教育振興基本計画策定の経緯

	会議等の名称	検討内容
令和元年 ９月 19 日 10 月 10 日	裾野市教育に関するアンケート（児童生徒・保護者） 裾野市教育に関するアンケート（市民）	◆9 月 19 日～10 月 4 日実施 ◆10 月 10 日～10 月 20 日実施
令和２年 ５月	第１回裾野市教育振興基本計画検討委員会（書面開催）	◆第１期裾野市教育振興基本計画の現状と課題
６月 30 日	第２回裾野市教育振興基本計画検討委員会	◆計画の体系 ◆第１期裾野市教育振興基本計画の成果と課題、今後の取組について
８月 ４日	第３回裾野市教育振興基本計画検討委員会	◆第１期裾野市教育振興基本計画の成果と課題、今後の取組について
９月 ８日	第４回裾野市教育振興基本計画検討委員会	◆重点施策、基本施策、指標案について
10 月 12 日	第５回裾野市教育振興基本計画検討委員会	◆指標案、計画原案について
11 月 27 日	第６回裾野市教育振興基本計画検討委員会	◆パブリックコメント前計画案について
12 月 10 日	パブリックコメント実施	◆12 月 10 日～1 月 12 日
令和３年 １月 26 日	第７回裾野市教育振興基本計画検討委員会	◆計画案の検討
２月 ２日	総合教育会議	◆裾野市の教育の大綱協議
２月 24 日	定例教育委員会	◆第２期裾野市教育振興基本計画策定

第２期裾野市教育振興基本計画検討委員会名簿（敬称略、順不同）

	氏　　名	選　　出
1	村山　功（委員長）	学識経験者／静岡大学大学院教育学研究科教授
2	湯山　芳健（副委員長）	学識経験者
3	三浦　靖幸	学識経験者
4	土屋　八重子	学識経験者／社会教育委員会代表
5	髙橋　伸至	学識経験者／スポーツ推進審議会代表
6	佐藤　孝子	学識経験者／文化財保護審議会代表
7	横山　碧	保護者代表
8	池谷　淳子	保護者代表
9	渡邊　清	中学校教職員の代表／西中学校校長
10	山中　なほみ	小学校教職員の代表／東小学校校長
11	勝又　直江	幼稚園職員の代表／須山幼稚園園長
12	小野島　洋子	公募
13	荻田　和彦	公募

裾野市学校教育情報化推進計画

令和３年３月

Ⅰ　趣旨

Society5.0 時代を生きる子どもたちにとって、教育におけるＩＣＴを基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められており、令和時代のスタンダードな学校像を実現するためのＧＩＧＡ※スクール構想が令和元年度、国から示されました。

このＧＩＧＡスクール構想の実現に向けて、これからを担う児童生徒に１人１台のコンピュータ端末を整備し学校教育の情報化をさらに促進させ、授業や校務の改善を行うことで児童生徒の学力向上を図ります。本計画は学校教育の情報化の推進に関する施策を推進し、これからの社会を担う児童生徒の育成に質することを目的として策定しました。

※ＧＩＧＡ＝Global and Innovation Gateway for All の略

Ⅱ　計画期間

令和３年度～令和７年度

Ⅲ　基本方針

１.授業における基本方針

授業でのＩＣＴ活用については、操作が得意な教員や興味のある教員に限定されており、全ての教員による日常的な活用までに至っていません。１人１台の端末整備により、特別な支援を必要とする児童生徒を含め、多様な子どもたちに対して個別最適化された指導ができることから、端末の導入に合わせて授業の見直しを行います。また、不登校の児童生徒に対する支援や学校の臨時休業措置等が行われた場合にも、ＩＣＴの活用により学びを止めないための学習支援を行います。

２.校務における基本方針

校務のＩＣＴ化による教職員の業務負担の軽減を図り、教育の質の向上を図るとともに、教職員の事務負担の軽減を図ることで、児童生徒と向き合う時間を確保します。学習履歴や指導に必要な情報のシステム化により、きめ細かな児童生徒の理解・指導・評価の充実を目指します。保護者等への積極的な情報発信を行うため、学校ホームページ等積極的に活用します。

Ⅳ　基本施策

１．学校のＩＣＴ機器整備・活用

1)　ＩＣＴ機器整備

令和元年 12 月閣議決定された、ＧＩＧＡスクール構想の実現をするため、学校現場のＩＣＴ環境整備を進めていたが、新型コロナウイルスによる感染症拡大の影響により、国は緊急経済対策の中でＧＩＧＡスクール構想を前倒し実施。本市は児童生徒の１人１台端末を早急に整備するとともに、周辺ＩＣＴ機器の整備も最大限に生かし児童生徒の学びを保障できるものとする。

実施内容	R2	R3	R4	R5	R6	R7
端末１人１台整備		OS：Google Chrome・ＬＴＥ回線				
電子黒板・プロジェクター各校１台以上・各普通教室大型モニター整備						

①　教育委員会における取組

○　小学校１年生から中学校３年生、指導用の端末を１人１台整備する。ＯＳはＧＩＧＡスクール構想準備委員会により決定された Google Chrome とする。

○　支障なく学習環境を提供するためＬＴＥ回線を導入する。

○　国の「教育のＩＣＴ化に向けた環境整備５か年計画（2018～2022 年度）」の目標としている水準に合わせ、大型提示装置、あるいは実物投影機を各普通教室に１台、特別教室用として６台整備する。

②　学校における取組

○　市教育委員会と連携し、ＩＣＴ機器活用を推進する。

２．情報活用能力の育成について

1)　情報活用能力等の資質・能力の育成のためのカリキュラム・マネジメント

児童生徒の発達の段階を考慮し、コミュニケーション能力（言語能力）、情報活用能力、 問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成・実施を図る。

実施内容	R2	R3	R4	R5	R6	R7
意図的・計画的な活用能力の育成		各校での意図的・計画的実践				
情報活用能力育成カリキュラムの開発			研究指定校			

① 教育委員会における取組

○ 情報活用能力については、小中学校が連携してＩＣＴ機器を活用して意図的・計画的に育成が図られるよう、校長による経営計画及び教育課程に明記し、年間指導計画等に位置付けるよう各校に指導・助言を行う。

○ 児童生徒の発達段階に応じたＩＣＴ機器を活用した資質・能力の育成のための教員向けの指導書を作成し情報提供を行う。

○ ＩＣＴ機器を活用した、小中学校の９か年の情報活用能力のカリキュラム（学習プログラム）を研究指定校（令和３～５年度）により開発を進め、その成果を全校に広げる。

② 学校における取組

○ ＩＣＴ機器を活用して情報活用能力等の資質・能力の育成を意図的・計画的に実施するため、経営計画の立案及び小中学校が連携した教育課程の編成を行う。

○ 児童生徒の実態を踏まえ発達段階や教科のねらい等を達成するとともに、ＩＣＴ機器を活用した資質・能力を育成する授業づくりを展開する。

2) 情報モラル教育について

情報社会では、一人一人が情報化の進展が生活に及ぼす影響を理解し、情報に関する問題に適切に対処し、積極的に情報社会に参加しようとする創造的な態度が大切である。誰もが情報の送り手と受け手の両方の役割を持つようになるこれからの情報社会では、情報がネットワークを介して瞬時に世界中に伝達され、予想しない影響を与えてしまうことや、対面のコミュニケーションでは考えられないような誤解を生じる可能性も少なくない。このような情報社会の特性を理解し、情報化の影の部分に対応し、適正な活動ができる考え方や態度が必要となってきている。そこで、学習指導要領では、「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」を「情報モラル」と定め、各教科の指導の中で身につけさせることとしている。

実施内容	R2	R3	R4	R5	R6	R7
情報モラル教育の教員研修	基本は市内での集合研修　各校での伝達講習も実施					
情報モラル教育における家庭・地域との連携		保護者会　公開授業等での啓発				

① 教育委員会における取組

○ 各校で、「端末使用のルール」や「ＳＮＳルール」などの見直しを促し、計画的な指導を行うよう指導・助言する。

○ 教職員に関して、市（県）が主催する集合研修において、コミュニケーションツールの使い方、著作権、肖像権等について理解を深められるように毎年研修を行う。

○ 各校で保護者会や授業公開日等において、保護者や地域の方に、情報モラル教育を広く知らせる場を設定し、学校と保護者との連携を深める家庭における適切な使用ができるように保護者にも周知していく。

○　情報モラル教育について、小中学校が連携してＩＣＴ機器を活用した学習のモデルカリキュラムを開発する。

②　学校における取組

○　児童生徒の実態に応じて「端末使用のルール」や「ＳＮＳルール」を見直し、策定する。

○　警察等の公的機関や携帯電話会社等の民間企業をはじめ、外部機関と積極的に連携し、情報モラル教育についての教材研究を行ったり、各校における「ＳＮＳルール」について理解を深めたりして、教員の資質を高める研修を行う。

○　保護者会や授業公開日等において、情報モラル教育について、家庭・ 地域に情報発信を行い、理解を促進する。

○　情報モラル教育について、小中学校が連携してＩＣＴ機器を活用した学習の教材研究を行う。

３．教科指導におけるＩＣＴ活用について

1)　主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

児童生徒１人１台の端末の学習環境を生かし、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進する。学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性の涵養」、生きて働く「知識・技能の習得」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」といった、これからの社会に必要となる資質・能力を育成する。また、端末を効果的に活用し、これからの社会に必要となる資質・能力の育成についての実践・研究を行う。

実施内容	R2	R3	R4	R5	R6	R7
日常的なＩＣＴの活用と授業改善		各校での研修　研究指定校による授業公開				
情報活用能力の育成		育成カリキュラムの作成と各校への展開				

①　教育委員会における取組

○　日常的なＩＣＴの活用と授業改善

- ＩＣＴを活用するために特別な授業を行うのではなく、普段の授業にＩＣＴ機器を取り込み、活用の工夫に限らず、授業全体の改善を意識した取り組みを目指す。

○　一斉学習、個別学習、協働学習

- 授業における効果的な活用を目指すために、段階的な活用をしていく。

1	「一斉学習」の中で大型提示装置等の活用により、教科書や資料のポイントを大きく映すことにより児童生徒の興味関心を高め、教職員自身がＩＣＴ活用の効果を実感することでより多くの場面でのＩＣＴ活用を促す。

2	デジタルコンテンツ、学習定着ソフト等の活用により、児童生徒が疑問について調べたり、自分に合った進度で学んだりする「個別学習」の場面で活用する。
3	授業支援ソフトを活用し、児童生徒がお互いの考え方の共有や吟味を行いつつ、意見交換や発表を行う「協働学習」の場面でＩＣＴを活用し、お互いを高め合う学びを推進していく。

○　主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進する。また、授業での探求プロセスにおける様々な場面において、ＩＣＴを効果的に活用することで、各教科等での学びをつなぐ。

○　個々の教員の創意工夫により実践されている効果的なＩＣＴ機器の活用事例を市内の学校に周知し普及する。

○　学校が有する児童生徒の状況に関する様々な情報を分析し、小中学校が共有するとともに課題やその解決策を可視化し、基礎的な学力の定着や進路実現に向けた学力の伸長といった児童生徒一人一人の状況に応じて最適化する。

②　学校における取組

○　端末を活用し、「児童生徒が自ら必要な情報を集めて課題を解決する」、「コミュニケーションを通した学び合いを実現する」、「自分の学力や興味・関心に応じた問題に繰り返し取り組む」など、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行い、個に応じた多様な学習を行う。

○　学習履歴等のデータを活用し、学びの個別最適化を行い、小中学校が連携した指導を行う。

2)　教育機会を確保するためのＩＣＴ活用

不登校や療養中など特別な支援が必要な児童生徒に対して、それぞれの学習ニーズに応じたきめ細かい教育を受ける機会を確保するための学習支援を実施する。また、外国人児童生徒などの日本語指導が必要な児童生徒に対し、個々のニーズに合わせた教育支援を目指す。

実施内容	R2	R3	R4	R5	R6	R7
家庭や学校外でのＩＣＴ活用 （臨時休業中の対応）			個別最適化された学び			
諸事情により学校に通えない児童生徒への学習機会の提供			学習機会の提供			
校外、遠隔地を含む他地域との交流学習			コミュニケーションツールの活用			

① 教育委員会における取組

○ 学校休業期間に限らず、日々の端末の持ち帰りについて検討し、できるだけ早い段階で実現できるように推進する。ＬＴＥ回線となるので、家庭でのＷｉ－Ｆｉ環境は不問とする。家庭における適切な使用ができるように保護者にも周知していく。

○ ＩＣＴ機器を活用して、諸事情により学校に通えない児童生徒への学習機会を検討し、提供する。（教育支援センターでの使用を可能とする）

○ 学校外での使用や遠隔地との交流学習において、ＩＣＴ機器を活用するための必要なシステム設定を行い、活用方法を習得するための研修を行う。

② 学校における取組

○ 一日２単位時間を目安にウェブ会議システム（Google meet 等）を利用し、同時双方向の遠隔・オンライン教育の実施を目指す。併せて、学習支援ソフト(ミライシード等)を活用し課題の配信・回収・返却を行う。

○ 可視化されたデータを活用し、個々の児童生徒に応じて、ＩＣＴ機器を活用した教材や支援機器の効果的な活用を行う。

○ 端末の持ち帰りを推進し、家庭学習の計画を立てる。

○ 不登校の児童生徒への支援にも配慮し、一人一人の学びの保障について検討する。他の児童生徒と同様に課題等を配付し、担任とのつながりを大切にする。

○ 小中の連携に限らず、小小、中中の連携が容易となることから、交流の在り方について検討し、積極的にＩＣＴを活用する。

3) 教職員のＩＣＴ指導力向上

情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータ等の情報手段を適切に活用した学習活動を充実することや、個に応じた指導の充実を図る際に、情報手段を活用することが求められていることから、教職員のＩＣＴ活用指導力の向上を図る。

実施内容	R2	R3	R4	R5	R6	R7
情報化を推進する中核的なリーダー育成と校内研修の推進		市内のリーダー研修と校内研修の充実				
学校教育課等による、ＩＣＴ活用研修の充実			課題別研修　担当者研修			

① 教育委員会における取組

○ 校長会、教頭会、教務主任会、生徒指導研修会、研究主任（学力向上担当者）会、ＩＣＴ担当者会等において、教育の情報化に関する情報発信を図り、理解を深める。また、ＩＣＴを活用したオンラインによる運営を積極的に進める。

○ 学校教育課等により、ＩＣＴ活用研修や課題別研修、担当者研修を行う。

○ 大学の研究者や外部の有識者と連携し、研修をより効果的に実施する。

○　授業支援ソフトの活用により各学校における使用実績を把握し、使用頻度が少ない学校については実態に合わせた研修やＩＣＴ支援員を活用していく。

○　毎年実施するＩＣＴ活用指導力調査の結果を踏まえて、教職員を対象とした研修（県および市主催）を実施する。

②　学校における取組

○　情報化を推進する中核的なリーダーを育成し、校内研修の推進を行う。

○　市、県が主催するＩＣＴ活用研修への参加をする。

○　校長連絡会等、学校間の情報交換においては　ＩＣＴを活用したオンラインでの運用を積極的に進める。

※参考資料

文部科学省が実施している教育の情報化の実態調査（平成３１年３月１日現在）によれば、静岡県の学校における教職員のＩＣＴ活用指導力の状況（「わりにできる」、「ややできる」の割合）は以下の通り。

調査項目	静岡県	全国平均	全国順位
教材研究・指導の準備・評価・校務などにＩＣＴを活用する能力	84.5%	86.2%	３６位
授業にＩＣＴを活用して指導する能力	64.9%	69.7%	３９位
児童生徒のＩＣＴ活用を指導する能力	65.3%	70.2%	４１位

４．特別支援教育におけるＩＣＴ活用

1)　障害の特性に応じた活用

個別最適化された学びとは、文部科学省が目指すべき次世代の学校・教育現場として掲げた教育のスタイルを指す。

一人一人の理解状況や能力・適正に合わせた個別最適化された学びを行うことで、発達障害を持つ子どもや日本語指導が必要な子ども、特異な才能を持つ子どもなど多様な子どもたちが誰一人取り残されることがないようにすることが目的である。この新たな教育の技術革新は、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子どもたちの可能性も大きく広がる。

実施内容	R2	R3	R4	R5	R6	R7
ＩＣＴの特性や強みを生かした学習機会の提供			個別最適化された学び			

① 教育委員会における取組

○ 適切な教材の活用や児童生徒の特性に合った支援機器等を使用し、学びにくさを補うためのＩＣＴ機器の環境整備を行う。その障害の状態や経験等に応じて、適切な補助入力装置やソフトウェア（アプリ）の選択が必要である。

○ 小中学校の連携により特別支援学級、通級指導教室、教育支援センター等でのＩＣＴ機器を効果的に活用した学習の充実を図る。担当教員への研修を効果的に実施する。

② 学校における取組

○ 適切な教材の活用や児童生徒の特性に合った支援機器等を使用し、学びにくさを補うためのソフトウェアの環境整備を行う。

○ 個々の児童生徒が、学習を進める上でどのような困難があり、どのような支援を行えばその困難を軽減できるかという視点から授業改善を行う。

５．学校におけるＩＣＴ環境整備について

1） 学校情報セキュリティの確保

学校情報セキュリティ対策は学校及び児童生徒、保護者のプライバシーを守るため、学校経営、校務の安定的な処理の上からも必要不可欠である。個人情報及び学校運営上の重要な教育情報を保護し、適切に管理・運用するための対策を整備する。

実施内容	R2	R3	R4	R5	R6	R7
教育委員会、各学校における教育情報セキュリティポリシーの設定			見直し後に運用			
端末等のＩＣＴ機器の取り扱い方の指導			端末使用のルール等の指導			

① 教育委員会における取組

○ 「裾野市情報セキュリティ対策に関する規程」を基準とした、「裾野市学校教育情報セキュリティポリシー」を策定し、教育関係者が遵守すべきセキュリティの基本理念を共有する。

○ 児童生徒を有害情報から守り、被害を予防するために、端末へのフィルタリングを設定する。

○ 端末使用のルールを作成し、児童生徒への指導、保護者への周知の仕方について、各校へ指導・助言する。

② 学校における取組

○ 「裾野市学校教育情報セキュリティポリシー」に基づき、個人情報の移動と運用について実施手順を策定し、校内の個人情報についての情報漏洩を防ぐ。

○ 学習活動に必要なデータの整理とデータの移行を行う。

○　服務の厳正とともに、校内ＯＪＴ等の研修を活用して、教職員のセキュリティに対する意識を高める。
○　児童生徒に対して端末使用のルールについて徹底し、保護者にも家庭内での指導をお願いする。

2)　教育の情報化を推進、支援する体制の充実

学校のＩＣＴ環境整備については、情報セキュリティ面も含めて関係部局と連携して計画していくことが重要である。なお、ネットワーク、機器等の保守管理は教育委員会が行い、学校や教職員に負担がかからないよう配慮する。

実施内容	R2	R3	R4	R5	R6	R7
教育委員会及び学校の管理職の役割			教育の情報化推進			
ＩＣＴ支援員をはじめとした外部人材など、外部資源の活用				人材活用		

①　教育委員会における取組

○　校長会等において、情報発信を行い、組織的にＩＣＴの利活用を進める。
○　学校との連携を密にし、校務支援システム等の利活用を進める。
○　協働学習ツールや個別ドリル学習ツール、コミュニケーションツール、デジタル教科書等を整備する。
○　インターネット検索や適切なフィルタリングができるようシステム構築を行う。
○　外部人材の活用を促進し、授業や研修の充実を図る。
○　ＩＣＴ支援員を配置し、授業支援、校務支援、環境整備、校内研修等のサポートを行う。
○　１人１台の端末整備と併せ、ＩＣＴを活用した授業に必要となる周辺機器を各教室に整備する。周辺機器の整備により、授業の準備・展開などの負担軽減を図る。

②　学校における取組

○　オンラインによる校内放送が可能となる。映像配信等により委員会活動やクラブ活動の充実を図る。
○　地域学校協働本部等を通じて、外部人材など外部資源の活用を行う。

第２期裾野市教育振興基本計画

発行　令和３年３月
編集　裾野市教育委員会
〒410-1192　静岡県裾野市佐野 1059 番地
TEL：055-995-1837　　FAX：055-995-1866